

講 義 案 内

—平成 28 年度—

弘 前 大 学 大 学 院
人 文 社 会 科 学 研 究 科

目 次

1. 平成28年度人文社会科学研究科行事予定・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の講義等の内容	
2. 1. 共通科目 特別研究 プロジェクト研究 導入科目 総合科目 大学院共通科目・・・・・・・・・・	2
2. 2. 文化科学専攻 専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・	37
2. 3. 応用社会科学専攻 専門科目・・・・・・・・・・	118
3. 修士論文について・・・・・・・・・・・・・・・・	187
4. 専修免許状の教科に関する科目表・・・・・・・・・・	189
○人文社会科学研究科規程・長期履修学生に関する取扱要項・別表・・・・・・・・	198

平成28年度人文社会科学研究科行事予定

学期	行 事	日 程
前 期	春 季 休 業 新入生へのガイダンス 入 学 式 前期授業開始 前期・後期履修科目届提出期限 (主指導教員・副指導教員決定) 開 学 記 念 日 修士論文提出期限(9月修了) 修士論文副査推薦締切(9月修了) 修士論文審査委員(主査・副査)決定 (9月修了) 期末試験並びに前期授業終了 夏 季 休 業 成績提出期限 「論文審査及び最終試験報告書」提出期限 (9月修了) 9月修了認定会議 新入生(秋季入学者)へのガイダンス 秋季学位記授与式	4月 1日(水)～4月 7日(木) 4月 4日(月) 予定 4月 5日(火) 4月 8日(金) 4月21日(木) 5月31日(火) 6月20日(月) 午後5時 6月20日(月) 7月13日(水) 研究科委員会 8月 4日(木) 8月 5日(金)～9月30日(金) 8月18日(木) 午後5時 8月18日(木) 9月21日(水) 9月29日(木) 予定 9月30日(金)
後 期	秋季入学式 後期授業開始 後期履修科目届提出期限(秋季入学者) 総合文化祭に伴う休講 総合文化祭 総合文化祭に伴う休講 授 業 終 了 修士論文提出期限 修士論文副査推薦締切 冬 季 休 業 授 業 再 開 大学入試センター試験設営に伴う休講 修士論文審査委員(主査・副査)決定 期末試験並びに後期授業終了 学 年 末 休 業 成績提出期限 「論文審査及び最終試験報告書」提出期限 修了認定会議 学位記授与式	10月 3日(月) 10月 3日(月) 10月17日(月) 10月21日(金) 10月21日(金)～10月23日(日) 10月24日(月) 12月26日(月) 12月26日(月) 午後5時 12月26日(月) 12月27日(火)～1月4日(水) 1月 5日(木) 1月13日(金) 1月18日(水) 研究科委員会 2月10日(金) 2月11日(土)～3月31日(金) 2月17日(金) 午後5時 2月17日(金) 3月 1日(水) 3月23日(木)

注 ※1：10月25日(火)は、月曜日の授業を行う。

※2：12月22日(木)は、金曜日の授業を行う。

2. 授業科目の講義等の内容

2. 1. 共通科目・特別研究・プロジェクト研究

導入科目・総合科目・大学院共通科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるので、事前に担当教員に確認すること。

	2. 1. 1 総合文化社会研究コース	2. 1. 2 地域人材育成コース	2. 1. 3 国際人材育成コース
共通科目	北東北研究	北東北研究	北東北研究
特別研究	特別研究Ⅰ・Ⅱ	特別研究Ⅰ・Ⅱ	特別研究Ⅰ・Ⅱ
プロジェクト研究		プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ	プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ
導入科目	美術史 考古学 宗教学・民俗学	地域雇用 地域経済 地域企業	国際関係 国際経済・経営 海外事情
	哲学 倫理学 文芸基礎論	社会調査設計 量的調査分析 質的調査分析	日本事情 日本社会 日本経済
	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学	美術史 考古学 宗教学・民俗学	美術史 考古学 宗教学・民俗学
	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学
	経済学 経営学 法学	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論
	地域雇用 地域経済 地域企業	経済学 経営学 法学	経済学 経営学 法学
	社会調査設計 量的調査分析 質的調査分析		
総合科目	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法
大学院共通科目	エネルギーと環境	エネルギーと環境	エネルギーと環境

授 業 科 目 名		北東北研究			
担 当 教 員		山田厳子・関根達人・渡辺麻里子・保田宗良・李永俊			
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・1・2限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】人文社会科学研究科での研究を進める出発点として、多様な課題に対する積極的な関心を獲得すること。					
【授業の概要】 青森県を含む北東北の歴史、文化、社会、現代的課題について積極的な関心を深めてもらうため、多分野の教員により意欲的かつ清新な視点からの講義を展開する。					
【授業内容予定】 山田厳子 北東北の修験と祭祀 巫女と近現代 オシラ神信仰の現在 関根達人 北東北の縄文遺跡群 弥生～古代の北東北 中世の北東北 渡辺麻里子 北東北の義経伝説 岩木山と山椒大夫 北東北の仏教 保田宗良 北東北の主要商店街 地域の成長企業 会社四季報から学ぶ 李 永俊 北東北の労働市場の現状と課題 東京に出る若者たち 有効な地域雇用政策について					
【教材・テキスト】 なし。教員がレジュメなどを用意する。					
【参考文献】 講義時に各担当教員から指示される。					
【成績評価の方法および採点基準】 8割以上の回に出席の上、5人の教員が提示する課題のうちいずれか一つを選びレポートを提出					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】それぞれの教員のシラバスのオフィス・アワーの項を参照。					

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ・Ⅱ				
担 当 教 員					
学 期		曜日・時限		単位	8 単位
【授業の概要】 特別研究Ⅰ：1年次に履修すること。修士論文などの作成に必要な基本的・理論的知識と技能について広く指導する。専門領域及び研究テーマに関連する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実地調査の進め方等について指導しながら、研究課題と対象とその方法について焦点を明確化していく能力を養成する。 特別研究Ⅱ：2年次に履修すること。修士論文などのテーマを明確に設定し、これに即したより具体的な調査研究と分析の方法について助言指導するとともに、研究結果の総合化、論証の弱い部分の補強など、執筆の方法も含めて論文として説得力のあるものに仕上げるための指導を行う。 研究倫理に関する指導：特別研究Ⅰ・Ⅱを通して、研究活動の社会的意義、研究活動における不正行為の防止、その他、研究倫理に関わる諸問題について理解を深めるための指導を行う。					

授 業 科 目 名	プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ				
担 当 教 員					
学 期		曜日・時限		単位	6 単位
【授業の概要】 プロジェクト研究Ⅰ：1年次に履修すること。個別課題報告書などの作成に必要な基本的・理論的知識と技能について広く指導する。専門領域及び研究テーマに関連する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実地調査の進め方等について指導しながら、研究課題と対象とその方法について焦点を明確化していく能力を養成する。 プロジェクト研究Ⅱ：2年次に履修すること。個別課題報告書などのテーマを明確に設定し、これに即したより具体的な調査研究と分析の方法について助言指導するとともに、研究結果の総合化、論証の弱い部分の補強など、執筆の方法も含めて論文として説得力のあるものに仕上げるための指導を行う。 研究倫理に関する指導：プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱを通して、研究活動の社会的意義、研究活動における不正行為の防止、その他、研究倫理に関わる諸問題について理解を深めるための指導を行う。					

授 業 科 目 名	美術史				
担 当 教 員	須藤弘敏・足達薫				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 5/6	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 国内外の美術史の諸問題を専門的に研究し，修士論文を執筆するために必要な能力（文献資料の読解および視覚的作例の分析等）をマスターすること。					
【授業の概要】 国内外の美術史を取り上げ，その諸問題を演習形式により考察する。文献資料の読解および視覚的作例の分析を通じて，美術史研究の基礎を身につける。					
【授業内容予定】 受講希望者の専門領域および関心に応じて，東洋・日本美術史，西洋美術史のいずれかを対象として開講する。受講希望者は，第1回目の授業開始前に指導教員に受講希望を申し出ること。それを踏まえて当該学期の開講形態および担当教員を決める。 受講者には，文献資料の読解を中心とする発表が毎回義務付けられる。以下の内容を適宜調整し，組み替えながら15回行う。 1 導入（担当：足達・須藤） 2～6 美術史の方法論および分析方法についての基礎的講義（担当：足達・須藤） 6～15 文献資料の読解（担当：足達・須藤）					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および発表の内容を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 文献資料の読解を中心とする発表，およびそれについての議論。					
【留意点・予備知識等】 国内外の美術史の基礎的な知識が前提となる。扱う範囲は広いので，古今の日本語のみならず，中国語や西洋の諸言語の能力も必要である。					
【オフィスアワー】 水曜13～14時（足達薫）					

授 業 科 目 名	考古学				
担 当 教 員	上條 信彦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5－6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 考古学における基礎的理論と資料化の技術を習得する。					
【授業の概要】 型式論、領域論、流通論、社会論の4つをテーマに関連する課題を出し、発表討論を行います。					
【授業内容予定】 受講者のテーマに関連する論文を選定します。論文を読みこなすだけでなく、関連する文献にあたり、論文の書かれた知識や背景、現在の視点における批判を見出します。 第1回 ガイダンスとテキストの選定 第3回 形態の分析 第5回 遺跡と遺物・1 第7回 資料の機能を探る・1 第9回 遺物の属性分析（土器編） 第11回 食料を検討する・1 第13回 食料を検討する・3 第15回 人間の行動・2 第2回 年代決定について 第4回 分布と時間 第6回 遺跡と遺物・2 第8回 資料の機能を探る・2 第10回 遺物の属性分析（石器編） 第12回 食料を検討する・2 第14回 人間の行動・1					
【教材・テキスト】 自習室・図書館にある全ての資料を対象とします。					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容と、論文に関する調査など取り組む姿勢を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習内容に沿って、学生が調査発表し、相互に討議を行います。また、史跡・博物館や埋蔵文化財センター・歴史民俗資料館などで実物資料を調査することがあります。					
【留意点・予備知識等】 考古資料を解釈するために、人類学・経済学など幅広い内容を扱います。					

授 業 科 目 名	宗教学・民俗学				
担 当 教 員	山田厳子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 柳田國男の「世相史」の構想と「世相解説の学」である民俗学の方法を学ぶ。					
【授業の概要】 『明治大正史世相篇』を読み、「世相解説の学」としての民俗学構想とその後の民俗学で何が受容され、何が受容されなかったのかを学ぶ。					
【授業内容予定】 1 イントロダクション 2 世相とはなにか 3 「世相篇」とはどのような書物か 4 家1 5 家2 6 酒1 7 酒2 8 交通1 9 交通2 10 貧困 11 病苦 12 恋愛技術1 13 恋愛技術2 14 群れ 15 まとめ					
【教材・テキスト】柳田國男『明治大正史世相篇』筑摩書房、中央公論社などこの出版社のものでもかまいません。					
【参考文献】適宜指示します。					
【成績評価の方法および採点基】 議論への貢献とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義＋演習					
【留意点・予備知識等】 受講生の興味、関心を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】 火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	哲学				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋古典古代における「心」の哲学（Philosophy of Mind）の系譜を辿ることをとおして，古代哲学の思想文化的特質について認識を深めることが，この授業の主眼です。					
【授業の概要】 初期ギリシア思想からヘレニズム期にいたるまでの「心」の哲学の展開を辿ることをとおして，西洋古代哲学の思想文化的特質を明らかにします。					
【授業内容予定】 1) 導入（Introduction）－西洋古典古代における「心」の哲学へのいざない－ 2) 初期ギリシアの思想家たち（1）ミレトス学派 3) 初期ギリシアの思想家たち（2）ピュタゴラス学派 4) 初期ギリシアの思想家たち（3）ヘラクレイトス，エンペドクレス，アナクサゴラス 5) 初期ギリシアの思想家たち（4）原子論者たち 6) ソクラテス 7) プラトン（1） 8) プラトン（2） 9) アリストテレス（1） 10) アリストテレス（2） 11) ヘレニズム期の思想家たち（1）エピクロス学派 12) ヘレニズム期の哲学者たち（2）ストア学派 13) プロティノスと新プラトン主義 14) キリスト教思想家アウグスティヌス 15) まとめ					
【教材・テキスト】 （以下の英文論考のコピーを配布します） Modrak, D.K.W., Classical Theories of Mind, Zeyl, D. J.(ed.), <i>Encyclopedia of Classical Philosophy</i> (Fitzroy Dearborn Publishers, 1997), pp.344-349.					
【参考文献】 授業中に，適宜指定する予定です。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて，学期末に提出されるレポートに重点をおいて，総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 教科書として指定された文献の予習・復習が必要になります。					
【留意点・予備知識等】 好奇心旺盛で，やる気のある学生諸君の受講を期待します。					

授 業 科 目 名	倫理学				
担 当 教 員	木村純二・横地徳広				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
倫理学に関する基本的知識やテキストの読解力、自身の考えをまとめ発表する力などを習得する。					
【授業の概要】					
倫理学の古典テキストを精読する。毎回担当者がレジュメを作成し、それを土台に参加者で議論する。					
【授業内容予定】					
今年度は三木清の『パスカルにおける人間の研究』および『哲学入門』を取り上げる予定である。以下の講義計画は、受講者の理解や関心に応じて変更することがあり得る。					
第1回 ガイダンス (担当：木村・横地)					
第2回 三木清『パスカルにおける人間の研究』「序」「第一 人間の分析」前半 (担当：木村・横地)					
第3回 同 「第一 人間の分析」後半 (担当：木村・横地)					
第4回 同 「第二 賭」 (担当：木村・横地)					
第5回 同 「第三 愛の情念に関する説」 (担当：木村・横地)					
第6回 同 「第四 三つの秩序」 (担当：木村・横地)					
第7回 同 「第五 方法」前半 (担当：木村・横地)					
第8回 同 「第五 方法」後半 (担当：木村・横地)					
第9回 同 「第六 宗教における生の解釈」 (担当：木村・横地)					
第10回 三木清『哲学入門』「序論一～四」 (担当：木村・横地)					
第11回 同 「序論五～七」 (担当：木村・横地)					
第12回 同 「第一章一～三」 (担当：木村・横地)					
第13回 同 「第一章四～六」 (担当：木村・横地)					
第14回 同 「第二章」 (担当：木村・横地)					
第15回 総括 (担当：木村・横地)					
【教材・テキスト】					
三木清『パスカルにおける人間の研究』(岩波文庫)、同『哲学入門』(岩波新書)					
【参考文献】					
唐木順三『三木清』(京都哲学選書第26巻、燈影社)					
【成績評価の方法および採点基準】					
原則として平常点により評価するが、必要があればレポートを課す。					
【授業形式・形態および授業方法】					
輪読形式で、担当者による当該範囲の発表を土台に議論する。					
【留意点・予備知識等】					
受講前に自分自身の問題関心を整理しておくこと。					
【オフィスアワー】					
初回の授業時に指示する。					

授 業 科 目 名	文芸基礎論				
担 当 教 員	土井雅之				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 イングランド・ルネサンス期の文芸について基礎的な知識を身につけることを目標とします。					
【授業の概要】 イングランド・ルネサンス期の文芸について概説した後、受講者に興味を持った作品について発表をしてもらいます。					
【授業内容予定】 1. イングランド・ルネサンス期の文芸概観 時代背景と作家たち 2. 韻文 3. 前回の続き 4. 散文 5. 前回の続き 6. 演劇 7. 前回の続き 8. まとめ（前半）、レポートの説明 9-15. 受講者の発表など 16. まとめ（後半）、レポートの提出					
【教材・テキスト】 教科書はありません。参考資料は適宜配布します。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点（出席と発表など）＋ レポート。					
【授業形式・形態および授業方法】 前半は講義形式、後半は演習形式。					
【留意点・予備知識等】 予備知識等は必要ありませんが、旺盛な知識欲を持って授業に臨んでください。					
【オフィスアワー】 木曜日・5－6時限。					

授 業 科 目 名	日本語学				
担 当 教 員	鹿嶋 彰				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本語の言語的特徴を理解すること。応用言語学の考え方を身につけること。					
【授業の概要】					
講義を通じ、日本語の特徴を概括し、その応用について検討します。					
【授業内容予定】					
1回目 オリエンテーション					
2回目 音声と音韻1					
3回目 音声と音韻2					
4回目 文法1（日本語文の構造）					
5回目 文法2（主題化）					
6回目 文法3（自動詞と他動詞）					
7回目 文法4（ヴォイス1・・・受け身文、使役文）					
8回目 文法5（ヴォイス2・・・授受表現）					
9回目 文法6（テンス）					
10回目 文法7（アスペクト）					
11回目 文法8（ムード）					
12回目 文法9（複文構造）					
13回目 形態1（品詞分類と形態素）					
14回目 形態2（活用）					
15回目 敬語					
16回目 試験					
【教材・テキスト】					
オリエンテーション時に紹介します。					
その他、講義中にプリントを配布します。					
【参考文献】					
講義中のそれぞれの内容で紹介します					
【成績評価の方法および採点基準】					
出席20%、演習課題20%、試験60%					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式ですが、多少の演習を含みます。					
【留意点・予備知識等】					
特に日本語を専門とした学生（日本語学、日本文学、言語学など）を対象にした講義内容です。					
日本語学を系統的に学んでいない学生も受講可にします。					
【オフィスアワー】					
未定					

授 業 科 目 名	アジア文芸学				
担 当 教 員	渡辺麻里子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3－4限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本古典文学および日本近現代文学について幅広く学び、基礎的な教養を高める。					
【授業の概要】					
・日本古典文学における和歌について、『古今和歌集』仮名序を通じて学ぶ。 ・『古今和歌集』の詠歌を読み、和歌とは何かを考える。 ・『伊勢物語』などの和歌物語や『古今和歌集』の注釈書を読み、和歌の享受・展開を知る。 ・津軽の和歌を学ぶ。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンス 第2回 和歌とは何か 第3回 勅撰和歌集の編纂 第4回 『古今和歌集』の意義 第5回 和歌の歴史 第6回 和歌の名人（六歌仙） 第7回 『古今和歌集』の意義 第8回 前半のまとめ 第9回 春の歌・秋の歌 第10回 恋の歌 第11回 和歌と狂言綺語 第12回 和歌物語（『伊勢物語』など） 第13回 『古今和歌集』の注釈書・歌学書を読む 第14回 津軽の和歌・津軽と和歌 第15回 後半のまとめ 第16回 試験・レポート					
【教材・テキスト】					
購入は不要。必要に応じて関係資料をコピーする。					
【参考文献】					
・有吉保『勅撰和歌集入門—和歌文学理解の基礎—』勉誠出版、2009年 ・谷知子『和歌文学の基礎知識』角川選書、2016年					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業の予習状況、理解度、試験・レポートを総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式。必要に応じて、演習を加えることがある。					
【留意点・予備知識等】					
特にありません。					
【オフィスアワー】					
随時。昼休み。木曜5－6限など。先にメール連絡をもらえると確実です。					

授 業 科 目 名	アジア地域学				
担 当 教 員	李 良				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 弘前が生んだ国際的な人物 山田良政・純三郎の生い立ちと近代中国について多角的に検証することによって、今日の日中両国のあるべき姿と現状について考え、然るべき未来像について議論して提示してみようとすることを目標とします。					
【授業の概要】 山田良政・純三郎という地域（弘前）に存在した歴史的人物の生い立ちを追うことによって、彼らの思想、行動および当時の日中両国の関係を理解していく。					
【授業内容予定】 第1回：オリエンテーション 近代日本と中国 第2回：弘前絵図からみた在府町とその面々 第3回：フィールド調査：在府町界限、貞昌寺（山田家菩提寺）の孫文肉筆碑など 第4回：陸羯南と山田兄弟 第5回：山田良政と中国一東亜同文書院を中心にー 第6回：山田良政と孫文（1）中国革命へのまなざし 第7回：山田良政と孫文（2）中国革命に殉じる 第8回：山田良政の中国革命における位置づけ ー南京中山陵麓にあった山田良政碑のゆくえをめぐってー 第9回：山田純三郎と孫文 第10回：山田純三郎と陳士美、蒋介石など 第11回：山田純三郎と国民党政府 第12回：日中戦争時の山田純三郎 第13回：山田純三郎と上海 第14回：戦後の山田純三郎 第15回：総括ー山田兄弟からみた日本と中国ー					
【教材・テキスト】 陸羯南『近時正論考』（岩波文庫7454－7455）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター『オープン・リサーチ・センター年報』（2008年度版3号、愛知大学）など					
【参考文献】 開講時、その都度、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点（授業参加、議論ぶり）と期末レポートを総合的に勘案して判定します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義、討議、フィールドワークおよび適宜映像資料などの活用をします。					
【留意点・予備知識等】 情熱をもって臨んでほしいです。					
【オフィスアワー】 毎週月曜日正午12時～14時、その他、必要に応じて可能な限り随時対応します。					

授 業 科 目 名	言語基礎論				
担 当 教 員	内海 淳				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
言語を科学的に研究するために必要な基礎的な方法論を身につける。					
【授業の概要】					
言語学の様々な分野の言語現象を具体的な事例を用いて考察し、そこで用いられる基本的な考え方を学習する。					
【授業内容予定】					
第1回 言語学の理論的枠組 第2回 発音の仕組み 第3回 言語音の心的表示 第4回 音韻変化 第5回 語と形態 第6回 文の構造 第7回 文の論理構造 第8回 意味表示 第9回 文と談話 第10回 言語の獲得 第11回 言語の変異 第12回 言語の歴史的変化 第13回 言語の解析 第14回 言語と文字 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】					
授業時に指示するか、プリント等を配布する。					
【参考文献】					
授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への準備状況、レポートなどの課題の成果を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式					
【留意点・予備知識等】					
言語学の基礎的な知識を持っていることが望ましいが、実際に受講する学生の知識等に応じて授業内容等を変更することがある。					
【オフィスアワー】					
水曜日 12:00から12:40					

授 業 科 目 名	欧米地域学				
担 当 教 員	中村 武司				
学 期	前期	曜日・時限	火曜9・10限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
ヨーロッパ概念の歴史的な形成過程の理解・基礎的知識の習得					
【授業の概要】					
ヨーロッパ統合にともない、ヨーロッパ概念やヨーロッパ意識をめぐる研究が近年急速に進展しつつある。本授業は、ヨーロッパ概念の形成を考察した古典的名著を取りあげ、受講生が分担によりその内容の講読・検討を進めるものである。					
【授業内容予定】					
指定したテキストを、以下の予定にしたがって講読していく。					
第1回：Introduction 第2回：Chapter 1: Europa and Japheth (1) 第3回：Chapter 1: Europa and Japheth (2) 第4回：Chapter 2: Christendom (1) 第5回：Chapter 2: Christendom (2) 第6回：Chapter 3: The medieval notion of Europe and its peoples (1) 第7回：Chapter 3: The medieval notion of Europe and its peoples (2) 第8回：Chapter 4: The disintegration of Christendom (1) 第9回：Chapter 4: The disintegration of Christendom (2) 第10回：Chapter 5: The emergence of Europe (1) 第11回：Chapter 5: The emergence of Europe (2) 第12回：Chapter 6: Renaissance Christendom (1) 第13回：Chapter 6: Renaissance Christendom (2) 第14回：Chapter 7: The prospect of Europe (1) 第15回：Chapter 7: The prospect of Europe (2)					
【教材・テキスト】					
Denys Hay, <i>Europe: the emergence of an idea</i> (Edinburgh, 1957).					
【参考文献】					
谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』（山川出版社、2003年）. ノーマン・デイヴィス（別宮貞徳訳）『ヨーロッパ』全4巻（共同通信社、2000年）.					
【成績評価の方法および採点基準】					
報告ならびに討論への参加度から総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習（文献講読・発表）形式					
【留意点・予備知識等】					
とくになし					
【オフィスアワー】					
水曜日、13:00～13:45					

授 業 科 目 名	欧米文化論				
担 当 教 員	熊野真規子・澤田真一				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3-4	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
欧米文化の理解を通じて、国際的に活躍できる教養や行動力を養成することを目標とします。					
【授業の概要】					
現代社会の基盤を形成しているヨーロッパ圏やアメリカなどの英語文化圏の歴史・文化の本質を、各地域の言語・文化・政治・社会を通じて探求します。今年は、ヨーロッパの映画（熊野真規子）フェミニズムと文学（澤田真一）について考察します。					
【授業内容予定】					
第1回 ヨーロッパ映画史（1）※アメリカ映画史にも触れます（熊野）					
第2回 ヨーロッパ映画史（2）※アメリカ映画史にも触れます（熊野）					
第3回 ヨーロッパ映画史（3）※アメリカ映画史にも触れます（熊野）					
第4回 ヨーロッパの映画（1）（熊野）					
第5回 ヨーロッパの映画（2）（熊野）					
第6回 ヨーロッパの映画（3）（熊野）					
第7回 ヨーロッパの映画（4）（熊野）					
第8回 ヨーロッパの映画（5）（熊野）					
第9回 フェミニズムと文学：理論1（澤田）					
第10回 フェミニズムと文学：理論2（澤田）					
第11回 女性作家1：シャーロット・ブロンテ（澤田）					
第12回 女性作家2：ヴァージニア・ウルフ（澤田）					
第13回 女性作家3：キャサリン・マンスフィールド（澤田）					
第14回 女性作家4：ジャネット・フレイム（澤田）					
第15回 女性作家5：ケリ・ヒューム（澤田）					
【教材・テキスト】					
資料を準備します（熊野真規子）。					
【参考文献】					
講義の中で適宜紹介・あるいはプリント等を配布します。（熊野真規子・澤田真一）					
【成績評価の方法および採点基準】					
レポートによって評価します。（熊野真規子・澤田真一）					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式（熊野真規子）及び演習とのミックス形式（澤田真一）					
【留意点・予備知識等】					
特にありません。					
【オフィスアワー】					
金曜日9・10（澤田真一）					

授 業 科 目 名	経済学				
担 当 教 員	池田憲隆・小谷田文彦・鈴木和雄・福田進治・飯島裕胤・山本康裕				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・9－10	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
経済学の基本的知見を確認するとともに、最新の研究動向と成果を理解することを目指します。					
【授業の概要】					
経済学各分野の最新情報を紹介し、その意義と問題点を考察します。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンスとイントロダクション（4月11日、福田進治）					
第2回 古典派経済学の展開（4月18日、福田進治）					
第3回 近代経済学の形成（4月25日、福田進治）					
第4回 市場理論の基礎（5月2日、小谷田文彦）					
第5回 消費者理論の基礎（5月9日、小谷田文彦）					
第6回 生産者理論の基礎（5月16日、小谷田文彦）					
第7回 45度線分析（5月23日、山本康裕）					
第8回 IS－LM分析（5月30日、山本康裕）					
第9回 経済発展に関する諸学説（6月6日、池田憲隆）					
第10回 資本主義の歴史的把握（6月13日、池田憲隆）					
第11回 現代資本主義の成長体制－大量生産（6月20日、鈴木和雄）					
第12回 現代資本主義の成長体制－成長の制度的枠組み（6月27日、鈴木和雄）					
第13回 人々の状況把握と行動経済学（7月4日、飯島裕胤）					
第14回 人々の意思決定と行動経済学（7月11日、飯島裕胤）					
第15回 まとめと補遺（7月25日、福田進治）					
【教材・テキスト】					
関連文献、論文等を適宜指示します。					
【参考文献】					
授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合があります。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表内容および受講態度などにより総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
基本的には講義形式ですが、演習形式をとる場合もあります。					
【留意点・予備知識等】					
受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更することがあります。					
【オフィスアワー】					
科目主任（福田）のオフィスアワー：月曜日～金曜日 12時～13時（人文学部棟413号室）					

授 業 科 目 名	経営学				
担 当 教 員	内藤周子				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・1・2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 大学院の新入生が導入科目として、企業経営および企業会計にさらに興味を持つことを目標としている。					
【授業の概要】 本講義では、日本の農業者を5つもモデルに分類し、農業の発展と複式簿記の貢献について解説する。					
【授業内容予定】 テキストにしたがって以下の内容を扱う予定であるが、受講生の関心などを考慮する。 第1回 イン트로ダクション 第2回 記録のインセンティブを奪う制度的問題点 第3回 複式簿記の難しさから見た理論的問題点 第4回 農業高等学校における農業簿記教育の問題点 第5回 税務および補助金から見た実務的問題点 第6回 日本の農業者のモデル分け 第7回 小規模兼業農家（モデル1）の分析 第8回 自立志向農家（モデル2）の分析 第9回 農業法人（モデル3）の分析 第10回 農業法人における会計管理の実際 第11回 6次産業体（モデル4）の分析 第12回 農業関連上場企業（モデル5）の分析 第13回 IAS41号が日本の農業会計へ及ぼす影響 第14回 記録及び簿記の意義とその相互関係 第15回 日本の農業者に対するモデル別提言					
【教材・テキスト】 戸田龍介編著『農業発展に向けた簿記の役割―農業者のモデル別分析と提言―』中央経済社、2014年。					
【参考文献】 随時、案内する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表と議論の内容(50%)、課題の評価 (50%)					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による報告ののちに、質疑応答を行う形式である。適宜、課題を与える。					
【留意点・予備知識等】 経営学や会計学の基礎知識を有し、複式簿記の仕組みを理解していることが望ましい。					
【オフィスアワー】 木曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	法学				
担 当 教 員	河合正雄・成田史子・平野 潔・吉村顕真・長谷河亜希子				
学 期	前	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 重要な判例や論文を読むことで、将来に研究を進めていくための基礎的能力を修得する。また、それを通じてリーガルリサーチができるようにする。					
【授業の概要】 この授業は、主に社会人あるいは法学未修者を念頭に置いた科目である。そのため、まずは、各法学分野における重要な判例や論文を読み、後の専門科目へと研究を展開させていくための基礎をつくる。					
【授業内容予定】 第1回 オリエンテーション（河合） 第2～ 4回 社会法（成田） 第5～ 7回 刑事法（平野） 第8～ 10回 民事法（吉村） 第11～13回 商事法（長谷河） 第14～15回 憲法（河合）					
【教材・テキスト】 とくになし。					
【参考文献】 適宜指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点（各教員の特点を10点とし、それを合算する（5人×10点）。 レポート（最後に自分の関心のある分野を1科目選択し、その分野の教員に提出する。50点）。					
【授業形式・形態および授業方法】 オムニバス形式の授業					
【留意点・予備知識等】 オムニバス形式の授業であるため、常に掲示板等の連絡事項に注意をしておくこと。					
【オフィスアワー】 河合正雄（水曜5・6限）・成田史子（火曜1・2限）・平野 潔（木曜3・4限）・吉村顕真（火曜13時～14時）・長谷河亜希子（火曜7・8限）					

授 業 科 目 名	地域雇用				
担 当 教 員	李 永俊・小磯重隆				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、地域の雇用問題を多角的な実証分析を通して理解し、解決策を検討できること。また、地域の有為な人材を育てる条件について、実証分析を踏まえて検討できることを目標とする。					
【授業の概要】 労働経済学や人的資源管理に関する文献を中心に、地域雇用に関する現在の状況と将来の展望について、各講義担当教員の講義を行う。さらに、各受講者には地域雇用に関する研究発表を行ってもらう。					
【授業内容予定】 本講義の具体的な項目及び内容は以下の通りである。 1回 イントロダクション 2～3回 地域の労働市場の現状と問題点について（担当：李永俊） 4～5回 さまざまな雇用政策（担当：李永俊） 6回 「青森モデル」について（担当：李永俊） 7～8回 農業と出稼ぎ、新しい兼業農家と規模拡大、産業誘致政策（担当：小磯重隆） 9～10回 学園都市、コンパクトシティ、産業開発と地域雇用（担当：小磯重隆） 11回 Uターン・Iターン・Jターン就職とジョブクリエイション（担当：小磯重隆） 12～14回 地域雇用問題と地域人材像に関するワークショップ 15～16回 受講者による研究報告会					
【教材・テキスト】 特にテキストを指定しない。					
【参考文献】 必要に応じて参考文献を紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 各々の発表内容ならびに質疑応答の内容で判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】 特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	地域経済				
担 当 教 員	大橋忠宏・細矢浩志・金目哲郎・児山正史				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 地域経済とその展開にかかわる基本的な考えを理解するとともに、現代社会における地域経済・政策の今日的な特徴を総合的に把握することを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル化の進展する現代社会において地域経済・政策が抱える諸問題を多面・多角的に検討・考察します。必要に応じて青森県内の事例も取り上げます。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス（担当教員全員） 第2回 都市・地域経済と比較優位（大橋忠宏） 第3回 輸送費と産業立地（大橋忠宏） 第4回 都市システムの理論（大橋忠宏） 第5回 里山資本主義とは何か（細矢浩志） 第6回 里山資本主義VSマネー資本主義（細矢浩志） 第7回 里山資本主義と日本経済の再生（細矢浩志） 第8回 地方財政の現状と基本的課題（金目哲郎） 第9回 公共施設の老朽化問題（更新、解体、統廃合）の現状（金目哲郎） 第10回 公共施設の老朽化問題への対応、近年の政策動向（金目哲郎） 第11回 公共施設の老朽化問題の事例検討（金目哲郎） 第12回 外来型開発（児山正史） 第13回 内発的発展（児山正史） 第14回 地域経済の行政計画・評価（講義）（児山正史） 第15回 地域経済の行政計画・評価（演習）（児山正史）					
【教材・テキスト】 各担当教員の指示に従ってください。					
【参考文献】 適宜、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 各担当者が専門の立場からオムニバス形式で授業を行います。講義形式と演習形式（レポート作成・報告、ディスカッション）とを適宜組合わせて展開します。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 大橋：木曜日・午前10時30分～11時30分・人文社会科学部222研究室 細矢：木曜日・午前10時20分～11時20分・人文社会科学部344研究室 金目：水曜日・午前9時30分～11時30分・人文社会科学部314研究室 児山：金曜日・午後2時20分～3時50分・人文社会科学部317研究室					

授 業 科 目 名	地域企業				
担 当 教 員	保田宗良・黄孝春・大倉邦夫・恩田睦				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1-2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 地域企業の経営戦略を複数の視点で洞察する力を修得する。北東北の優良企業の事例から成功要因の法則性を把握できるようにします。					
【授業の概要】 地域企業の取り組みを、マーケティング、アジアでの展開、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネス、歴史的考察の視点で検討します。成功要因の法則性を把握します。					
【授業内容予定】 ※ 地域企業は青森地域を意図しています。りんごは地元を考慮します。 ① マーケティングの基礎理論 ② 地域企業のマーケティング活動 ③ 地域企業の流通戦略 ④ 小括（以上 保田担当） ⑤ 農産物(りんご)の流通 ⑥ 地方卸売市場と農協 ⑦ りんご商人与りんごの輸出 ⑧ りんごのブランド化(以上 黄担当) ⑨ 企業と社会の関係性に関する基礎理論 ⑩ ソーシャル・ビジネス ⑪ コミュニティ・ビジネス ⑫ 小括(以上 大倉担当) ⑬ 経営史の基礎理論 ⑭ 地域企業の経営史 ⑮ 小括(以上 恩田担当)					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レポート6割、平常点4割 担当教員が出題したレポートのテーマ4題から2題を選択し、提出してください。平常点も加えます。					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式で進めます。担当教員と受講者の双方向の議論が基本となります。					
【留意点・予備知識等】 北東北企業の動向を新聞等で把握していることが基本となります。					
【オフィスアワー】 保田 金曜日 昼休み 黄 水曜日 12時～13時 大倉 金曜日2コマ（10:20～11:50） 恩田 「木曜日 11時～12時40分。事前にアポイントメントを取ってください。 （mutsumi@hirosaki-u.ac.jp）」					

授 業 科 目 名	社会調査設計				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	前期	曜日・時限	木曜3・4限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 社会調査の方法を学び、私たちの社会を実証的にとらえる基本的な力、考える力を身につけます。					
【授業の概要】 私たちの社会は多様で複雑です。これを理解するには、実際にフィールド（現場）に出て、人びととの関わりのなかで学ぶことが大切です。社会調査は、社会で起こっている様々な現象を明らかにするために、人と出会い、データを収集し、これを分析してまとめる方法です。本授業では社会調査の目的や方法、考え方について学びます。					
【授業内容予定】 受講生にあわせて授業内容は柔軟に変更します。大学時代に社会調査について十分に学んでこなかった受講生に対しては、以下の内容を講義します。 （１）調査について知る ①私たちの生活と社会調査 ②社会調査の歴史 ③社会調査の問題や倫理を考える ⑤まとめ （２）調査の手法 ⑥情報を集める・先行研究を探す（新聞記事、官庁統計、国勢調査、世論調査、学術文献など） ⑦問いをたてる（既存情報の整理・分析） ⑧フィールドワークの準備をする（調査対象の決定、調査依頼、質問票の作成など） ⑨データをあつめる（インタビュー、観察、質問票調査、現地資料の収集など） ⑩データを分析する（フィールドノートの分析、質問票回答の分析など） ⑪まとめ （３）フィールドワークの実例 ⑫インタビュー、観察など ⑬質問票調査 ⑭調査対象とデータの比較検討から見えてくること ⑮まとめ					
【教材・テキスト】 大谷信介ほか編『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房					
【参考文献】 授業中に適宜、紹介します					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（コメントや質問など、50点）と課題提出（50点）から総合的に判断します					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と実習形式。授業で習った内容を、実際に実践していきます。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします					

授 業 科 目 名	量的調査分析				
担 当 教 員	栗原由紀子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜3・4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 社会科学における実証研究で利用されるデータ解析手法に習熟することを目標とします。					
【授業の概要】 社会科学における実証研究で利用される各種データ解析手法を紹介し、その理論的背景や実際に解析を行うための計算プロセスを学びます。					
【授業内容予定】 受講者の関心や学習レベルをみながら講義内容を構成しますが、標準型を掲げておきます。 第1回 ガイダンス 第2回 統計ソフトの基本操作 第3回 統計学の基礎1 基本統計量 第4回 統計学の基礎2 確率分布1 第5回 統計学の基礎3 確率分布2 第6回 統計学の基礎4 標本分布 第7回 統計学の基礎5 点推定と区間推定 第8回 統計学の基礎6 仮説検定1 第9回 統計学の基礎7 仮説検定2 第10回 相関分析 第11回 単回帰分析1 モデルと推定 第12回 単回帰分析2 予測 第13回 重回帰分析1 モデルと推定 第14回 重回帰分析2 予測 第15回 まとめと応用					
【教材・テキスト】 初回の授業時に紹介します。					
【参考文献】 中村隆英他(1984年)『統計入門』東京大学出版会 など、適宜、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 各回の演習、およびレポート課題を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 エクセルまたはRでの演習を織り交ぜつつ、主として講義形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 The lecture is basically provided in Japanese. However, explanation will be added in English for foreign students as needed.					
【オフィスアワー】 初回の授業時にお知らせします。					

授 業 科 目 名	質的調査分析				
担 当 教 員	諏訪淳一郎・杉山祐子・白石壮一郎				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 社会調査の中の質的調査について、その目的、方法、考え方を理解する。それによって、社会のしくみを見ぬく基礎的な力、考える力を身につける。					
【授業の概要】 社会調査は、私たちの社会で起こっているさまざまな現象やしくみを明らかにするために、現場で実際に人と出会い、データを収集し、分析し、それをまとめていく科学的な方法です。本講義では、社会調査のうち質的な調査分析を中心に、その目的や方法、考え方について学びます。					
【授業内容予定】 1.社会調査における質的調査 2.質的調査の作法と倫理 3.調査のデザイン 4.観察と参与観察(1) 5.観察と参与観察(2) 6.フィールドノートと民族誌(1) 7.フィールドノートと民族誌(2) 8.インタビュー調査(1) 9.インタビュー調査(2) 10.ライフヒストリー法 11. 会話分析 12.コーディング 13. 内容分析(1) 14. 内容分析(2) 15. 質的調査と量的調査 * 内容や順番については若干の変更がある場合もあります。					
【教材・テキスト】 『よくわかる質的調査〈技法編〉』谷富夫ほか編 ミネルヴァ書房					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加とレポート評価を基本にします。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 授業の最初の回に連絡します。					

授 業 科 目 名	国際関係				
担 当 教 員	フィリップス、ジョン・エドワード				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 To acquaint students with the basics of political science pertaining to Africa.					
【授業の概要】 Reading, writing, presentations and discussion in English.					
【授業内容予定】 1) Chapter 1: “Understanding African Politics and Society” 「アフリカ政治と社会の理解」 2) Chapter 2: “Politics and Economics of the Precolonial Independence Era (before 1884)” 「植民地時代前の政治経済」 3) Chapter 3: “Political and Economic Impacts of Colonialism” (1884-1951) 「植民地時代の政治経済」 4) Chapter 4: “Nationalism and the Emergence of the Contemporary Independence Era (1951-present)” 「ナショナリズムと独立時代」 5) Chapter 5: “Ethnicity and Class” 「民族主義と階級」 6) Chapter 6: Ideology and the Politics of Development 「イデオロギと発展の政治」 7) Chapter 7: Politics of the African Novel 「アフリカ文学の政治」 8) discussion of Achebe’s <i>Anthills of the Savannah</i> 「アチェベの「サバンナのアリ塚」の討論」 9) Chapter 8: “State and Civil Society” 「国家と公民社会」 10) Chapter 9: “Military Coups d’etat and Military Governance” 「クーデターと軍事政権」 11) Chapter 10: “Democratic Experiments and Multiparty Politics” 「民主実験と多党政治」 12) Chapter 11: “Foreign Policy Making and the Pursuit of Pan-Africanism” 「外交作りとパン・アフリカ主義の追跡」 13) Chapter 12: “Africa in World Politics” 「世界政治におけるアフリカ」 14) Chapter 13: “Study of Africa in the Liberal Tradition” 「自由的な伝統のアフリカ研究」 15) Chapter 14: “Study of Africa in the Critical Tradition” 「批評的な伝統のアフリカ研究」					
【教材・テキスト】 Peter J. Schraeder <i>African Politics and Society: a Mosaic in Transformation</i> (Thomson Wadsworth, 2004) Chinua Achebe <i>Anthills of the Savannah</i> (1997)					
【参考文献】 (to be arranged)					
【成績評価の方法および採点基準】 Participation, improvement and written work, both in class and as homework.					
【授業形式・形態および授業方法】 seminar.					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	国際経済・経営				
担 当 教 員	森樹男				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 国際ビジネス研究の現状について，理解を深めていきます。					
【授業の概要】 基本的に英語論文等を読み，国際ビジネス研究における現状や課題を理解します。					
【授業内容予定】 基本的には受講者の興味に合わせ，最新の論文を読んでいます。 第1回 Introduction 第2回 Regional and Global Strategy 第3回 The Multinational Enterprises 第4回 International Culture 第5回 International Trade 第6回 Multinational Strategy 第7回 Organizing Strategy 第8回 Production Strategy 第9回 Marketing Strategy 第10回 Human Resource Management Strategy 第11回 Political Risk and Negotiation Strategy 第12回 Corporate Strategy and National Competitiveness 第13回 EU and North America 第14回 BRICS 第15回 Summary					
【教材・テキスト】 適宜，資料を配付します					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義およびディスカッションへの参加状況により評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読，ディスカッションなど					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜 11時～12時30分					

授 業 科 目 名	海外事情				
担 当 教 員	小野寺 進				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
This course aims at understanding the hidden rules of English behaviour. Students can get to know about the essence of people living in the UK.					
【授業の概要】					
Basically read <i>Watching the English</i> and discuss about the various hidden rules of English behaviour in English.					
【授業内容予定】					
1) Introduction, reading and discussion about conversation codes: The Weather 2) Reading and discussion about conversation codes: Grooming-talk 3) Reading and discussion about conversation codes: Humour Rules 4) Reading and discussion about conversation codes: Linguistic Class Codes 5) Reading and discussion about conversation codes: Emerging Talk-rules 6) Reading and discussion about conversation codes: Pub-talk 7) Reading and discussion about behaviour codes: Home Rules 8) Reading and discussion about behaviour codes: Rules of the Road 9) Reading and discussion about behaviour codes: Work to Rule 10) Reading and discussion about behaviour codes: Rules of Play 11) Reading and discussion about behaviour codes: Dress Codes 12) Reading and discussion about behaviour codes: Food Rules 13) Reading and discussion about behaviour codes: Rules of Sex 14) Reading and discussion about behaviour codes: Rites of Passage 15) Discussion about Englishness					
【教材・テキスト】					
Kate Fox, <i>Watching the English</i> . Nicholas Brealey Publishing ISBN 978-1-85788-508-8					
【参考文献】					
Not particular					
【成績評価の方法および採点基準】					
Report and preparation					
【授業形式・形態および授業方法】					
Practice: Reading and discussion					
【留意点・予備知識等】					
Preparation and attendance are needed through the semester. This course will be conducted in English.					
【オフィスアワー】					
Wednesday 1-2					

授 業 科 目 名	日本事情				
担 当 教 員	泉谷安規、加藤恵吉、木村純二				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 1・2 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の地理・経済・宗教・歴史などの特色を踏まえながら、現在および将来の日本像について総合的な知見を深める。					
【授業の概要】 政治・経済・文化・制度等、日本における諸側面についての検討と考察。					
【授業内容予定】 第 1 回 日本の気候・四季と文化との関係について（概要） 第 2 回 日本の風土・気候・四季と日本語の関係について① 第 3 回 日本の風土・気候・四季と日本語の関係について② 第 4 回 日本の風土における日本文学の形成について① 第 5 回 日本の風土における日本文学の形成について② 第 6 回 日本の簿記会計制度の歴史 第 7 回 日本の株式会社と会計（会計制度①） 第 8 回 日本の株式会社と会計（会計制度②） 第 9 回 日本の財務会計 第 10 回 日本の管理会計 第 11 回 日本の宗教史（概説） 第 12 回 日本の宗教史（古代：仏教の伝来と日本の神） 第 13 回 日本の宗教史（中世：鎌倉仏教と中世神道） 第 14 回 日本の宗教史（近世：キリシタン・儒教・国学） 第 15 回 日本の宗教史（近代：神仏分離と国家神道）					
【教材・テキスト】 第1回～第5回：プリントを配布します。 第6回～第10回：プリント配付及び本学図書館所蔵の会計関連本を使用します。 第11回～第15回：末木文美士『日本宗教史』（岩波新書、2006年）					
【参考文献】 授業の中で紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席など平常点および小課題の内容に基づく。					
【授業形式・形態および授業方法】 オムニバスによるゼミナール形式。					
【留意点・予備知識等】 授業内容の順序などが入れ替わる可能性もある。なお、授業で利用する言語は原則的に日本語で行う。特別な対応が可能かどうかは科目登録時までに担当教員に確認のこと。					

授 業 科 目 名	日本社会				
担 当 教 員	成田史子・吉村顕真・平野 潔・児山正史・杉山祐子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
留学生が日本社会のさまざまな側面について理解を深めることを目標とします。					
【授業の概要】					
日本社会のさまざまな側面について、各分野を専門とする教員が、講義または演習を行います。					
【授業内容予定】					
第1回 イン트로ダクション（全担当教員）					
第2回 労働関係の始まり（成田史子）					
第3回 労働関係の展開（同上）					
第4回 労働関係の終了（同上）					
第5回 婚姻（吉村顕真）					
第6回 離婚（同上）					
第7回 親子（同上）					
第8回 市民生活と刑事法（平野潔）					
第9回 生命倫理と刑事法（同上）					
第10回 国民の司法参加と裁判員制度（同上）					
第11回 日本の政治（児山正史）					
第12回 日本の行政（同上）					
第13回 日本の地方自治（同上）					
第14回 日本の政策（同上）					
第15回 日本における時間と身体近代化（杉山祐子）					
【教材・テキスト】					
各教員が指定します。					
【参考文献】					
各教員が指定します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への参加やレポート等を総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義または演習の形式で行います。					
【留意点・予備知識等】					
留意点は各教員が伝えます。予備知識は特に必要ありません。					
【オフィスアワー】					
成田：火曜日1・2時限 吉村：火曜日13～14時 平野：木曜日3・4時限（※1）					
児山：金曜日7・8時限 杉山：水曜日12時～12時30分（※2）					
※1：それ以外でも事前にアポイントを取ってもらえれば対応します					
※2：出張等の場合はこの限りではありません					

授 業 科 目 名	日本経済				
担 当 教 員	大倉邦夫・鈴木和雄・森樹男・飯島裕胤・金目哲郎				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の経済・経営に関わるトピックに対する学界の最新研究動向と成果の紹介を通じて問題の所在を明らかにし、受講生自身の研究を展開するうえでの手がかりを得ることを目標とします。					
【授業の概要】 各担当者は自分の専門分野から日本の経済経営に関わるトピックを取り上げ、それに関する最新の研究情報の紹介と考察を行います。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスとイントロダクション（大倉邦夫） 第2回 日本における企業の社会的責任の展開（大倉邦夫） 第3回 日本におけるソーシャル・ビジネスの展開（大倉邦夫） 第4回 戦後日本の財政の歩み（金目哲郎） 第5回 転換期の日本財政（金目哲郎） 第6回 現代財政の課題と展望（金目哲郎） 第7回 日本の賃金（鈴木和雄） 第8回 日本の労働時間（鈴木和雄） 第9回 日本の失業と雇用形態（鈴木和雄） 第10回 取引コスト理論と銀行（飯島裕胤） 第11回 エージェンシー理論と監査（飯島裕胤） 第12回 行動経済学と企業再編（飯島裕胤） 第13回 日本企業のグローバル化（森樹男） 第14回 日本企業のグローバル人材育成（森樹男） 第15回 中国に進出した日系企業の経営（森樹男）					
【教材・テキスト】 関連文献、論文等を適宜指示します。					
【参考文献】 授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布します。					
【成績評価の方法および採点基準】 与えられたテーマの中から1つを選んで書いたレポートにより評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式ですが、演習形式をとることもあります。					
【留意点・予備知識等】 受講生と相談の上、曜日・開講時間の変更があります。					
【オフィスアワー】 金曜日10:20～11:50					

授 業 科 目 名	情報処理				
担 当 教 員	増山 篤・横地 徳廣				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・ 3-4 時限	単位	1 単位
【授業としての具体的到達目標】 人文社会科学研究に必要となる数値処理の基本的技術を習得すると同時に、研究活動における情報の収集・管理・編集・発信に関する倫理学を身につける。					
【授業の概要】 数値処理、情報倫理に関する知識や技術を具体的な事例を使って理解する。					
【授業内容予定】 1～4：数値処理（増山担当） 1：Excel による数値計算・統計処理の基本 2：モンテカルロ・シミュレーションと中心極限定理 3：分析ツールによる相関分析、回帰分析 4：行列計算（行列式、行列の積、逆行列） 5～8：情報とメディアの倫理学（横地担当） 5：情報とメディアの倫理学とは何か 6：メディアの歴史について 7：情報空間について 8：監視社会について					
【教材・テキスト】 授業時に指示するか、コピーを配布する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への準備状況、レポートなどの課題の成果を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 授業は2名の教員（増山・横地）によるオムニバス形式の演習形式でおこなう。					
【留意点・予備知識等】 受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合がある。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	日本語・日本語論文作成技法				
担 当 教 員	奥野浩子・小山宣子・鹿嶋彰・川瀬卓・佐藤和之				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・1－2時限	単位	1 単位
【授業としての具体的到達目標】 受講者の関心のあるトピックに関するテーマを設定し、それについての小論文作成を通じて、アカデミックな活動に必要な日本語が書けるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 受講生が今まで書いたレポート、小論文の検討を通じ、小論文について学ぶとともに、関心のあるテーマで実際に小論文を書き、口頭発表を行います。					
【授業内容予定】 授業は第一週目より開始し、隔週で行う予定です。各回の授業は下記のように進める予定ですが、受講生の数や日本語力に応じて、変更することもあります。					
1 回目 オリエンテーション、小論文について知る 2 回目 テーマを決めて構想を練る 3 回目 テーマについての事前調査、テーマの再検討 4 回目 資料の調査と整理 5 回目 文章構成の組み立て 6 回目 文章の書きかた 7 回目 文章の点検 8 回目 口頭発表・まとめ					
【教材・テキスト】 特に使用しません。					
【参考文献】 授業時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、提出物、小論文、口頭発表を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 ・対象者は、外国人留学生、あるいは日本語が母語ではなく、日本語を教育言語として用いない中等教育機関および高等教育機関の出身者としてします。また、受講には、弘前大学日本語コースで中上級に入れる日本語力が最低限必要です。 ・一回目の授業には、今まで授業等で提出した小論文・レポートを持ってくるください。					
【オフィスアワー】 一回目の授業日に指示します。					

授 業 科 目 名	英語論文作成技法				
担 当 教 員	堀 智弘				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	1 単位
【授業としての具体的到達目標】 英語論文作成の基礎を理解し、読み手に十分伝わる明瞭な英語で論文を書けるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 テキストに沿って英語論文作成の基礎を学習していきます。また並行して、各自の研究テーマに関する英語論文を実際に作成していきます。					
【授業内容予定】 全8回（1単位）の授業です。授業は第一週目より開始し、隔週で行う予定です。 初回には、各自が書いた論文（卒業論文等）を持ってきてください。8回の授業をとおして、日本語論文の場合はそれを英語に直し、英語論文の場合はより優れた論文にするために全面的な書き直しをして、最後に提出してもらいます。 第1回 初回説明、アカデミック・ライティングとは 第2回 パラグラフとは 第3回 エッセイの構造（1） 第4回 エッセイの枠組みを構想する 第5回 文献資料の扱い方 第6回 エッセイの構造（2） 第7回 完成にむけて 第8回 まとめ					
【教材・テキスト】 迫桂＋徳永聡子『英語論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会、2,000円＋税）					
【参考文献】 授業のなかで紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加態度や各回のエクササイズ、最終提出物を総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式となります。					
【留意点・予備知識等】 初回には、各自が書いた論文（卒業論文等）を持参してください。					
【オフィスアワー】 木曜日 12:00 ～ 13:00					

平成 28 年度後期 大学院共通科目シラバス

授業科目名（英文名）	エネルギーと環境（Energy and Environment）
対 象 学 生	研究科学生
必修・選択の別	選択
単 位	2 単位
担 当 教 員 （所属研究科）	○島田宗勝（北日本新エネルギー研究所），内藤周子（人文社会科学研究科），東 徹（教育学研究科），中路重之（医学研究科），中根明夫（医学研究科），床次眞司（被ばく医療総合研究所），柴 正敏（理工学研究科），野田香織（理工学研究科），泉谷眞実（農学生命科学研究科），久保田健（北日本新エネルギー研究所）
学 期	後期
曜日・時限・講義室	火曜日 9・10 時限 総合教育棟 2F 205 講義室（講義室は未確定）
授 業 の 概 要	人類にとってエネルギーは必要不可欠なものですが，エネルギーの過大消費により環境破壊が起きています。こうした環境破壊がもたらす影響を見ながら，バイオマスや自然エネルギーなどの再生可能エネルギーの活用も含めて，暮らしやすい生活環境を目指した地域社会のあり方の現状と課題について，分野を超えた様々な側面から考えます。
授業の内容（予定）	1 科学史とエネルギー（10/4 東 徹） 2 バイオマスエネルギーの現状と課題（10/11 泉谷眞実） 3 環境変化が各種疾患の発生に及ぼす影響（10/18 中路重之） 4 環境の変化による感染症の変遷（11/1 中根明夫） 5, 6 環境中の放射線・放射性物質（11/8・15 床次眞司） 7, 8 微量元素の環境化学（11/22・29 野田香織） 9, 10 地下水・土壌汚染（12/6・13 柴 正敏） 11 バイオ社会と寒冷地自動車（12/20 島田宗勝） 12 自然エネルギー（1/10 島田宗勝） 13 地球温暖化（1/17 久保田健） 14, 15 エネルギー事業に関する財務報告（1/24・31 内藤周子）
教 材 ・ 教 科 書	教科書は使用しません。
参 考 文 献	必要な時，その都度知らせます。
成績評価の方法 及び採点基準	各教員の講義内容に対するレポートと出席状況を総合して評価します。
授業形式・形態 及び授業の方法	講義形式で行います。
留意点・予備知識	大学院学生が対象の授業です。学部学生は履修できません。
そ の 他	
E-mail アドレス・ オフィスアワー	島田宗勝（授業代表教員） E-mail アドレス：simada-m@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 16:00~17:30 理工学部 1 号館 457 室

2. 2. 文化科学専攻 専門科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるので、事前に担当教員に確認すること。

2. 2. 1 総合文化社会研究コース	2. 2. 2 地域人材育成コース	2. 2. 3 国際人材育成コース
日本歴史論 中国歴史論 中国思想文化論 南アジア史論 西アジア史論 西洋歴史論 民俗学 西洋考古学 日本考古学 文化財調査・研究論 文化財科学 日本東洋美術史論 芸術史論 西洋古典学 日本倫理思想史論 西洋倫理思想史論 日本古典文学 中国言語文化論 中国社会論 英文学B 英文学C 英文学D 米文学 現代アメリカ論 フランス言語・文化論 フランス文学 一般言語学 言語文書処理論 統語論 意味論 日本語史方法論 社会言語学 日本語教育論A 日本語教育論B 情緒社会学 生態人類学 ドイツ論 文化人類学A 文化人類学B アフリカ論	北東北歴史論 東北民俗学 東北考古学 文化財保存・活用論 地域文化財保存論 芸術文化史論 日本古典文化論 地域言語論 文化社会学 ネットワーク社会心理学 民族誌論	中国近世史論 東アジア思想文化論 南アジア地域研究 イスラーム地域研究 グローバルヒストリー論 古代地中海文化論 ヨーロッパ古典文化論 日本思想論 現代倫理学 中国文化論 現代中国論 イギリス近代文化論A イギリス近代文化論B イギリス文学・文化研究 アメリカ近代文化論 アメリカ社会研究 ヨーロッパ現代文化論 フランス文芸論 言語類型論 国際文書規格論 言語文化論 語彙意味論 日本語史論 言語教育論 表現技術論 国際協力人類学 ヨーロッパ文明論 ジェンダー人類学 アフリカ地域研究

授 業 科 目 名	日本歴史論				
担 当 教 員	武井 紀子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 史料の輪読を通じて、古代から中世にかけての北東北の歴史的展開と特徴を考える。加えて、日本史の史料や論文の読み方を身につける。					
【授業の概要】 『奥州後三年記』と関連史料を読みつつ、後三年の役の経緯を明らかにし、そこから読み取れる北東北の歴史的特徴を学ぶ。					
【授業内容予定】 （授業の進度は受講者と相談しながら決める） 1. ガイダンス ― 授業の進め方 ― 2. 『奥州後三年記』輪読① ― 『奥州後三年記』の史料的特徴（1）― 3. 『奥州後三年記』輪読② ― 『奥州後三年記』の史料的特徴（2）― 4. 『奥州後三年記』輪読③ ― 『奥州後三年記』の史料的特徴（3）― 5. 『奥州後三年記』輪読④ ― 史料講読（1）― 6. 『奥州後三年記』輪読⑤ ― 史料講読（2）― 7. 『奥州後三年記』輪読⑥ ― 史料講読（3）― 8. 『奥州後三年記』輪読⑦ ― 史料講読（4）― 9. 『奥州後三年記』輪読⑧ ― 史料講読（5）― 10. 『奥州後三年記』輪読⑨ ― 史料講読（6）― 11. 『奥州後三年記』輪読⑩ ― 史料講読（7）― 12. 『奥州後三年記』輪読⑪ ― 史料講読（8）― 13. 『奥州後三年記』輪読⑫ ― 関連史料を読む（1）― 14. 『奥州後三年記』輪読⑬ ― 関連史料を読む（2）― 15. まとめ					
【教材・テキスト】 『奥州後三年記』（『青森県史』古代1文献史料）。第1回授業の時に配付する。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席と報告、学期末レポートにより評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的参加を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者を決めての史料輪読と講義形式、関連論文の講読を組み合わせで行う。					
【留意点・予備知識等】 特になし。					
【オフィスアワー】 火曜日5－6時限。そのほか研究室（人文333）在室時には、いつでも来室して構わない。					

授 業 科 目 名	中国歴史論				
担 当 教 員	荷見 守義				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 歴史学は史料に基づいて考察する学問である、という認識に立って考察できるようになったかどうか、この点を授業の到達目標とする。					
【授業の概要】 中国の影響力は日増しに大きくなり、本世紀を中国抜きにして考えることは出来ない。日本と相互依存が深まりつつある中国について、過去と現在の対話の中に学ぶ重要性は、高まるがあっても、低下することはない。この中国の価値観は、欧米を中心とする価値観とは相違することが多い。本演習を通して、真の中国像を描き出すことを目指す。					
【授業内容予定】 第1回 中国史研究の現在 第2回 中国史に関する概説書について 第3回 中国史に関する研究目録について 第4回 史料を読む上での辞書類について 第5～13回 研究論著の読解(キーワード：第5回 辺境、第6回 モンゴル 第7回 衛所制 第8回 文書主義 第9回 大学士 第10回 巡撫 第11回 総兵官 第12回 遼東 第13回 北 虜南倭) 第14～16回 受講生による研究発表					
【教材・テキスト】 授業時に指示する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 研究レポートと平常点を総合して判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生のテーマごとに、関係論著の選読と検討を行う。					
【留意点・予備知識等】 中国についての基礎的な素養（学部レベル）があることが望ましい。 また、必要な語学の修得や、関連知識を自ら学び考える自主性を求める。					
【オフィスアワー】 月曜・昼休み（12:00～12:40）					

授 業 科 目 名	中国思想文化論				
担 当 教 員	李 良				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中国思想文化の流れを時系列に解説することによって、中国文明（思想文化）の全体像を捉えたうえ、その本質的特徴を吟味し、理解することを到達目標とする。					
【授業の概要】 前近代までの、それぞれの時代を彩る中国の思想文化の現象を、それを生み出した歴史社会の時代背景とともに、コンパクトに概説するものです。					
【授業内容予定】 第一回 中国思想文化へのアプローチ 第二回 文明の曙 先史時代 第三回 都市文明の誕生（夏殷周） 第四回 文字の誕生と思想・文化の流布 第五回 礼楽文化と宗法社会 第六回 諸子の思想と文化（春秋戦国時代） 第七回 古代政治思想と制度―封建制と郡県制― 第八回 齊魯文化と楚文化―儒家と道家の思想問題― 第九回 天人思想・災異観・長生の思想（養生、煉丹による不老不死観） 第十回 気化の思想―気・陰陽五行・易卦（易占） 第十一回 経典の成立とその思想（経学問題） 第十二回 仏教思想（六朝から隋唐） 第十三回 朱子学の成立とその普遍化問題（一） 第十四回 朱子学の成立とその普遍化問題（二） 第十五回 明清交替と学問思想の変遷問題 第十六回 試験					
【教材・テキスト】 特定の教材を使用しません。プリントを頒布します。					
【参考文献】 開講時、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、授業準備状況および試験（レポート）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義、輪読および討論などマルチ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 欠席しないことです。予備知識が望ましいですが、必須ではありません。					

授 業 科 目 名	南アジア史論				
担 当 教 員	林 明				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 インド・スリランカ近・現代史の詳しい流れを理解できるようになること。 インド・スリランカ近・現代の抱えている政治や社会の問題を分析する視角を養うこと。					
【授業の概要】 インド・スリランカ近・現代史を論ずる。					
【授業内容予定】 インドに関しては、ガンディーが推進した反英非協力運動の歴史的意味及びガンディー思想の今日的意義の考察と、ガンディーの思想を継承し、社会改革運動を推し進めた J. P. ナーラーヤンが指導した全面革命運動の分析に比重を置きながら、インド近・現代史の諸問題について論ずる。 スリランカに関しては、シンハラ・タミル民族間の問題を中心に、スリランカの政治・社会・文化について論ずる。					
第1回 植民地インド 第2回 分割統治 第3回 ガンディー 第4回 非協力運動 第5回 市民的不服従運動 第6回 クウィット・インド運動 第7回 分離独立 第8回 ヴィノバ・バーヴェー 第9回 J. P. ナーラーヤン 第10回 ガンディー思想の今日的意義 第11回 スリランカの民族 第12回 スリランカの歴史 第13回 スリランカのサルヴォダヤ運動 第14回 シンハラ・タミル民族間の問題 第15回 スリランカの政治・社会・文化					
【教材・テキスト】 学生の興味・関心に応じて、適宜プリントが配布される。					
【参考文献】 授業中、参考文献は適宜紹介される					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業に取り組む姿勢、作成するレポートなどを総合して評価される。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義及び学生との対話が中心になる。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	西アジア史論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	亀谷学				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日 9・10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西アジア史に関する歴史史料についての知識を深め、また史料を読んでそこから具体的なデータ・事実を引き出し、それに基づいて論じることができるようになる。					
【授業の概要】 主にイスラーム期以降の歴史史料（年代記、書簡、旅行記など）を講読することを通じて、イスラーム世界の人々がどのような視点から社会を見ていたのかについて考えます。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 西アジア史の史料状況概説 第3回 歴史史料としてのクルアーン 第4回 預言者伝とハディース 第5回 初期の年代記・征服記 第6回 イスラーム世界史としてのタバリー『預言者たちと王たちの年代記』 第7回 マスウディーの歴史『黄金の牧場と宝石の鉱山』 第8回 フワーリズミーの書記典範『諸学の鍵』 第9回 ナーセル・ホスローの『旅行記』 第10回 アブド・アッラティーフのエジプト見聞録『小論』 第11回 ラシード・アッディーンの「世界史」『集史』 第12回 イブン・ハルドゥーンの『歴史序説』 第13回 ジャバルティー『フランス国の撤退にみる神意の現れ』 第14回 タフターウィーの『パリ報告についての純金の精錬』 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 授業中にプリント等の形で配布します。					
【参考文献】 Ch. Robinson, <i>Islamic Historiography</i> , Cambridge, 2002.					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の授業の参加度・理解度による平常点と期末課題により評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 文献の講読とそれについての解説を織り交ぜる形で行う。					
【留意点・予備知識等】 特になし。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	西洋歴史論				
担 当 教 員	中村 武司				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋史研究に不可欠な外国語文献・史料の読解能力ならびに研究内容を明晰に伝えるプレゼンテーション能力の取得					
【授業の概要】 近年の西洋史研究の諸問題にかんする理解を深めるべく、受講生各自の研究分野をふまえて、修士論文作成に必要な外国語文献や史料を選択して報告し、討論をおこなう。					
【授業内容予定】 第1回：イントロダクション 第2回：先行研究の紹介① 第3回：先行研究の紹介② 第4回：先行研究の紹介③ 第5回：先行研究の紹介④ 第6回：一次史料の紹介① 第7回：一次史料の紹介② 第8回：一次史料の紹介③ 第9回：一次史料の紹介④ 第10回：一次史料の紹介⑤ 第11回：一次史料の紹介⑥ 第12回：修士論文研究報告① 第13回：修士論文研究報告② 第14回：修士論文研究報告③ 第15回：修士論文研究報告④ ※受講人数によっては、上記の計画を変更することがありうるので、留意されたい。					
【教材・テキスト】 受講生の関心におうじて、授業のさいに決定する。					
【参考文献】 適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告内容の水準と討論への参加度、ならびに学期末のレポートから総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 履修にさいしては、研究で利用する外国語文献の読解能力が不可欠となる。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日、13:00-13:45（人文学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室） 研究室を不在にしていることも多いので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧める。					

授 業 科 目 名	民俗学				
担 当 教 員	山田厳子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 呪術論を輪読し、研究の視点を学ぶ					
【授業の概要】 民俗信仰のうちの俗信、呪術に関わる研究を紹介し、研究の方法、視点を学ぶ。					
【授業内容予定】 1 インTRODakション 2 俗信とはなにか1 3 俗信とはなにか2 4 しぐさの民俗1 5 しぐさの民俗2 6 鼻唄考 7 呪術をめぐる視点1 8 呪術をめぐる視点2 9 潜在的な宗教者をめぐる考察1 10 潜在的な宗教者をめぐる考察2 11 地藏信仰フィールドワーク1 12 地藏信仰フィールドワーク2 13 鬼信仰フィールドワーク1 14 鬼信仰フィールドワーク2 15 まとめ					
【教材・テキスト】適宜指示します。					
【参考文献】適宜指示します。					
【成績評価の方法および採点基】 議論への貢献とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義＋演習＋実習					
【留意点・予備知識等】 簡単なフィールド・ワークを予定しています。受講生の興味、関心を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】 火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	西洋考古学				
担 当 教 員	宮坂 朋				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3/4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
① ユダヤ教シナゴグ壁画の成立に関して、ローマの公的浮彫の果たした役割について理解する					
② ユダヤ教シナゴグ壁画の成立に関して、イラン的伝統の果たした役割について理解する					
【授業の概要】					
「イメージとテキスト：ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画とモニュメンタリティの獲得」					
3 世紀のユーフラテス河畔の都市ドゥラ・エウロポスのユダヤ教シナゴグ（会堂）は、旧約聖書等を主題とする大規模な壁画が残る。偶像否定の教義にもかかわらず、モニュメンタルなユダヤ教美術が成立するにあたって、ローマとオリエントの伝統が与えた影響を明らかにする。					
【授業内容予定】					
第 1 回目 導入：ドゥラ・エウロポスの都市の概観と研究史					
第 2 回目 ドゥラ・エウロポスの同時代の絵画					
第 3 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：西壁 WA1~3					
第 4 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：西壁 WB1~4					
第 5 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：西壁 WC1~4					
第 6 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：西壁中央					
第 7 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：南壁					
第 8 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：北壁					
第 9 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像と様式：東壁					
第 10 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の図像：図像配置の原則					
第 11 回目 ドゥラ・エウロポスのシナゴグ壁画の説話表現					
第 12 回目 オリエントの伝統①アケメネス朝ペルシア					
第 13 回目 オリエントの伝統②パルティアとササン朝ペルシア					
第 14 回目 3 世紀のローマ戦勝記念浮彫					
第15回目 まとめ					
【教材・テキスト】					
開講時に配布する。					
【参考文献】					
開講時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表と期末レポートによる。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式と演習形式を織り交ぜる。図像の回では、予め指定したテキストを読了の上、レジюмеを用意し、要領よく発表する。					
【留意点・予備知識等】					
積極的な参加が期待される。					
【オフィスアワー】					
木曜日 3 時限					

授 業 科 目 名	日本考古学				
担 当 教 員	上條 信彦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 考古資料の分析に必要な知識および分析視点や論理展開について習得する。					
【授業の概要】 考古資料を通じて、どのように生業や社会の復元を行っていくかといった方法論を実践的に学習します。					
【授業内容予定】 日本考古学を考えるうえで必要な、発掘法・実測法について実習します。また、モノを通じて研究するという学問的性質から、モノの見方について事実記載から解釈へ至るまでの過程を考えます。 第1回 ガイダンスとテキストの選定 第2回 考古学理論（1）遺跡の発掘方法 第3回 考古学理論（2）遺物の資料化と報告書 第4回 考古学実践（1）土器の観察 第5回 考古学実践（2）石器の観察 第6回 考古学実践（3）遺物のデータ化 第7～13回 考古学実践（4）遺物の図化 第14回 報告書の執筆 第15回 考古学理論（6）レポートの発表					
【教材・テキスト】 授業前に担当者が選定します。実物を使います。					
【参考文献】 授業での発表内容に関連する文献を指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容（5割）・意見など授業に対する取り組み（5割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習・実習形式					
【留意点・予備知識等】 深い討議するためには論文を読むだけでなく、関連分野についての知識が要求されます。					

授 業 科 目 名	文化財調査・研究論				
担 当 教 員	関根 達人				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 3・4 時限目	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 多角的な視点から歴史事象を考察する力を養うことが目的です。					
【授業の概要】 下記の書籍の講読です。					
【授業内容予定】 関根達人2014『中近世の蝦夷地と北方交易』（吉川弘文館）					
【教材・テキスト】 教材とする書籍は受講者に事前にお貸します。					
【参考文献】 授業の中で指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 課題（要約）と意見・質問・感想など授業に対する姿勢で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 テキストを読みながらの授業です。					
【留意点・予備知識等】 毎回必ず意見・質問・感想などを求めます。					
【オフィスアワー】 水曜日 1・2 時限目					

授 業 科 目 名	文化財科学（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	片岡太郎				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日， 3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文化財の自然科学的な分析方法の基礎理論を習得し、分析の方法論と分析結果を解釈する能力を身につけます。					
【授業の概要】 現代の文化財調査や保存では、自然科学的分析や観察の基礎知識や理論への理解が求められます。授業では、文化財科学の各専門領域の重要な論文を読み解くことで、文化財調査に関する本質を深く理解し、判断する能力を養います。					
【授業内容予定】 講義とともに、受講者は、毎回、文化財科学の研究分野（年代測定、産地同定、材質・技法、古環境、保存科学、探査、情報システム、防災など）からテーマを選択し、関連する論文1編についての発表からをしていただきます。 第1回 ガイダンス ― 文化財科学の研究分野について ― 第2～3回 年代測定 第4～5回 産地同定 第6～7回 材質同定 第8～9回 技法研究 第10回 古環境 第11～12回 保存科学 第13回 探査 第14回 情報システム 第15回 防災と文化財レスキュー					
【教材・テキスト】 特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。					
【参考文献】 必要に応じて授業の中で提示。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および授業に対する姿勢、発表を総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式で行ないます。毎回の受講者による発表は15分程度を予定しており、発表に基づくレジュメをA4サイズ1枚程度を準備していただきます。					
【留意点・予備知識等】 高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。					
【オフィスアワー】 水曜日 7・8時限目（14:30～16:00）					

授 業 科 目 名	日本東洋美術史論				
担 当 教 員	須藤 弘敏				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本及び東洋美術に関する本質的な課題を把握すること					
【授業の概要】 造形作品が歴史の中でどう生まれ、さらにそれがどう受容されていったかというプロセスを具体的な作品を元に丁寧に検討する。					
【授業内容予定】 1 日本東洋美術史の課題と方法 2 絵画史・彫刻史・工芸史の方法 3 過去の研究の状況 4 対象作品の分析 1 5 対象作品の分析 2 6 対象作品の分析 3 7 対象作品の分析 4 8 関連する作品や分野の分析 1 9 関連する作品や分野の分析 2 10 美術史における作品の位置づけの問題 1 11 美術史における作品の位置づけの問題 2 12 美術史における作品の位置づけの問題 3 13 研究の課題と波及する問題 1 14 研究の課題と波及する問題 2 15 総括					
【教材・テキスト】 受講者と相談の上で指定する					
【参考文献】 受講者と相談の上で決定する					
【成績評価の方法および採点基準】 出席点およびレポート 授業に対する関心度と問題を把握したレベルによって評価する					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】 大学の学部時代に美術史（日本・東洋・西洋や時代は問わない）を十分（最低4コマ以上）学習してきていること。					

授 業 科 目 名	芸術史論				
担 当 教 員	足達薫				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 7-8	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋美術史の基礎的な研究方法と問題意識を理解し、修士論文の一部になりうるレベルのレポートを作成する。					
【授業の概要】 ルネサンスの美術を対象にして、西洋美術史の研究のシミュレーション（問題発見、作品の視覚的考察、文献資料（受講生の語学力に応じて、日本語と外国語を扱う）と視覚的資料の収集、先行研究の批判的考察、内容発表、レポートの作成）を行う。					
【授業内容予定】 1 計画 2～4 基本的な方法論 西洋美術史の基本的な方法論について解説する。 5～7 ルネサンスとは何か ルネサンスの社会、文化、そして美術について、参考文献を挙げながら解説する。 8～11 中間考察 受講者はそれらの参考文献の研究を進めながら、具体的な作家や作品を研究対象として絞り込む。その作業の経過を授業で報告する。 12 発表1：様式についての考察 13 発表2：図像学的考察 14～15 レポートの提出と解説					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、発表、レポートから総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 課題について自分で資料を集め、検討し、レポートする。					
【留意点・予備知識等】 準備のための読書量は相当なものになります。ラテン語やイタリア語等の馴染みの薄い外国語の知識も必要となってきます。					
【オフィスアワー】 水曜日13～14時。					

授 業 科 目 名	西洋古典学				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋古典学（Classics）の主要な分野に関する英文論考の読解をととして、ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代の文化的特質について深く理解します。					
【授業の概要】 英文論考をととして、初期ギリシア思想からヘレニズム期・ローマ期にいたるまでの倫理思想（Ethics）の問題系譜を 辿ります。					
【授業内容予定】 1) 導入（Introduction）－西洋古典古代における倫理思想へのいざない 2) ギリシア詩人たち－ホメロス（c.750 BC）から悲劇詩人たちまで 3) 初期ギリシアの思想家たち（1）ピュタゴラス学派 4) 初期ギリシアの思想家たち（2）ヘラクレイトス，エンペドクレス，アナクサゴラス 5) ソピスト思潮 6) ソクラテス（1） 7) ソクラテス（2） 8) プラトン（1） 9) プラトン（2） 10) アリストテレス（1） 11) アリストテレス（2） 12) ヘレニズム期の思想家たち－エピクロス学派とストア学派，懷疑派 13) プロティノスと新プラトン主義 14) キリスト教思想家アウグスティヌス 15) まとめ					
【教材・テキスト】 （以下の英文論考のコピーを配布します） Gill, C.J., Classical Ethical Thought, Zeyl, D.J.(ed.), <i>Encyclopedia of Classical Philosophy</i> (Fitzroy Dearborn Publishers, 1997), pp.221-229.					
【参考文献】 授業中に、適宜指定する予定です。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて、学期末に提出されるレポートに重点をおいて、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 少人数の学生諸君を対象とする演習形式の授業のため、教科書として指定された文献等の予習・復習が必要となります。					
【留意点・予備知識等】 好奇心旺盛で、やる気のある学生諸君の受講を期待します。					

授 業 科 目 名	日本倫理思想史論				
担 当 教 員	木村純二				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ・テキストの読解力および自身の考えをまとめ論述・発表する力を習得する。 ・日本倫理思想史の当該分野に関する専門的知識を習得する。					
【授業の概要】 和辻哲郎『日本倫理思想史』を精読する。					
【授業内容予定】 （但し受講者の理解や関心に応じて調整することがある。） 第1回 ガイダンス 第2回 和辻哲郎『日本倫理思想史』「序」「緒論」 第3回 同 第一篇 第4回 同 第二篇 第5回 同 第三篇第一章～第三章 第6回 同 第三篇第四章～第五章 第7回 同 第四篇第一章～第三章 第8回 同 第四篇第四章～第五章 第9回 同 第五篇第一章～第二章 第10回 同 第五篇第三章～第四章二節 第11回 同 第五篇第四章三節～第五章 第12回 同 第五篇第六章 第13回 同 第五篇第七章～第八章 第14回 同 第六篇 第15回 総括					
【教材・テキスト】 和辻哲郎『日本倫理思想史(一)～(四)』（岩波文庫）					
【参考文献】 熊野純彦『和辻哲郎』（岩波新書）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常の参加姿勢や理解度によって評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式で、担当者による当該範囲の発表を土台に議論する。					
【留意点・予備知識等】 受講前に自分自身の問題関心を整理しておくこと。					
【オフィスアワー】 初回の授業時に指示する。					

授 業 科 目 名	西洋倫理思想史論				
担 当 教 員	横地 徳広				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 この授業で受講生のみなさんは、西洋倫理思想史の重要概念を学びながら、倫理学と政治哲学の木 共通領域における哲学的問題に考察していく。この考察を通じて、両者にかかわる社会事象を解釈 する哲学的思考の習得がめざされる。					
【授業の概要】 アリストテレスの連続講義である『ニコマコス倫理学』と『政治学』に代表されるように、ヨーロ ッパ世界では、〈倫理学と政治哲学〉と表現しうる連続テーマ領域が歴史的に開かれてきた。この授 業で受講生のみなさんは、テキストと映像資料の解釈を通じて、そうした〈倫理学と政治哲学〉の 具体相を考察する。					
【授業内容予定】 倫理学と政治哲学のテキストと映像を検討する。 1 ガイダンス テキスト決定とレジュメ担当決定 2～5 倫理学とは何か：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 6～9 政治哲学とは何か：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 10～14 両者の共通領域：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 15 まとめ					
【教材・テキスト】 ガイダンスのおり、受講生と相談して決まります。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介されます。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常評価（レジュメ、コメント、発言、出席）：100%（ただし、全15回中10回以上の出席が必要） 参加評価（優秀なコメントや発言に加点）：+α					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式。					
【留意点・予備知識等】 授業への参加者は、hcj3788@hirosaki-u.ac.jpまで 必ずメールすること 。					

授 業 科 目 名	日本古典文学				
担 当 教 員	渡辺麻里子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・変体仮名（仮名のくずし字）を読めるようになる。 ・『天狗の内裏』という作品を通じて、天狗、夢告、兵法伝授、地獄極楽訪問譚、未来記などといったモチーフを学び、日本古典文学の基礎知識を習得する。 ・津軽と義経伝承、津軽の藩医・渋江抽斎など、津軽の文化を学ぶ。 ・古典文学の調べ方を学び、自分なりに問題意識を持って掘り下げ、発表が出来るようになる。 ・質疑を通じて、議論の深め方を学ぶ。					
【授業の概要】 弘前市立図書館岩見文庫蔵『天狗の内裏』を中心に、室町時代の物語を考察する。『天狗の内裏』は、多くの伝承が盛り込まれた源義経の一代記である。発表は、『天狗の内裏』のくずし字を学習・翻刻するところからはじめ、語釈、解説を行う。発表後、参加者で討論し、読解を深める。古典の諸文献の扱い方、読解の仕方を学ぶ。また、発表や討論を通じて、室町時代の物語を読み味わい、古典世界の人々の生き方を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 『天狗の内裏』解説1―義経について― 第3回 『天狗の内裏』解説2―内容構成について― 第4回 『天狗の内裏』解説3―伝本について― 第5回 『天狗の内裏』解説4―渋江抽斎について― 第6回 くずし字について 第7回 演習1―上巻・冒頭― ・担当者が発表を行う。 ・受講者の間で質疑、ディスカッションを行う。解説を行う。 第8回 演習2―上巻・義経の発願― 第9回 演習3―上巻・毘沙門天の導き― 第10回 演習4―上巻・天狗の内裏到着― 第11回 演習5―上巻・天狗との確執― 第12回 演習6―上巻・大天狗の歓待― 第13回 演習7―上巻・天狗の神通力― 第14回 演習8―上巻・天狗と兵法― 第15回 『天狗の内裏』まとめ 第16回 試験・レポート					
【教材・テキスト】 ・『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社） ・『天狗の内裏』については、資料を配布する。					
【参考文献】 授業時に紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 ・発表とレポート、試験を総合的に評価する。 ・発表は担当を決めて発表、試験は変体仮名を読む。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。くずし字は、これまで学んだことがなく、全く知らなくても大丈夫です。 内容及び開講時間は、受講者の希望等により、変更することもあります。					
【オフィスアワー】 随時。昼休み。木曜5－6限など。先にメール連絡をもらえると確実です。					

授 業 科 目 名	中国言語文化論				
担 当 教 員	植木 久行				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1, 詩跡の概念とその形成を理解する。 2, 詩跡研究における基礎的な文献知識を深めて、研究の手法を習得する。					
【授業の概要】 詩跡とは歴代の詩人たちに詠みつながれて、新しい変奏を積み重ねて著名になり、詩歌の創造に点火して、表現の核となる力をたたえた地名（古典詩語）をいう。それは単なる名勝・古跡とは異なり、詩歌を主体とした新しい概念であり、詩歌によって生み出された独特の連想作用を瞬時に喚び起こす、風雅な詩心の伝統を宿す場所であった。 この授業では、詩跡の概念と機能、その形成と展開、詩跡を著録する地理書－総志（全国性地域志）・方志（行政区域を単位とする地方志）について述べ、寒山寺・楽遊原・廬山・鶴雀楼など、著名な詩跡に対する具体的な研究事例をあげて、その研究方法を考える。					
【授業内容予定】 第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要の説明） 第2回 詩跡の概念と機能－風土からの発想－ 第3回 詩跡の形成とその展開－詩歌による地誌－ 第4回 歴代の地理総志に見る詩跡の著録とその展開（1）－宣城の敬亭山－ 第5回 歴代の地理総志に見る詩跡の著録とその展開（2）－済南の大明湖・歴下亭－ 第6回 蘇州第一の詩跡、楓橋・寒山寺考（1） 第7回 蘇州第一の詩跡、楓橋・寒山寺考（2） 第8回 蘇州第一の詩跡、楓橋・寒山寺考（3） 第9回 唐都長安楽遊原詩考（1） 第10回 唐都長安楽遊原詩考（2） 第11回 二つの香炉峰と廬山の瀑布（1） 第12回 二つの香炉峰と廬山の瀑布（2） 第13回 唐代の鶴雀楼の位置考（1） 第14回 唐代の鶴雀楼の位置考（2） 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 なし。プリントを配付する。					
【参考文献】 松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999年、「Ⅲ 名詩のふるさと（詩跡）」） 植木久行編著『中国詩跡事典－漢詩の歌枕・俳枕－』（研文出版、2015年）。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業の予習状況、理解度の向上、出席状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義・演習の併用。					
【留意点・予備知識等】 文言詩文の資料等は、受講者に読解してもらいます。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	中国社会論				
担 当 教 員	城本 るみ				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中国社会の特質を資料から客観的に分析することができ、中国社会の特徴を理解できること。 また問題を解決していくための有効な方法論について議論できること。					
【授業の概要】 急激な経済や社会の変化によって、さまざまな問題に直面している中国や台湾社会の実相からその社会的特徴を探り、問題の背景について考察していく。					
【授業内容予定】 第1回：導入 第2回：中国における人口政策（1） 第3回：中国における人口政策（2） 第4回：台湾の少子化 第5回：日本の少子化 第6回：中国の高齢化（1） 第7回：中国の高齢化（2） 第8回：台湾の高齢化（1） 第9回：台湾の高齢化（1） 第10回：日本の高齢化 第11回：福祉改革の行方（1） 第12回：福祉改革の行方（2） 第13回：介護労働の担い手（1） 第14回：介護労働の担い手（2） 第15回：総括					
【教材・テキスト】 使用しません。					
【参考文献】 必要に応じ適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点および課題提出状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 調査資料や研究論文講読を行いながら討論していく演習形式です。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜・水曜12:00～12:30（事前に連絡があれば、これ以外の時間も設定可能です。）					

授 業 科 目 名	英文学B				
担 当 教 員	小野寺 進				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
文学作品を原書で読み、深く理解することを目標とします。					
【授業の概要】					
18世紀以降のイギリス文学では散文が急速に表現力を増し、その担い手である中産階級の実力伸張と相まって、新ジャンルとしての「近代小説」を誕生させることになる。この文学現象を「小説」を核に、関連する他のジャンルの文芸や社会現象をも考慮しながら、この時代の文学的特徴を明らかにします。					
【授業内容予定】					
今年度はJoseph Conradの <i>Heart of Darkness</i> を読みます。					
第1回イントロダクション第9回 45～50頁					
第2回 3～8頁第10回 51～56頁					
第3回 9～14頁第11回 57～62頁					
第4回 15～20頁第12回 63～67頁					
第5回 21～26頁第13回 68～73頁					
第6回 27～32頁第14回 74～78頁					
第7回 33～38頁第15回 79～96頁					
第8回 39～44頁					
【教材・テキスト】					
Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i> Penguin Classics ISBN 978-0-141-44167-2					
【参考文献】					
適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の授業での発表で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式。教材を輪読しながら問題点を確認していきます。					
【留意点・予備知識等】					
十分な予習が必要です。					
【オフィスアワー】					
水曜日10:30～11:30					

授 業 科 目 名	英文学C				
担 当 教 員	澤田 真一				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ポストコロニアルの文学理論を学び、植民地主義の負の遺産を、旧植民地が払拭していく過程を、文学を通して理解できるようになることを目指します。					
【授業の概要】 ニュージーランド文学を中心に、植民地としてのオセアニアの文学（オーストラリア、サモア等）を解説していきます。					
【授業内容予定】 1840 年のワイタング条約により、英国の植民地として出発したニュージーランドは、1990 年に建国 150 周年を迎えました。先進福祉国家として理想的な二文化共存をうたうニュージーランドの歴史は、同時にマオリ的価値観とヨーロッパ的価値観の相克の歴史をも内包しています。当講義では、マオリ対パケハの対立の構図を中心に据えて、植民地文学としてのニュージーランド文学をポスト・コロニアルな観点から読み解いていきます。 1. イントロダクション 2. 文学作品の映画鑑賞(1) 3. 文学作品の映画鑑賞(2) 4. 作品の解説と批評 5. ポストコロニアル理論(1) 6. ポストコロニアル理論(2) 7. ケリ・ヒューム(1) 8. ケリ・ヒューム(2) 9. アラン・ダフ(1) 10. アラン・ダフ(2) 11. パトリシア・グレイス 12. ウイティ・イヒマエラ(1) 13. ウイティ・イヒマエラ(2) 14. キャサリン・マンスフィールド(1) 15. キャサリン・マンスフィールド(2) 16. 試験					
【教材・テキスト】 第一回の講義時に、学生と相談のうえ決定します。					
【参考文献】 講義の中で、その都度紹介していきます。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業態度、及び期末試験（あるいはレポート）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生側の積極的な参加を期待した、双方向的な授業になります。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	英文学D（26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	土井雅之				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文学作品を精読し、時代背景を踏まえながら、作品について深く考察する力を身につけることを目標とします。					
【授業の概要】 シェイクスピアの『ハムレット』を扱います。太宰治の『新ハムレット』との比較も考えています。					
【授業内容予定】 1. 作家・作品紹介 2-9. 作品講読など 10. まとめ（前半）、レポートの説明 11-15. 『新ハムレット』との比較 16. まとめ（後半）、レポートの提出					
【教材・テキスト】 初回に説明します。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点（出席と発表など）＋ レポート。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】 予備知識等は必要ありませんが、旺盛な知識欲を持って授業に臨んでください。					
【オフィスアワー】 木曜日・5－6時限。					

授 業 科 目 名	米文学				
担 当 教 員	堀 智弘				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 アメリカ文学の短編小説を読むことを通して、米文学の代表的な作家に親しみつつ作家に関する基本的知識を身につけるとともに、英語で書かれた小説の読解力を向上させることを目標とします。					
【授業の概要】 19世紀から世紀転換期あたりまでの代表的なアメリカの小説家の短編小説を一回につき一人の割合で読み、各作家の作風に親しむとともに、作者を取り巻く歴史的社会的背景を考えます。					
【授業内容予定】 第1回 イントロダクション 第2回 Washington Irving, “Rip Van Winkle” 第3回 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” 第4回 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” 第5回 Herman Melville, “Bartleby” 第6回 Sarah Orne Jewett, “A White Heron” 第7回 Mary E. Wilkins Freeman, “A New England Nun” 第9回 Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Wallpaper” 第10回 Henry James, “The Real Thing” 第11回 Kate Chopin, “The Storm” 第12回 Willa Cather, “Paul’s Case” 第13回 Jack London, “To Build a Fire” 第14回 Edith Wharton, “Roman Fever” 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 第1回目の授業の時に指示します。					
【参考文献】 授業のなかで紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業参加、レポートを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式となります。					
【留意点・予備知識等】 毎回指定された作品を読んで授業に臨むことが求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日 12:00 ～ 13:00					

授 業 科 目 名	フランス言語語・文化論				
担 当 教 員	熊野 真規子				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・文化研究の一アプローチをより深く理解すること ・フランス語文献の講読力を向上させること					
【授業の概要】 ソシュールの思想を中心に、現代言語論の原文の抜粋を講読形式で読み進め、翻訳では失われてしまうニュアンスを確認しながら、文化研究の一アプローチをより深く理解します。					
【授業内容予定】 ・ 導入：言語研究史概観 ・ ランゲージュ／ラング／パロール ・ 共時態／通時態 ・ 連辞／範列 ・ シニフィアン／シニフィエ ・ 第一次分節／第二次分節 ・ 恣意性 ・ 形相と実質 ・ 意味と価値					
【教材・テキスト】 プリントを配布します。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 講読形式をとるため、出席回数、予習の準備度などを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 導入＋講読形式14回					
【留意点・予備知識等】 フランス語既習者であること。予習済みであっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。					
【オフィスアワー】 火曜日・5－6時限					

授 業 科 目 名	フランス文学				
担 当 教 員	泉谷 安規				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 授業内容そして作品の深い理解はもちろんですが、正確なフランス語の読解ができることをも目標とします。					
【授業の概要】 フランスの19世紀の作家バルザック（Balzac, 1799－1850）の二つの作品を読んで、フランスの近・現代の「小説の誕生」、そしてそれを可能にした時代背景（19世紀ジャーナリズム・メディアの発展といった問題）も見据えて考察していきます。					
【授業内容予定】 1) イントロダクション 2) バルザックという人物とその時代 3) バルザックの小説の総決算「人間喜劇」とは何かにかについて 4) 『ゴリオ爺さん』における冒頭の「描写」について 5) 『ゴリオ爺さん』の登場人物について 6) 『ゴリオ爺さん』の「恋愛」について 7) 『ゴリオ爺さん』の「陰謀」と「犯罪」について 8) 『ゴリオ爺さん』と『幻滅』の関連性について 9) 『幻滅』の冒頭に描かれている本の制作（印刷業）について 10) 『幻滅』の主人公リュシアンのパリ上京について 11) 『幻滅』とパリのジャーナリズムについて 12) 『幻滅』における「恋愛」について 13) 『幻滅』のリュシアン「没落」について 14) 『幻滅』のその後について 15) まとめ					
【教材・テキスト】 主にバルザックの作品『ゴリオ爺さん』（Le Père Goriot, 1834）、『幻滅』（上・下）（Illusions perdues, 1837－39）の二つをテキストに使いますが、この二作は、いずれも内容が豊富で、かつ量的にも長い作品です。その意味では、この二つの作品を、読破するという少々きついハードルが待ち受けていることを覚悟しておいてください。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業に対する積極的な態度（出席、テキスト講読の準備具合等＝30%）とレポート（70%）で成績を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式で行いますが、テキストを読む場合には講読形式になります。					
【留意点・予備知識等】 フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでいない人、あるいは学んだが、あまり自信がない人はあらかじめ申し出てください。相談して、使用するテキスト（原文あるいは翻訳）を決めたいと思います。					

授 業 科 目 名	現代アメリカ論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	南 修平				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日 7・8 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 現代アメリカが抱える主要な 이슈を理解し、それらについて自らの意見を展開して議論する力の習得を目指します。					
【授業の概要】 本年アメリカ合衆国では大統領選挙が行われます。その過程で現代アメリカ社会が抱える様々な問題が浮かび上がり、候補者はそれらに対する自らのスタンスを打ち出すでしょう。本講義と同時並行で進む大統領選挙に注意を払いながら、現代のアメリカの論争的課題からいくつかの 이슈に注目し、それらを通じて現代アメリカの実像に迫ります。					
【授業内容予定】 第1回 現代アメリカ社会を俯瞰する 第2回 現代アメリカの政治と社会—大統領・議会・政党 第3回 アメリカの語る民主主義 第4回 権利としての武装、民主主義としての武装 第5回 銃を放さない人々、放せない人々 第6回 銃と暴力の現実—フルートベールからファーガソン、ニューヨークへ 第7回 銃から見える現代アメリカ社会の諸相 第8回 同性愛者の軌跡—ストーンウォールから最高裁判決へ 第9回 ハーヴィー・ミルクとその時代 第10回 生殖は誰のものか—人工中絶をめぐる衝突 第11回 代理母・体外受精—揺れる家族のかたち 第12回 現代アメリカにおける人種—カラブラインドな社会は実現したか 第13回 アファーマティヴ・アクション論争—「逆差別」の広がり 第14回 急増するヒスパニック、アジア系人口—進むマイノリティの多様化 第15回 9・11後のアメリカ—ヘイト・クライムの台頭と抗う力					
【教材・テキスト】 特定の教科書は使用しませんが、トピックごとにリーディング・アサインメントがあります。					
【参考文献】 渡辺靖編『現代アメリカ』（有斐閣、2010年） その他については講義中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 講義に対する準備、課題への取り組み、講義中での議論、期末レポートによる総合評価となります。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と演習の双方を織り交ぜた形で進めていきます。					
【留意点・予備知識等】 事前課題としてのアサインメントを読んでくることは当然ですが、それ以外の参考文献・資料・ウェブサイトなどに積極的にあたることが求められます。					
【オフィスアワー】 火曜日 9・10 時限					

授 業 科 目 名	一般言語学				
担 当 教 員	山本 秀樹				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 特定の個別言語ではなく、すべての人類言語に共通する視点から言語を研究する一般言語学的な考え方を身につけることを目標とする。					
【授業の概要】 人類言語一般を研究するための基盤となる考え方や手法について考察する。					
【授業内容予定】 第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 一般言語学的研究の概要 第3回 通言語的な概念 第4回 通言語的な概念の定義 第5回 人類言語に共通する特性の研究 第6回 人類言語に共通する特性の種類 第7回 人類言語に共通する特性に対する説明原理 第8回 他の視点による研究 第9回 人類言語一般を扱うための階層 第10回 人類言語の様々なタイプ 第11回 人類言語の音韻的タイプ 第12回 人類言語の形態的タイプ（古典的研究） 第13回 人類言語の形態的タイプ（現代の研究） 第14回 人類言語の統語的タイプ 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用する。					
【参考文献】 バーナード・コムリー著（松本克己・山本秀樹訳）『言語普遍性と言語類型論』（ひつじ書房） 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していく。					
【留意点・予備知識等】 言語学の基礎的知識をある程度持っていることが望ましいが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがある。					
【オフィスアワー】 金曜日：12時から13時					

授 業 科 目 名	言語文書処理論				
担 当 教 員	内海 淳				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文字に関わる幅広い知識を身につけると同時に、IT時代における文字の利用の問題点を理解することを目指します。					
【授業の概要】 言語の重要な表現手段である文字を、音韻面およびコンピュータとの関わりの二つの観点から考察します。					
【授業内容予定】 1：言語音声のシステムの基礎 2：音韻論の基礎 3：アルファベット(ローマ字・キリール文字など) 4：インド系文字 5：漢字 6：かな 7：ハングル 8：国際音声字母 9：文字集合規格とエンコーディング 10：ASCII 11：ISO8859 12：日本語の文字コード 13：諸外国の文字コード 14～15：UNICODE					
【教材・テキスト】 必要に応じてプリント等を配布します。					
【参考文献】 Florian Coulmas <u>Writing Systems</u> , Cambridge University Press ユニコードの Web Site (http://www.unicode.org/)					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式に、演習形式を取り入れて行います。					
【留意点・予備知識等】 受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00から12:40					

授 業 科 目 名	統語論 (Syntax)				
担 当 教 員	木村宣美				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 9・10 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
1. 構造と範疇を意識した精読を通じて、言語研究をする際に必要とされる読解力の向上を図る。 2. 統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の基礎知識を身につける。 3. 英語焦点倒置の諸特性を学ぶ。					
【授業の概要】					
Culicover, Peter W. & Susanne Winkler. 2008. English Focus Inversion. <i>Journal of Linguistics</i> 44, 625-658.を精読する。					
【授業内容予定】					
第1回 Introduction 第2回 Comparative Inversion: CI is not SAI: VP ellipsis 第3回 Comparative Inversion: CI is not SAI: Predicate ellipsis 第4回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Parasitic gaps 第5回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Multiple <i>wh</i> -questions 第6回 Comparative Inversion: Licensing subject in situ 第7回 Comparative Inversion: British CI 第8回 The Information Structure of English Focus Inversion: The phonology of low subject in CI 第9回 The Information Structure of English Focus Inversion: Semantics of contrastive focus and CI 第10回 The Information Structure of English Focus Inversion: Contrastive focus requirement on subject in CI 第11回 The Information Structure of English Focus Inversion: Ellipsis in CI 第12回 More Focus Inversion Constructions: <i>So-goes</i> 第13回 More Focus Inversion Constructions: Inversion after <i>so</i> and <i>as</i> 第14回 More Focus Inversion Constructions: Locative Inversion and Apparent SAI 第15回 Summary and Conclusions					
【教材・テキスト】					
精読する学術論文は、授業用資料として配布する。					
【参考文献】					
神尾昭雄・高見健一 1998『談話と情報構造』研究社出版 久野 暉 1978『談話の文法』大修館書店 高見健一 1995『機能的構文論による日英語比較-受身文、後置文の分析-』くろしお出版 畠山雄二・本田謙介・田中江扶 2015 『日英比較構文研究』開拓社 ※必要に応じて適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
英文読解の正確さ・理解度・統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の基礎知識の習熟度の観点から、出席状況・発表・レポートの結果を総合して、評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式（文献講読及び解説）					
【留意点・予備知識等】					
統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の専門教育科目『英語学B』『英語学演習B』及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
木曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]					

授 業 科 目 名	意味論				
担 当 教 員	奥野 浩子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 動詞の意味構造を理解し、その動詞が使われている文の文法性を「予測」したり、「説明」ができるようになること。					
【授業の概要】 英語の動詞の意味構造の表し方を学び、その意味構造を用いて具体的な文の文法性をどのように説明するかを学びます。					
【授業内容予定】 第1回 導入 最近の意味理論 第2回 動詞の項表現の多様性 第3回 動詞の意味クラス 様態動詞と結果動詞 第4回 動詞の意味構造(1) 述語分解 第5回 動詞の意味構造(2) 定項 事象構造テンプレート 第6回 動詞の意味構造(3) canonical realization rules 第7回 意味の拡大 Template Augmentation 第8回 意味構造と統語構造(1) Well-formedness Conditions, Subevent Identification Condition 第9回 意味と統語構造(2) Argument Realization Condition 第10回 動詞の多義性 第11回 結果構文 第12回 除去動詞 第13回 所格交替 第14回 自他交替 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用します。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートで総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と質疑応答で進めます。					
【留意点・予備知識等】 予備知識は求めませんが、英語の読解力と「ことばに対する好奇心」は必要です。					

授 業 科 目 名	日本語史方法論				
担 当 教 員	川瀬 卓				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語の歴史を捉えるための方法を身に付ける。また、ある論に対して、過不足ない理解をしたうえで、問題点を指摘する思考法を身に付ける。					
【授業の概要】 ことばの歴史を明らかにする方法について、多面的、総合的に概説した大木一夫（2013）『ガイドブック日本語史』ひつじ書房を読み進めていく。また、言語変化や文献の扱いに関わるその他の論文も数本読む。					
【授業内容予定】 1. 第1章 ことばは変化する——歴史言語学序説 2. 第2章 ことばはなぜ変化するのか 3. 小柳智一（2013）「言語変化の段階と要因」『学芸国語国文学』45 4. 第3章 信頼できるテキストを求めて 5. 第4章 文献にあらわれた言語の性格（1）——作品成立時の言語の姿にせまる 6. 第5章 文献にあらわれた言語の性格（2）——言語の位相差と地域差 7. 第6章 文献による言語の歴史 8. 吉田永弘（2012）「平家物語と日本語史」『愛知県立大学説林』60 9. 第7章 文献以前の言語の姿をさぐる 10. 第8章 言語の地域差と言語の歴史（1）——比較方言学とその方法 11. 第9章 言語の地域差と言語の歴史（2）——言語地理学とその方法 12. 第10章 方言による言語史と文献による言語史 13. 第11章 言語の体系性と言語の歴史——内的再建 14. 第12章 社会のなかの言語と言語変化 15. 日高水穂（2006）「第5章 文法化」『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店					
【教材・テキスト】 大木一夫（2013）『ガイドブック日本語史』ひつじ書房					
【参考文献】 随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 演習発表（50%）、期末レポート（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を交えて行う。演習形式では、担当者が内容を簡潔に紹介し、批判的検討を行う。その後、参加者全員で討議を行う。					
【留意点・予備知識等】 日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。ただし、予備知識がない人でもついていけるように、学習の指針を示す、質問に丁寧に答えるなどのフォローはしていく。					
【オフィスアワー】 水曜日11:00～12:40					

授 業 科 目 名	社会言語学				
担 当 教 員	佐藤 和之				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 方言と古語の関係を理解する。					
【授業の概要】 人間が集まるところに共通のことばが発生する。一方で、使われることばは集団によって違っている。Aという集団の言語とBという集団の言語は、同一言語内での違いならば、それらは、それぞれA方言、B方言と呼ばれる。それでは、連続する地域ABがあったとき、A方言とB方言の境界はどのようにして認めるのだろうか。また古典で習った「ナヅキ」がA方言で使われている理由や奈良時代の発音がB方言で話される理由をどう説明するのだろうか。方言周圏論と方言区画論という術語をもとに、具体的な語例をもとに方言の成立過程と日本語の変化について講義する。					
【授業内容予定】 1. 生活環境と方言 2. 「滑るにいい」という言い方 3. 可能・自発の助動詞 4. 平安末に編まれた漢和辞典とアクセント 5. 術語の歴史の変遷－国語・標準語・共通語・方言 6. 方言と古語－ケカヂ・メンコイ・ショシイなど 7. ことばの伝播と区画 8. 「蝸牛」と方言周圏論 9. 柳田国男と方言研究 10. 東西方言の対立 11. 国語調査委員会と標準語の制定 12. 方言区画論 13. 青森方言の区画－津軽方言と南部方言 14. ハンデとスケを考える 15. まとめ					
【教材・テキスト】 使いません。適宜プリントを配布します。					
【参考文献】 講義中に紹介します。					
【成績評価及び採点基準】 15回目の講義日に実施します。方言と古語の関係を正しく理解できたかについて評価します。					
【授業形式・形態及び授業方法】 おもに講義形式ですが、何度か宿題により文献調査や方言調査をしてもらうことがあります。					
【留意点・予備知識】 大学院の授業科目ですので、方言を楽しく知るという内容でなく、日本語の形成過程を言語学的に周知することを講義目的としています。そのためには古典を読んでもらったり、方言辞典を扱ってもらうことがあります。					
【オフィスアワー】 研究室在室時は常時大丈夫です					

授 業 科 目 名	日本語教育論A				
担 当 教 員	鹿嶋 彰				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 第二言語としての、或いは外国語としての日本語教育の概要について理解するとともに、その知見を日本語学研究、外国語教育、国語教育研究等の分野に応用できるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 日本語教育の歴史、教育内容から、いくつかの話題を選んで考察します。また、それらの知識に基づき、日本語教育の教材研究等を行い、日本語教育の基本を学びます。					
【授業内容予定】 下記の要領で授業を進める予定です。 1回目 オリエンテーション 2回目 日本語教育の歴史と現状① 歴史 3回目 日本語教育の歴史と現状② 教育の対象 4回目 日本語教育の歴史と現状③ 教育内容 5回目 日本語の音声と教育 6回目 日本語の語彙・標記と教育 7回目 日本語の文法と教育 8回目 教材研究① 初級総合教材 9回目 教材研究② 初級総合教材 10回目 教材研究③ 初級総合教材 11回目 教材研究④ 作文教材 12回目 教材研究⑤ 読解教材 13回目 日本語教育の実際① 14回目 日本語教育の実際② 15回目 まとめ					
【教材・テキスト】 一回目の授業時に指示します。					
【参考文献】 授業時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、提出物、小論文、口頭発表を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 日本語学、日本語教育学の予備知識は特に必要ありません。					
【オフィスアワー】 一回目の授業時に指示します。					

授 業 科 目 名	日本語教育論B				
担 当 教 員	小山 宣子				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語教育的観点から、特定の言語行動を分析できるようになる。					
【授業の概要】 1 留学生の場合、日本語の母語話者と非母語話者の接触場面の会話を録音し、分析する。 2 日本人の場合、日本人同士の接触場面の会話を録音し、分析する。					
【授業内容予定】 1、2の場合とも：1-5回目：主な先行研究の収集とレポートのテーマ決定。6-12回目：データ収集、テープ起こし、分析 13-15回目：まとめ作業。					
【教材・テキスト】					
【参考文献】 2012『雑談の構造分析』筒井					
【成績評価の方法および採点基準】 レポート					
【授業形式・形態および授業方法】 1～7回目は、主に本を講読し、その間に適当な会話を録音しておく。その後、8～15回でテープ起こしを行い、分析を試みる。					
【留意点・予備知識等】 学部等で日本語教育に関する授業を取っておくことが望ましい。					
【オフィスアワー】 火曜日56時限					

授 業 科 目 名	情緒社会学				
担 当 教 員	羽瀧 一代				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 対人関係やその構造に関する専門的知識の習得、ならびに、英語文献を十分に読解する能力の養成を目標とします。					
【授業の概要】 情緒＝感情をてがかりとして、社会集団を理解する方法を修得します。とくに、「友情」感情と社会規範との連関を考察します。					
【授業内容予定】 学生に関心によって、具体的な内容は変わってきますが、基本的には人間関係と、その構造が個人と集団のパフォーマンスにどのような効果を持つのかについて、海外の文献を原著で購読します。教材は、書籍の場合もあれば、単一の論文である場合もあります。 第1回 情緒社会学とは 第2回～第14回 下記の文献の中から選択し、講読。 第15回 考察 以下は講読対象の例ですが、履修学生の興味に応じて何を読むかは変わります。 Scott, J. (1991). Social network analysis: a handbook (2nd ed.). London: Sage Publications. Burt, S. (1992). Structural holes: the social structure of competition. London: Harvard University Press. Putnam, R. (2000). Bowling alone: the collapse and revival of American community. Simon & Schuster, NY.					
【教材・テキスト】 随時、指定します。					
【参考文献】 A. ギデンズ、(1992=1995、訳書)『親密性の変容—セクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表、議論内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行います。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	生態人類学				
担 当 教 員	曾我 亨				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1.生態人類学が霊長類学と共有する独特の調査スタイルを理解すること。 2.現代的なテーマへのアプローチ方法を理解すること。 3.東アフリカの牧畜社会について理解すること。					
【授業の概要】 京都大学理学部を中心に発展をとげてきた生態人類学を、具体的な研究事例に言及しながら講義します。					
【授業内容予定】 講義はつぎの3部から構成される。 - 生態人類学の成立と初期の成果 ①霊長類学から生態人類学へ、②狩猟採集社会の研究、③農耕社会の研究、④牧畜社会の研究、⑤コミュニケーションの諸相 - 現代的なテーマを生態人類学はどのように解明してきたか ⑥狩猟採集社会と定住化政策、⑦「所有」の諸相、⑧ヤムイモ論争、⑨構造調整とアフリカ農村、⑩社会変容と生業の論理 - 東アフリカ牧畜民の民族誌 ⑪境界の牧畜民、⑫牧畜社会のネットワーク、⑬国家への包摂、⑭牧畜社会と暴力、⑮生業の可能性					
【教材・テキスト】 講義はレジュメを配付しておこなう。					
【参考文献】 講義のなかで随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（コメントや質問など議論への参加）から総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	ドイツ論				
担 当 教 員	齋藤 義彦				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・9・10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 近代ドイツの歴史的展開を検討し、歴史的条件から現代ドイツを理解し、日独比較の視点を獲得すること					
【授業の概要】 近代ドイツの内政と外交					
【授業内容予定】 (1) 近代ドイツ史とドイツ連邦共和国 (1 5) 現代ドイツ (2) 30年戦争と連邦制 (3) 英仏戦争とドイツ (4) フランス革命とドイツ (5) 王政復古とドイツ (6) 3月革命とドイツ (7) 普墺戦争とドイツ (8) ドイツ帝国 (9) オーストリア＝ハンガリー帝国 (10) 第1次世界大戦とドイツ (11) 第2次世界大戦とドイツ (12) 二つのドイツ国家とオーストリア (13) アデナウアーとドイツ (14) ブラントとドイツ					
【教材・テキスト】 開講時に決定します					
【参考文献】 その都度紹介します					
【成績評価の方法および採点基準】 授業での成果とレポートを総合的に評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜7・8時限					

授 業 科 目 名	文化人類学A				
担 当 教 員	杉山 祐子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1) 文化人類学の基本的な考え方や方法についての理解を深める。 2) 現代における文化人類学の課題と可能性を知る 3) 自身の研究を展開するうえでの手がかりを得る					
【授業の概要】 今期は「人類学の名著から考える」をテーマとして授業を進めます。 この授業では、古典的名著として知られる著作を中心に扱うとともに、それが提起した課題に関わる現代社会のエスノグラフィーを2、3点選び、検討を加えながら講読します。今期は、呪術、サファリング、葛藤を主なテーマとします。					
【授業内容予定】 1回 イントロダクション 2回 文化人類学の調査と研究 3回 文化人類学の系譜 4回 人類学の名著を読む（1）：5回 人類学の名著を読む（2）： 6回 人類学の名著を読む（3）： 7回 人類学の名著を読む（4）： 8回 人類学の名著を読む（5）： 9回 人類学の名著を読む（6） 10回 中間まとめとディスカッション 11回 現代社会のエスノグラフィーを読む（1）：テーマと対象の選定 12回 現代社会のエスノグラフィーを読む（2）：フィールドワークと記述の手法 13回 現代社会のエスノグラフィーを読む（3）：変わりゆく世界の中で 14回 現代社会のエスノグラフィーを読む（4）：実践の民族誌 15回 総合まとめ ＊内容や順番は受講者の基礎知識や関心等によって変更することもあります					
【教材・テキスト】 1回目の授業時にリストを配布します。英語文献が含まれることもあります。4回～9回はリストの中から選択した文献を使用します。10回以降は、候補の中から受講者の関心に沿った著作を使用します。					
【参考文献】 松田素二・川田牧人編著『エスノグラフィー・ガイドブック』嵯峨野書院ほか、授業中に順次紹介します					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席と議論への参加および毎回の発表、ディスカッションの内容を総合的に評価します。各期末にレポートを課すこともあります。					
【授業形式・形態および授業方法】 1～3回は講義形式、4回以降は演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	文化人類学B				
担 当 教 員	諏訪淳一郎				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 院生個人の学術的興味と合わせながら、人々の日常を「生きられた」ものにする文化的諸条件について考えます。					
【授業の概要】 文化人類学の下部領域のうち、祭礼、芸能、音楽に関する最新成果を精読します。					
【授業内容予定】 1. 序論（1回） 2. 祭礼（3回） 3. 芸能（4回） 4. 音楽（4回） 5. まとめ（1回）					
【教材・テキスト】 『パフォーマンスの音楽人類学』勁草書房					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席及びレジュメ作成による発表と討論を評価の基準にします。期末にレポートを果たすこともあります。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日 5・6 時限または予約					

授 業 科 目 名	アフリカ論				
担 当 教 員	フィリップス, ジョン・エドワード				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 To acquaint students with the basics of the dilemma of modern Africa.					
【授業の概要】 Reading, writing, presentations and discussion in English.					
【授業内容予定】 1) Chapter 1: “Africa without History” 「歴史がないアフリカ」 2) Chapter 2: “The Road not Taken” 「植民地がなければアフリカ」 3) Chapter 3: “Shadows of Neglected Ancestors” 「伝統がないアフリカ」 4) Chapter 4: “Tribalism and the New Nationalism” 「民族主義運動とナショナリズム」 5) Chapter 5: “The Rise of the Nation State” 「国家主義運動」 6) Chapter 6: “The Challenge of Nationalism” 「ナショナリズムの問題」 7) Chapter 7: “The Black Man’s Burden” 「黒人の重荷」 8) Chapter 8: “Pirates in Power” 「海賊政府」 9) Chapter 9: “The European Parallel” 「ユーロッパの例」 10 - 15) selected readings tailored to students’ interests 「学生関心の論文講読」					
【教材・テキスト】 Basil Davidson <i>The Black Man’s Burden: Africa and the Curse of the Nation State</i> (Three Rivers Press, 1992) (various readings to be assigned per student interests)					
【参考文献】 (to be arranged)					
【成績評価の方法および採点基準】 Participation, improvement and written work, both in class and as homework.					
【授業形式・形態および授業方法】 seminar.					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	北東北歴史論				
担 当 教 員	武井 紀子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
史料の輪読を通じて、北東北（津軽地方）の歴史について理解を深めます。					
【授業の概要】					
菅江真澄の随筆を年代順に追いながら、寛政年間の津軽地方の様相について、関連文献も含めながら、読解していきます。					
【授業内容予定】					
(但し、授業の進度と読む具体的な内容については受講者と相談しながら決める)					
津軽地方に逗留した菅江真澄の随筆の記載をてがかりに、津軽地方の歴史文化について考察する。					
1. ガイダンス ― 授業の進め方 ― 2～4 寛政八年四月～五月（『栖家能山』） 5～9 寛政八年六月～十二月（『外浜奇勝』『雪の母呂太奇』） 10～14 寛政九年正月～六月（『都介路迺遠地』） 15. まとめ					
【教材・テキスト】					
菅江真澄全集第二巻。第1回授業の時にまとめて配付する。					
【参考文献】					
授業中に適宜紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】					
出席と報告、学期末レポートにより評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的参加を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
担当者を決めての史料輪読と講義形式、関連論文の講読を組み合わせる。					
【留意点・予備知識等】					
特になし。予備知識は特に必要としませんが、読解の上で、辞書や地図などで内容を調べていく必要がある。					
【オフィスアワー】					
火曜日5－6時限。そのほか研究室（人文333）在室時には、いつでも来室して構わない。					

授 業 科 目 名	東北民俗学				
担 当 教 員	山田厳子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
東北における民俗学の研究史を知り、研究史上の課題を理解する。					
【授業の概要】					
東北における民俗学の研究課題を知り、東北に特徴的な民俗と研究史上の課題を学ぶ。					
【授業内容予定】					
1 イントロダクション 2 大きな家と小さな家 3 奉公人と家族 4 家と子ども 5 フィールド・ワーク 1 6 東北の巫女 7 イタコ 8 カミサマ 9 フィールド・ワーク 2 10 修験と芸能 11 修験の末裔と村 12 偽文書と由来書 13 山の神と伝説 14 世間話研究の「現在」 15 まとめ					
【教材・テキスト】適宜指示します。					
【参考文献】適宜指示します。					
【成績評価の方法および採点基】					
議論への貢献とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義＋演習＋実習					
【留意点・予備知識等】					
簡単なフィールド・ワークを予定しています。 受講生の興味、関心、理解度を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】					
火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	東北考古学				
担 当 教 員	上條 信彦				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 東北における考古学の話題を中心に、歴史のどのような課題と関連するのか、どのような解明法があるのか、資料に対する批判力と思考力を養う。					
【授業の概要】 考古資料を通じて、どのように生業や社会の復元を行っていくかといった方法論を実践的に学習します。					
【授業内容予定】 研究室が行っている東北に関連する考古学研究のなかから、受講者がテーマを選択し、論文・報告書などを調査したうえで、報告書に必要な文章を完成させます。授業では、その内容について発表し、課題や意見を述べてもらいます。 今年のテーマは、秋田県下台遺跡に関連する資料、および炭化米に関する調査が中心になります。 第1回 ガイダンスとテーマの選定 第11回 レポート発表・1 第13回 レポート発表・3 第15回 モノから社会を読み解く・2 第2～10回 各テーマの発表 第12回 レポート発表・2 第14回 モノから社会を読み解く・1					
【教材・テキスト】 第1回目に研究テーマを選定します。					
【参考文献】 授業での発表内容に関連する文献を指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容（5割）・意見など授業に対する取り組み（5割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 深い討議するためには論文を読むだけでなく、関連分野についての知識が要求されます。					

授 業 科 目 名	文化財保存・活用論				
担 当 教 員	関根 達人				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 5・6 時限目	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 文化財の指定・選定・登録に関する審議から保存管理計画や史跡整備事業計画の策定までの流れを理解することで、文化財の保存と活用に関する考え方や施策を学びます。					
【授業の概要】 具体的な事例に基づき、文化財の指定・選定・登録に関する審議から保存管理計画や史跡整備事業計画の策定までの流れを講義します。					
【授業内容予定】 1回目 ガイダンス 2～4回目 弘前市における文化財の指定・選定・登録 5・6回目 保存管理計画の策定（史跡上之国館跡の場合） 7・8回目 保存管理計画の策定（史跡大森勝山遺跡の場合） 9～11回目 史跡整備計画の策定（津軽氏城跡堀越城跡・大森勝山遺跡の場合） （うち1回は堀越城跡現地見学） 12～15回目 史跡津軽氏城跡弘前城跡本丸石垣の改修と整備計画 （うち1回は弘前城跡現地見学）					
【教材・テキスト】 授業の中で指示します。					
【参考文献】 授業の中で指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 意見・質問・感想など授業に対する姿勢（3割）とレポート（7割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式の授業です。毎回必ず意見・質問・感想などを求めます。					
【留意点・予備知識等】 弘前市内の史跡堀越城跡と弘前城跡の見学を各1回予定しています。					
【オフィスアワー】 水曜日 1・2 時限目					

授 業 科 目 名	地域文化財保存論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	片岡太郎				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 1・2 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 考古資料の材質と劣化状態を判断する能力を習得し、これらに応じた保存方針の策定、保存科学的な基礎理論と技術の習得を目指します。					
【授業の概要】 地域文化財の保存方法論に関する講義を行ないます。また、毎回、受講者に文化財の保存実践例を取り上げて、保存の方針と倫理、理論と技術について発表していただきます。授業では、毎回、意見や感想を求めます。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 受講者の専門と関心に応じて、授業で扱う重点的なテーマを決めます。 毎回、受講者の発表と以下の講義を行ないます。 第2回 文化財科学の歴史と文化財保存の倫理 第3～4回 有機材料で構成されている考古資料の劣化診断方法論 第5～7回 有機材料で構成されている考古資料の保存科学的研究 発掘現場における対処と保存処理方法、保管・展示環境について 第8～9回 無機材料で構成されている考古資料の劣化診断方法論 第10～12回 無機材料で構成されている考古資料の保存科学的研究 発掘現場における対処と保存処理方法、保管・展示環境について 第13～14回 遺跡保存の方法論 第15回 地域文化財保存に関する総合討論					
【教材・テキスト】 必要に応じて授業の中で指示します。					
【参考文献】 沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』クバプロ2003					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および授業に対する姿勢、発表を総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式で行ないます。毎回の受講者による発表は15分程度を予定しており、発表に基づくレジュメをA4サイズ1枚程度を準備していただきます。					
【留意点・予備知識等】 高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。					
【オフィスアワー】 水曜日 7・8 時限目（14:30～16:00）					

授 業 科 目 名	芸術文化史論				
担 当 教 員	足達薫				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日7-8	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 主に青森県で所蔵・公開されている西洋美術作品について、基礎的な資料収集と読解、作品の観察を行い、修士論文の一部になりうるレベルのレポートを作成する。					
【授業の概要】 主に青森県にある西洋美術作品について、具体的な研究（来歴の調査・文献資料・美術史的分析・作品観察）のシミュレーションを行い、レポートを作成して発表する。					
【授業内容予定】 1 日本にある西洋美術作品を考察する意味 2～4 美術史の基本的方法論の解説 5～7 青森県にある西洋美術作品の調査 西洋美術作品を調査し、文献資料を収集する。 さらに、その作品に関連する作家・時代・地域の西洋美術史について考察する。 8～11 文献資料の収集と批判 受講者は文献資料の収集と読解を進め、その進行具合をレポートする。 12 発表1：作品観察と記述 13 発表2：作品の美術史上の位置づけ 14～15 レポートの提出と解説					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席とレポート。					
【授業形式・形態および授業方法】 課題について自分で資料を集め、検討し、レポートする。					
【留意点・予備知識等】 準備のための調査活動・文献批判に多くの時間をかけようと思います。休日に見学会をすることもあります。					
【オフィスアワー】 水曜日13～14時。					

授 業 科 目 名	日本古典文化論				
担 当 教 員	渡辺麻里子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・変体仮名（平仮名のくずし字）を読めるようになる。 ・『善光寺縁起』を通じて、日本の仏教文化の知識を身につける。 ・津軽の善光寺信仰を学ぶ。 ・古典文学世界の人々の生き方を知る。 ・自分なりの問題意識で、課題を掘り下げて調べ、発表出来るようになる。 ・問題を立て、調査し、考察し、まとめるという過程を通じて、古典文学研究の方法を身につける。 ・質疑を通じて、他の受講者とともに、議論を深めていく方法を身につける。					
【授業の概要】 『善光寺縁起』を題材にして、古典文学の世界を考える。『善光寺縁起』は、日本の仏教伝来や仏教史、阿弥陀信仰と靈驗譚でつづられている。古典文学及び仏教や寺院社会についての基礎知識を身につけ、人々の信仰を学ぶ。また原文（写真版）を翻刻することにより、くずし字解読も修得する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 『善光寺縁起』解説1—善光寺について— 第3回 『天狗の内裏』解説2—内容構成について— 第4回 『天狗の内裏』解説3—伝本について— 第5回 『天狗の内裏』解説4—阿弥陀信仰について— 第6回 くずし字について 第7回 演習1—上巻・冒頭— ・担当者が発表を行う。 ・受講者の間で質疑、ディスカッションを行う。解説を行う。 第8回 演習2—上巻・龍宮— 第9回 演習3—上巻・仏像のはじめ— 第10回 演習4—上巻・中国への文法伝来— 第11回 演習5—上巻・日本への伝来— 第12回 演習6—上巻・欽明天皇と仏法— 第13回 演習7—日本での仏教排斥— 第14回 演習8—上巻・聖徳太子と仏法— 第15回 『善光寺縁起』まとめ 第16回 試験・レポート					
【教材・テキスト】 ・『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社） ・『善光寺縁起』については授業時に説明する。					
【参考文献】 ・小林計一郎『善光寺史研究』（信濃毎日新聞社、2000年） ・倉田邦雄・倉田治夫『善光寺縁起集成』第一巻（龍鳳書房、2001年） ・倉田邦雄・倉田治夫『善光寺縁起絵巻』（龍鳳書房、2003年）					
【成績評価の方法および採点基準】 ・発表とレポート、試験を総合的に評価する。・発表は担当を決めて発表、試験は変体仮名を読む。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式で行う。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。くずし字は、これまで学んだことがなくても大丈夫です。内容及び開講時間は、受講者の希望等により、変更することもあります。					
【オフィスアワー】 随時。昼休み。木曜7－8限など。先にメール連絡をもらえると確実です。					

授 業 科 目 名	地域言語論				
担 当 教 員	佐藤 和之				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 現代日本語を対象として、その運用実態や地域構成員の言語意識、言語行動を通して、地域のことばや日本語が抱える諸問題について考えられるようにする。 非母語話者に用いる日本語話者の日本語について扱う者は、教育の基礎的な知識を踏まえた議論が行えるようになること。					
【授業の概要】 現代日本語の表現、語彙、文法に関する言語事象を対象としてその実態を記述し、話し手と聞き手の年代差・性差・地域差等の位相の相違に応じて、どのように交替・変化するか、その際両者の言語意識と行動の相違によって言語運用がどのようになされるかを究明する。また、非母語話者に対する日本語教育の見地から、非母語話者の言語運用を踏まえ、日本語の表現、語彙、文法をどのように記述すればよいか検討する。					
【授業内容予定】 1. はじめに 2. 言語における記述とはなにか。 3. 言語教育学からみた言語の記述とは何か。 4. 位相について 5. 6. 世代差・性差・地域差等について 7. 学習者と学習目的の異なりについて 8. 9. 言語意識と言語行動について 10. 資料の収集、データ処理について 11. 具体的なテーマの選定 12. 調査と分析について 13. 学習者の言語場面の分析について 14. 今後の課題 15. まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は用いません。教材・資料は随時コピーして配布します。					
【参考文献】 授業時に随時紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業における事前調査報告（50%）、期末のレポート（50%）の合計によります。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式のなかに講読形式を取り入れて進めます。					
【留意点・予備知識等】 日本語学全般の知識を持っていることが望ましい。					
【オフィスアワー】 研究室に在室時は常時大丈夫です					

授 業 科 目 名	文化社会学				
担 当 教 員	羽渕 一代				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 メディア文化に関する社会学的思考を深化させ、現代社会における情報リテラシーに関するリテラシーの向上を目標とする。					
【授業の概要】 近年、メディア環境の変容により、親密性と公共性のありようの再編がおこっている。この現代的状況を理解するために、メディア利用と集合行動に焦点をあてた研究をおこなう。					
【授業内容予定】 コミュニケーション論を中心とした理論的展開について考察する。予定は以下のとおり。 第1回 情報社会とは 第2回～第7回 阿部潔『公共圏とコミュニケーション』講読 第8回～第15回 スタンリー・J・バランほか『マス・コミュニケーション理論』上・下 講読 第16回 メディアと社会、人間関係の連関について					
【教材・テキスト】 阿部潔（1998）『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房 スタンリー・J・バラン（2007）『マス・コミュニケーション理論』上・下 新曜社					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回、簡単な予習状況の確認をおこないます。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	ネットワーク社会心理学				
担 当 教 員	日比野愛子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 対人関係やその構造に関する専門的知識の習得、ならびに、英語文献を十分に読解する能力の養成を目標とする。					
【授業の概要】 対人関係やその構造の理解に向けた実証的研究の方法論に関わる書籍の輪読を行なう。海外の文献を原著で講読する。使用テキストのみならず、関連書籍・論文（英文）の講読も随時行なう。					
【授業内容予定】 1. Introduction 2. Recent developments in network measurement 3. Network sampling and model fitting 4. Extending centrality 5. Positional analyses of sociometric data 6. Network models and methods for studying the diffusion of innovations 7. Using correspondence analysis for joint displays of affiliation networks 8. An introduction to random graphs, dependence graphs, and p^* 9. Random graph models for social networks: multiple relations or multiple raters 10. Interdependencies and social processes: dependence graphs and generalized dependence structures 11. Models for longitudinal network data 12. Graphical techniques for exploring social network data 13. Software for social network analysis. 14. The development of social network analysis 15. Conclusion					
【教材・テキスト】 Peter J. Carrington, John Scott, Stanley Wasserman (2005) <i>Models and Methods in Social Network Analysis</i> , Cambridge University Press					
【参考文献】 Linton C. Freeman, <i>The Development of Social Network Analysis: A Study in the Sociology of Science</i> , Linton C. Freeman et al., <i>Research Methods in Social Network Analysis</i> .					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表、議論内容を評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行なう。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜14:20-15:50					

授 業 科 目 名	民族誌論				
担 当 教 員	諏訪淳一郎				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 3・4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 民族誌的手法への理解を深めることによって、質的調査を志向する院生個人の研究に役立てることを目指します。					
【授業の概要】 文化人類学、民俗学、社会学等の領域で書かれたモノグラフを選び、記述の形式、構成、表現法などの角度から毎回分析していきます。					
【授業内容予定】 1. 序論（1回） 2. 構造機能主義的な民族誌の分析（4回） 3. 解釈学、現象論、ポスト構造主義などを反映した民族誌の分析（4回） 4. オートエスノグラフィー分析（3回） 5. まとめ（1回）					
【教材・テキスト】 『左大文字の都市人類学』（刀水書房）『文化人類学的認識の冒険』（同文館）					
【参考文献】 授業で適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席及びレジュメ作成による発表と討論を評価の基準にします。期末にレポートを果たすこともあります。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日 5・6 時限または予約					

授 業 科 目 名	中国近世史論				
担 当 教 員	荷見 守義				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 基礎的な漢文をこなれた現代日本語に翻訳できるようになることを目的とする。特にテキスト本文と関わる『明史藁』の原文の翻訳がスムーズにできることが具体的到達目標となる。					
【授業の概要】 清朝時代に作られた『明史』は、明朝（1368～1644）についての正史である。そして、24あると言われる正史のなかでも良史として評価が高い。その『明史』を読み解きつつ、明朝の歴史を深く吟味していくこととする。					
【授業内容予定】 授業はおおよそ、受講生の能力に応じて、以下のように展開します。 漢和辞典を片手にお付き合い下さい。 第1回 中国史研究とは 第2～5回 『明史』撰述過程について(第2回 正史とは 第3回 奉勅撰 第4回 明史藁 第5回 清代) 第6回 明代・清代の官制・科举制度について 第7～11回 明朝洪武期の諸問題(第7回 朱元璋の誕生 第8回 群雄割拠 第9回 官制 第10回 疑獄事件 第11回 諸王封建) 第12～15回 明朝永楽期の諸問題(第12回 靖難の役 第13回 即位の詔 第14回 奸臣 第15回 親征)					
【教材・テキスト】 川越泰博『明史』明德出版社、2004年					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 漢文をこなれた現代日本語に翻訳できるようになれば、合格点とします。					
【授業形式・形態および授業方法】 漢文を読み進めつつ、時代背景を講義していきます。					
【留意点・予備知識等】 基礎的な漢文読解能力があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 月曜・昼休み（12:00～12:40）					

授 業 科 目 名	東アジア思想文化論				
担 当 教 員	李 良				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 朱子学を基軸に、近世東アジア三国（日中朝）の伝統「知」（伝統教養）における同一性と差異性を多角的に理解し、その今日的意義を明らかにすることを到達目標とする。					
【授業の概要】 朱子の「白鹿洞書院揭示」を軸に、近世東アジア三国の学校教育（書院、私塾、藩校など）の理念と実践活動を検証することを通して、いわゆる朱子学の普遍化という問題を受講者とともに、考えていく内容です。					
【授業内容予定】 第一回 全体説明 第二回 朱子と『白鹿洞書院揭示』 第三回～五六回 近世中国の書院教育とその思想問題 第七回～第十回 近世日本の教育思想と実践（藩校、私塾、寺子屋など） 第十一回～第十四回 近世朝鮮の書院教育とその思想問題 第十五回 ある文化史的比較研究の試み ——『白鹿洞書院揭示』と『イエズス会学事規程』—— 第十六回 試験					
【教材・テキスト】 特定の教材を使用しません。プリントを頒布します。					
【参考文献】 開講時、その都度、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、授業準備状況および試験（レポート）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義、輪読および討論など多様な形式で展開します。					
【留意点・予備知識等】 欠席しないことです。予備知識が望ましいですが、必須ではありません。					

授 業 科 目 名	イスラーム地域研究（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	亀谷学				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 9・10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
イスラーム世界における経済のあり方を理解し、それがヨーロッパの資本主義経済の形成にどのような影響を与えたかについて考察する。					
【授業の概要】					
G.W.ヘック『ムハンマド、カール大帝、資本主義のアラブ的ルーツ』（G. W. Heck, <i>Charlemagne, Muhammad, and the Arab Roots of Capitalism</i> , W. de Gruyter, 2006）の講読を中心とし、あわせて近年のイスラーム世界の経済やイスラーム金融を射程に入れて議論を行います。					
【授業内容予定】					
第1回 イントロダクション 第2回 イスラーム経済概論 第3回 初期アラブ商業の産業的基盤 第4回 正統カリフ時代のアラブ商業の拡大 第5回 ウマイヤ朝とイスラーム商業の北遷 第6回 アッバース朝期の商業の絶頂 第7回 ファーティマ朝によるアッバース朝の浸食 第8回 個人の利益と資本増加への欲望 第9回 「ビジネス・ツール」としての法人資本主義 第10回 商業的パートナーシップと企業 第11回 ファーティマ朝のナイル中心的マクロ経済の状況 第12回 ファーティマ朝における商業的資本主義の完成 第13回 交易の必要性和ヨーロッパの変容 第14回 中世ヨーロッパの変容 第15回 まとめ：近現代イスラーム経済への資格					
【教材・テキスト】					
G. W. Heck, <i>Charlemagne, Muhammad, and the Arab Roots of Capitalism</i> , W. de Gruyter, 2006.					
【参考文献】					
小杉泰・長岡慎介『イスラーム銀行 金融と国際経済』（山川出版社、2010年）					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の授業の参加度・理解度による平常点と期末課題により評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
文献の講読とそれについての解説を織り交ぜる形で行う。					
【留意点・予備知識等】					
イスラーム地域の歴史に関する基礎的な知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	南アジア地域研究				
担 当 教 員	林 明				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 南アジア地域の歴史や文化に関する資料を読みこなす能力を身に付けること。 南アジア地域と他の地域との比較を通じて、幅広い視点に立った研究が行えるようになること。					
【授業の概要】 学生とともに資料や論文をじっくりと読み、それらに書かれている内容について議論することを通して、授業を進めていく。					
【授業内容予定】 南アジア地域の歴史や文化を深く掘り下げて研究していく。切り口は様々であっても、目指すところは、トータルに南アジア地域を理解することにある。また、本演習では、南アジア地域と他の地域の歴史や文化の比較という観点にも重点を置き、そうすることで、南アジア地域を客観的に位置づけ、南アジア地域の理解をより深めることにしたい。 第1回 南アジアと日本 第2回 南アジアの捉え方 第3回 南アジアの歴史 第4回 南アジアの文化 第5回 民族 第6回 カースト 第7回 多宗教世界 第8回 ヒンドゥー教 第9回 仏教 第10回 イスラム教 第11回 近代南アジアの思想 第12回 現代南アジアの思想 第13回 現代南アジアの政治 第14回 現代南アジアの社会 第15回 世界の中の南アジア					
【教材・テキスト】 学生の興味・関心に応じて、適宜プリントが配布される。					
【参考文献】 授業中、参考文献は適宜紹介される。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業に取り組む姿勢、作成するレポートなどを総合して評価される。					
【授業形式・形態および授業方法】 講読・議論が中心になる。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	グローバルヒストリー論				
担 当 教 員	中村 武司				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
グローバルヒストリーや世界史研究に関する主要な概念や論点、考え方を理解すること。					
【授業の概要】					
近年の世界システム論もしくはグローバルヒストリー研究において、近世以降（15世紀～18世紀）の歴史像の見直しと再構築が急速に進展しつつある。とりわけ、(1)世界規模の商業ネットワークの形成、(2)移民や奴隷などの大規模な労働力移動、(3)それらにともなう生態系・環境の劇的な変化、(4)知識や技術の普及と受容という4点にかんして、いわゆる「大航海時代」以降のヒト・モノ・カネ・情報などのグローバルな規模での移動・交流の実態とそれにともなう世界の各地域の変化をめぐって研究や議論が活発に展開している。本授業は、こうした近年の世界システム論やグローバルヒストリーの研究動向や学説を紹介すると同時に、環境や疫病、交易などのトピックからグローバルヒストリーの実践について検討するものである。					
【授業内容予定】					
第1回： ガイダンス					
第2回： ウォーラーステインの世界システム論とその問題点					
第3回： 近代世界システムとヘゲモニー国家(1)：17世紀のオランダ					
第4回： 近代世界システムとヘゲモニー国家(2)：19世紀のイギリス					
第5回： 近代世界システムとヘゲモニー国家(3)：20世紀のアメリカ					
第6回： 近代世界システムとアジア交易圏					
第7回： ユーラシア世界システムの構想(1)					
第8回： ユーラシア世界システムの構想(2)					
第9回： グローバル化の歴史的類型論について					
第10回：「大いなる分岐」論争					
第11回：産業革命論の再検討					
第11回：交易の世界史／グローバルヒストリー					
第12回：疫病の世界史／グローバルヒストリー					
第13回：環境の世界史／グローバルヒストリー					
第14回：世界史の世界史					
第15回：総合討論					
【教材・テキスト】					
教科書は指定しない。授業中、適宜資料を配付する。					
【参考文献】					
川北稔編『知の教科書 ウォーラーステイン』（講談社選書メチエ、2001年）					
水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社、2010年）					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への出席やレスポンス・ペーパーの提出、課題レポートの内容から総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式					
【留意点・予備知識等】					
履修にあたり、高校世界史教科書を熟読しておくこと。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日、13:00-13:45（人文学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室）					
研究室を不在にしていることも多いので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧める。					

授 業 科 目 名	古代地中海文化論				
担 当 教 員	宮坂 朋				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3/4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ① 装飾写本の表現方法についての基本的な知識を得る。 ② テキストの画像化と画像の伝統における革新の関係について考察する。 ③ ヘレニズム的な表現が古代末期に受けた変化について考察する。					
【授業の概要】 「イメージとテキスト：＜イリアス・アンブロジーアーナ＞と古代の残存」 ホメロスによる「イリアス」は、トロイ戦争を主題とするローマ時代にもよく知られた重要なギリシア語のテキストであった。古代末期～初期中世に制作された冊子本形式の装飾写本＜イリアス・アンブロジーアーナ＞を題材として、その特徴を明らかにする。					
【授業内容予定】 第1回目 導入：装飾写本の形式・主題とローマ社会 第2回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の概要（保存状態、材料、技法） 第3回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の様式的考察 第4回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察①：図像選択の基準 第5回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察②：イリアス第1書（挿絵 I~X） 第6回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察③：同第2~5書（挿絵 XI~XXII） 第7回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察④：同第6~10書（挿絵 XXIII~XXXV） 第8回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察⑤：同第11~15書（挿絵 XXXVI~XLVI） 第9回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の図像的考察⑥：同第16~24書（挿絵 XLVII~LVIII） 第10回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の空間表現 第11回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の建築表現 第12回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の人体表現 第13回目 ＜イリアス・アンブロジーアーナ＞の戦闘表現 第14回目 再び様式的考察と制作年代 第15回目 まとめ					
【教材・テキスト】 開講時に配布する。					
【参考文献】 開講時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表と期末レポートによる。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を織り交ぜる。図像的考察の回では、割り当てられた「イリアス」のテキストを読んで置き、レジュメを用意して要領よく発表する。					
【留意点・予備知識等】 積極的な参加が期待される。					
【オフィスアワー】 木曜日 3 時限					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ古典文化論				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文学・哲学・歴史学・自然科学などのさまざまな観点から、ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代についての理解を深めることが、この授業の主眼です。					
【授業の概要】 ホメロス（c. 750 BC）の時代からヘレニズム期（323～51 BC）にいたる古代ギリシア文化の展開を、文学・哲学・歴史学・自然科学などの観点に立って、多面的に解説します。					
【授業内容予定】 1) 導入－ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代 2) ホメロスとギリシア人の伝統的人間観（1） 3) ホメロスとギリシア人の伝統的人間観（2） 4) 哲学の誕生－最初の哲学者タレスとミレトス学派 5) 初期ギリシア哲学の展開－一元論から多元論へ 6) ギリシア悲劇の人間観（1）－アイスキュロス「オ레스ティア三部作」 7) ギリシア悲劇の人間観（2）－ソポクレス『オイディプス王』 8) ギリシア悲劇の人間観（3）－エウリピデス『ヒッポリュトス』 9) 歴史記述と人間（1）－「西洋歴史学の父」ヘロドトス 10) 歴史記述と人間（2）－トゥキディデス『戦史』にみる人間の本性 11) ギリシアの政治哲学（1）－プラトン『国家』篇 12) ギリシアの政治哲学（2）－アリストテレス『政治学』 13) ギリシアの医学思想（1）－「医学の父」ヒッポクラテスの登場 14) ギリシアの医学思想（2）－初期アレクサンドリア医学の展開 15) ギリシアの医学思想（3）－人体の中樞器官をめぐる論争史					
【教材・テキスト】 教科書は指定しませんが、適宜、関係資料等を配布します。					
【参考文献】 『哲学の歴史』第1巻・第2巻（2007／2008，中央公論新社刊）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて、学期末に提出されるレポートに重点をおいて、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 少人数の学生諸君を対象とする演習形式の授業となりますので、関係資料の精読など、事前の準備がかならず必要となります。					
【留意点・予備知識等】 古典ギリシア語・ラテン語の知識は問いませんが、ぜひ挑戦してみてください。					

授 業 科 目 名	日本思想論				
担 当 教 員	木村純二				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ・テキストの読解力および自身の考えをまとめ論述・発表する力を習得する。 ・日本における外来思想の受容に関して専門的知識を習得する。					
【授業の概要】 日本において、仏教・儒教・キリスト教・西洋哲学等の思想がどのように流入し、受容されたのか、テキストの読解を通じて検討する。					
【授業内容予定】 今年度は和辻哲郎『鎖国』を精読する。ただし、以下の計画は受講者の理解や関心に応じて調整することがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 和辻哲郎『鎖国』序説 第3回 同 前篇第一章 第4回 同 前篇第二章一～五 第5回 同 前篇第二章六～九 第6回 同 後篇第一章 第7回 同 後篇第二章 第8回 同 後篇第三～四章 第9回 同 後篇第五章 第10回 同 後篇第六～七章 第11回 同 後篇第八章 第12回 同 後篇第九～十章 第13回 同 後篇第十一章 第14回 同 後篇第十二章一～四 第15回 同 後篇第十二章五					
【教材・テキスト】 和辻哲郎『鎖国・上下』（岩波文庫）					
【参考文献】 和辻哲郎『日本倫理思想史(二)(三)』（岩波文庫）所収の「解説」を読んでおくのが望ましい。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常の参加姿勢や理解度によって評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式で、担当者による当該範囲の発表を土台に議論する。					
【留意点・予備知識等】 受講前に自分自身の問題関心を整理しておくこと。					
【オフィスアワー】 初回の授業時に指示する。					

授 業 科 目 名	現代倫理学				
担 当 教 員	横地 徳広				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 受講生のみなさんは「現代倫理学」に関連するテキストを読み解き、この読解を通じて、生命、医療、環境をめぐる〈倫理的思考〉とは何か、このことを考えます。					
【授業の概要】 「倫理学 (ethics)」という言葉の母胎である「エートス (ethos)」の原義は「住まうこと」であったが、世界に住まうのは私たち人間たちである。このエートスは、或る土地に住まうことで人間たちに分かちもたれる「気風」や「気質」という意味へと展開する同時に、その地に成り立つ共同体に広がった「習慣」や「習俗」という意味へと展開していく。 今年度の授業では、そうしたエートスの観点から、生命、医療、環境をめぐる倫理思想の変化とその社会的基盤を考察するため、生命倫理学や環境倫理学の古典テキストを読み解いていく。					
【授業内容予定】 毎回、レジュメ担当者を中心に、受講者のみなさんがその内容を検討していく。 授業予定は、以下のとおり。変更の場合は授業で事前に知らせる。 1 ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2 テキスト読解と解説 （1） 3 テキスト読解と解説 （2） 4 テキスト読解と解説 （3） 5 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命倫理学、医療倫理学）その1 6 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命倫理学、医療倫理学）その2 7 テキスト読解と解説 （4） 8 テキスト読解と解説 （5） 9 テキスト読解と解説 （6） 10 映像資料をもちいた社会状況の説明（環境倫理学）その1 11 映像資料をもちいた社会状況の説明（環境倫理学）その2 12 テキスト読解と解説 （7） 13 テキスト読解と解説 （8） 14 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命環境倫理学） 15 まとめ					
【教材・テキスト】 受講者との相談のうえ、決定します。					
【参考文献】 適宜、紹介される。					
【成績評価の方法および採点基準】 ゼミでのレジュメ担当評価と平常評価。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミナール形式。毎回、レジュメ担当者がテキストをまとめ、参加者がその検討を行なう。					
【留意点・予備知識等】 授業への参加者は、hcj3788@hirosaki-u.ac.jpまで必ずメールすること。					

授 業 科 目 名	中国文化論				
担 当 教 員	植木 久行				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
1, 唐詩研究に必要な文献知識を習得して、文献を活用できること。					
2, 中国古典語・現代語の読解力を向上させること。					
【授業の概要】					
唐詩研究に対する総合的な理解を深めるために、周勛初「唐詩文献総述」を読み解きながら、多種の文献知識を習得します。引用された文献は、訓読を試みて読解力を高めます。					
【授業内容予定】					
第1回 オリエンテーション、文集（総集）の読解と解説					
第2回 文集（別集）の条の読解と解説					
第3回 史伝（正史）の条の読解と解説					
第4回 史伝（正史以外の史書）の条の読解と解説					
第5回 小説の条の読解と解説					
第6回 譜牒の条の読解と解説					
第7回 碑志の条の読解と解説					
第8回 碑記の条の読解と解説					
第9回 壁記の条の読解と解説					
第10回 登科記の条の読解と解説					
第11回 詩話の条の読解と解説					
第12回 芸術の条の読解と解説					
第13回 地志の条の読解と解説					
第14回 政典の条の読解と解説					
第15回 釈道書の条の読解と解説					
【教材・テキスト】					
周勛初「唐詩文献総述」（周勛初主編『唐詩大辞典』江蘇古籍出版社、1990年所収）のコピーを配付します。					
【参考文献】					
松浦友久編『漢詩の事典』（大修館書店、1999年）					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業の予習状況、理解度の向上、出席状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
分担して読んでもらい、質問と解説を試みます。					
【留意点・予備知識等】					
特にありません。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	現代中国論				
担 当 教 員	城本 るみ				
学 期	後期	曜日・時限	火曜 7－8 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
中国現代史におけるアメリカ、ソ連、中国の三国関係を理解し、現代中国の政治や外交の背景を理解できるようになること。					
【授業の概要】					
テキストにそって中華人民共和国建国前後からのアメリカやソ連との協調や対決の軌跡をたどり、中国現代史を米・中・ソ三国の動向から読み解いていく。					
【授業内容予定】					
第 1 回：導入					
第 2 回：建国までの背景（1）					
第 3 回：建国までの背景（2）					
第 4 回：大戦後の米ソ関係（1）					
第 5 回：大戦後の米ソ関係（2）					
第 6 回：共産党政権の誕生と中ソ関係（1）					
第 7 回：共産党政権の誕生と中ソ関係（2）					
第 8 回：中ソ関係の決裂（1）					
第 9 回：中ソ関係の決裂（2）					
第 10 回：1960年代の中ソ・中米関係（1）					
第 11 回：1960年代の中ソ・中米関係（2）					
第 12 回：米中関係の新たな展開（1）					
第 13 回：米中関係の新たな展開（2）					
第 14 回：改革開放時代（1）					
第 15 回：改革開放時代（2）					
【教材・テキスト】					
小林弘二『グローバル化時代の中国現代史（1917-2005）』（筑摩書房，2013）					
【参考文献】					
必要に応じて適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
平常点および課題提出状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
文献講読を行いながら討論していく演習形式です。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】					
火曜・水曜12:00～12:30（事前に連絡があれば、これ以外の時間も設定可能です。）					

授 業 科 目 名		イギリス近代文化論A			
担 当 教 員		小野寺 進			
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
近代イギリスの文学や文化を理解し、造詣を深めることを目標とします。					
【授業の概要】					
19世紀のイギリス文学や文化を通して、イギリス国民と時代の特徴を明らかにしていきます。文献を丹念に読み、理解・分析し、幅広い知識を習得します。					
【授業内容予定】					
今回はイギリスの小説の構造を理解する上で重要となる物語理論を考察します。テキストとしてMonika Fludernikの <i>An Introduction to NARRATOLOGY</i> を読みます。					
第1回1 Narrative and narrating		第9回6 Realism, Illusionism and Metafiction			
第2回2 The Theory of Narrative		第10回6 Realism, Illusionism and Metafiction			
第3回3 Text and Authorship		第11回7 Language, the Representation of Speech and the Stylistics of Narrative			
第4回4 The Structure of Narrative		第12回7 Language, the Representation of Speech and the Stylistics of Narrative			
第5回4 The Structure of Narrative		第13回8 Thoughts, Feelings and the Unconscious			
第6回4 The Structure of Narrative		第14回8 Thoughts, Feelings and the Unconscious			
第7回5 The Surface of Narrative		第15回8 Thoughts, Feelings and the Unconscious			
第8回5 The Surface of Narrative					
【教材・テキスト】					
プリントを配布します。					
【参考文献】					
適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の授業とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式になります。					
【留意点・予備知識等】					
十分な予習が要求されます。					
【オフィスアワー】					
水曜日9:00～10:00					

授 業 科 目 名	イギリス近代文化論B				
担 当 教 員	澤田 真一				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 イギリスやその植民地であったニュージーランドの文学作品を丹念に読み、その内容を深く理解するとともに、新しい視点からの解釈を試みることを目標とします。					
【授業の概要】 19世紀にイギリスの植民地として出発したニュージーランドの、主に先住民族マオリの文学を扱います。四大作家ウイティ・イヒマエラ、ケリ・ヒューム、パトリシア・グレイス、アラン・ダフらの作品に触れながら、独自の文化の継承、また、白人文化との共存の問題について考えていきます。彼らの視点からイギリスをとらえ返します。					
【授業内容予定】 1. イントロダクション 2. 文学作品の映画鑑賞(1) 3. 文学作品の映画鑑賞(2) 4. 作品の解説と批評 5-7. 読解：ウイティ・イヒマエラ 8-10. 読解：ケリ・ヒューム 11-13. 読解：パトリシア・グレイス 14-15. 読解：アラン・ダフ 16. 試験					
【教材・テキスト】 1回目の講義時に、学生と相談の上で決定します。					
【参考文献】 講義時にその都度紹介していきます。					
【成績評価の方法および採点基準】 期末試験（あるいはレポート）及び出席状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 双方向的な講義形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	イギリス文学・文化研究（26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	土井雅之				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 イギリス文学・文化の中から1つのテーマを設定し通時的に概観することで、体系的な知識を身につけることを目標とします。					
【授業の概要】 イギリス文学におけるユダヤ人表象をテーマとします。シラバスに記載された作品1つ1つを説明しながら、それぞれを関連づけていきます。					
【授業内容予定】 1. ガイダンス 2. マーロウ『マルタ島のユダヤ人』（1590） 作者と作品 3-4. 『マルタ島のユダヤ人』におけるユダヤ人表象 5. シェイクスピア『ヴェニスの商人』（1596） 作者と作品 6-7. 『ヴェニスの商人』におけるユダヤ人表象 8. まとめ（前半）、レポートの説明 9. スコット『アイヴンホー』（1820） 作者と作品 10-11. 『アイヴンホー』におけるユダヤ人表象 12. ディッケンズ『オリバー・ツイスト』（1837-1839） 作者と作品 13-14. 『オリバー・ツイスト』におけるユダヤ人表象 15. 予備日 16. まとめ（後半）、レポートの提出					
【教材・テキスト】 初回に説明します。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点（出席と発表など）＋ レポート。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】 予備知識等は必要ありませんが、旺盛な知識欲を持って授業に臨んでください。					
【オフィスアワー】 木曜日・5－6時限。					

授 業 科 目 名	アメリカ近代文化論				
担 当 教 員	堀 智弘				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 逃亡奴隷が書いた代表的なslave narrativeを読むことを通して、アメリカの奴隷制文化とそれがアメリカ文化全体へ与えた影響について学ぶことを目標とします。					
【授業の概要】 代表的なslave narrativeであるFrederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (1855年)を読解していきます。					
【授業内容予定】 第1回 イントロダクション 第2回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (1) 第3回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (2) 第4回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (3) 第5回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (4) 第6回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (5) 第7回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (6) 第8回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (7) 第9回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (8) 第10回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (9) 第11回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (10) 第12回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (11) 第13回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (12) 第14回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (13) 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 第1回目の授業の時に指示します。					
【参考文献】 授業のなかで紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 学生担当の発表、授業参加、期末レポートを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式となります。					
【留意点・予備知識等】 毎回指定された部分を読んで授業に臨むことが求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日 12:00 ～ 13:00					

授 業 科 目 名	アメリカ社会研究（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	南 修平				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 7・8時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ヴェトナム戦争への理解を深めるとともに、ヴェトナム戦争を通して激しく変化したアメリカ社会の諸相を分析する視点を身につけます。 英語文献に対する読解力を磨きます。また、視聴覚資料の特徴や有用な点を学びつつ、それらに対する批判的視点を養います。					
【授業の概要】 本講義ではヴェトナム戦争とアメリカ社会の関係に焦点をあて、世界史的出来事としてヴェトナム戦争を考察し、それがアメリカ社会にいかなる影響を与えたかを検討していきます。					
【授業内容予定】 第1回 アメリカ研究の過去と現在、日本におけるアメリカ研究 第2回 第2次世界大戦が世界にもたらしたもの—冷戦・「熱戦」・核の恐怖 第3回 アメリカ社会を席捲する反共主義 第4回 ヴェトナム戦争とアメリカ①—新たなる「後見者」の登場 第5回 ヴェトナム戦争とアメリカ②—アメリカの本格介入から敗北へ 第6回 高揚する反戦運動—若者の反乱 第7回 分裂するアメリカ、病むアメリカ—戦争に行く者の素顔 第8回 ヴェトナム・シンドロームという重荷 第9回 Working-Class War 第10回 メディアとヴェトナム戦争—ジャーナリズムが変えた戦争 第11回 映画が語るヴェトナム戦争①—「戦争の記憶」を検証する 第12回 映画が語るヴェトナム戦争②—描かれるものと描かれないもの 第13回 争われる戦争の記憶—ヴェトナム戦争記念碑論争 第14回 残された人々の重荷—ヴェトナム側の視点から 第15回 日本とヴェトナム戦争					
【教材・テキスト】 講義担当者がアサイメントについて準備あるいは指示します。					
【参考文献】 古田元夫『歴史としてのベトナム戦争』（大月書店、1991年） 小倉貞男『ドキュメント ヴェトナム戦争全史』（岩波現代文庫、2005年）など。その他適宜講義中に紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 講義に対する準備、課題への取り組み、講義中での議論、期末レポートによる総合評価となります。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と演習の双方を織り交ぜた形で進めていきます。					
【留意点・予備知識等】 アサイメントの精読、事前課題に対する堅実な取り組みを求めます。					
【オフィスアワー】 火曜日 9・10時限					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ現代文化論				
担 当 教 員	熊野 真規子				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
・ヨーロッパ現代映画を分析的に見ること ・フランス語文献の講読力を向上させること					
【授業の概要】					
ヨーロッパ現代映画に分析的にアプローチするため、現代映画論（フランス語）の抜粋を講読形式で読みます。分析・討論を行って、ヨーロッパ現代文化についての理解も深めます。					
【授業内容予定】					
・ 導入（受講生に応じて分析作品・文献を決定します） ・ 文献講読① 3回 ・ 分析・討論① 2回 ・ 文献講読② 3回 ・ 分析・討論② 2回 ・ 文献講読③ 3回 ・ 分析・討論③ 2回					
【教材・テキスト】					
プリントを配布します。					
【参考文献】					
開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
講読・討論形式をとるため、出席回数、予習の準備度などを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
導入＋講読形式9回＋分析・討論6回					
【留意点・予備知識等】					
フランス語既習者であること。予習済みであっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。					
【オフィスアワー】					
火曜日・9－10時限					

授 業 科 目 名	フランス文芸論				
担 当 教 員	泉谷 安規				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 授業内容そして作品の深い理解はもちろんですが、正確なフランス語の読解ができることをも目標とします。					
【授業の概要】 20世紀の小説家・批評家であるモーリス・ブランショ『文学空間』をテキストとして使いながら、ブランショの文学観、そして批評とは何かを探っていききたいと思います。					
【授業内容予定】 1) イントロダクション 2) モーリス・ブランショについて基本的考察 3) ブランショにとっての言語論について：「文学」と「死」とはなにか（『文学空間』以前） 4) 『文学空間』：本質的孤独（以下、『文学空間』の内容に即する） 5) 『文学空間』：文学空間の接近 6) 『文学空間』：作品の空間と作品の要請 7) 『文学空間』：作品と死との空間 8) 『文学空間』：靈感 9) 『文学空間』：作品と伝達 10) 『文学空間』：文学と本源的体験 11) 『文学空間』：補遺 12) 『文学空間』以後 13) ブランショの小説について 14) ブランショの批評について 15) まとめ					
【教材・テキスト】 モーリス・ブランショの『文学空間』現代思潮社（L'Espace littéraire, Folio）を主に使います。ただし、内容は非常に難解かつ、広範な文学的知識を要請されます。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業に対する積極的な態度（出席、テキスト講読の準備具合等＝30%）とレポート（70%）で成績を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式で行いますが、テキストを読む場合には講読形式になります。					
【留意点・予備知識等】 フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでいない人、あるいは学んだが、あまり自信がない人はあらかじめ申し出てください。相談して、読むテキスト（原文あるいは翻訳）を決めたいと思います。					

授 業 科 目 名	言語類型論				
担 当 教 員	山本 秀樹				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 言語類型論（世界諸言語の資料を基に、言語の普遍性と変異のあり方を探求する分野）による具体的な研究に触れ、一言語内部の研究では明らかにならないような、種々の普遍特性、変異のあり方を探究する手法を身につけることを目標にする。					
【授業の概要】 種々の言語特性に関して、ある特定の個別言語よりもむしろ世界諸言語全般に見られる普遍特性及び多様性のあり方を探求し、さらに、それらに対す説明原理を追求していく。それによって、世界の言語には、種々の普遍性が存在し、多様性が見られる場合にも、恣意的に異なっているわけではなく、ある一定の普遍的な法則に従って変異していることを論じる。					
【授業内容予定】 第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 言語普遍性について 第3回 言語類型論について 第4回 基本的概念 第5回 語順類型論 第6回 語順の地理的・系統的分布 第7回 語順の再建と変遷 第8回 主語 第9回 格標示 第10回 関係節 第11回 使役構文 第12回 有生性 第13回 言語類型論と歴史言語学との関連 第14回 類型論的に見た言語の遠い類縁関係 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用する。					
【参考文献】 バーナード・コムリー著（松本克己・山本秀樹訳）『言語普遍性と言語類型論』（ひつじ書房） 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していく。					
【留意点・予備知識等】 言語学の基礎的知識をある程度持っていることが望ましいが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがある。					
【オフィスアワー】 火曜日：12時から13時					

授 業 科 目 名	国際文書規格論				
担 当 教 員	内海 淳				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 様々な文書規格における多言語処理の基本的な仕組みを概観し、その規格に基づく多言語の文書を実際に処理・作成することを通じてその規格への理解を深めます。					
【授業の概要】 XMLを中心とした多言語での文書作成を可能にする文書規格を考察し、その処理技術を、実践を通して、理解します。					
【授業内容予定】 1：多言語処理とは何か 2～3：ワープロ文書における多言語処理の基本と実践 4～5：TeX文書における多言語処理の基本と実践 6～7：PDF文書における多言語処理の基本と実践 8～9：XML文書における多言語処理の基本と実践 10～11：DITA文書における多言語処理の基本と実践 12～13：DocBook文書における多言語処理の基本と実践 14～15：TEI文書における多言語処理の基本と実践					
【教材・テキスト】 必要に応じてプリント等を配布します。					
【参考文献】 授業時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式に、演習形式を取り入れて行います。					
【留意点・予備知識等】 受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00から12:40					

授 業 科 目 名	言語文化論 (Language and its Structure)				
担 当 教 員	木村宣美				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日 9・10 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
1. 構造と範疇を意識した精読を通じて、言語研究をする際に必要とされる読解力の向上を図る。 2. 言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の基礎知識を身につける。 3. 英語の information-packaging constructions の諸特性を学ぶ。					
【授業の概要】					
Huddleston, Rodney & Geoffrey K. Pullum (2002) <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> . (Cambridge University Press) の第16章 Information packaging [pp. 1363-1447] を精読する。					
【授業内容予定】					
第1回 Syntactic overview 第2回 Information packaging: concepts and general principles 第3回 Complement preposing (1) 第4回 Complement preposing (2) 第5回 Postposing 第6回 Subject-dependent inversion 第7回 Existential and presentational clauses (1) 第8回 Existential and presentational clauses (2) 第9回 Extraposition 第10回 Dislocation (1) 第11回 Dislocation (2) 第12回 Clefts (1) 第13回 Clefts (2) 第14回 Passive voice (1) 第15回 Passive voice (2)					
【教材・テキスト】					
講読する学術論文は、授業用資料として配布する。					
【参考文献】					
神尾昭雄・高見健一 1998『談話と情報構造』研究社出版 久野 暉 1978『談話の文法』大修館書店 高見健一 1995『機能的構文論による日英語比較-受身文、後置文の分析-』くろしお出版 畠山雄二・本田謙介・田中江扶 2015『日英比較構文研究』開拓社 福地 肇 1985『談話の構造』大修館書店 ※ 必要に応じて適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
英文読解の正確さ・文献の内容の理解度・言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の基礎知識の習熟度の観点から、出席状況・発表・レポートの結果を総合して、評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式（文献講読及び解説）					
【留意点・予備知識等】					
言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の専門教育科目『英語学B』『英語学演習B』及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
木曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]					

授 業 科 目 名	語彙意味論				
担 当 教 員	奥野 浩子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 動詞の意味分類を理解し、意味構造の表示の仕方を学び、動詞の意味に基づいて文の文法性を「予測」したり「説明」ができるようになること。					
【授業の概要】 英語の5文型の問題点を考え、意味に基づいて文を分析する方法を、具体例を用いて学びます。					
【授業内容予定】 第1回 導入 ことばの規則性 第2回 英語5文型 第3回 英語5文型と補文 第4回 英語5文型と副詞要素 第5回 動詞の意味(1) 述語分解 第6回 動詞の意味(2) 継続と完了 第7回 語彙概念構造(1) 述語と項 第8回 語彙意味構造(2) 定項と変項 第9回 位置変化と状態変化 第10回 位置変化と移動 第11回 行為連鎖と動詞の意味分類 第12回 英語の結果構文(1) 結果構文とは？ 第13回 英語の結果構文(2) 結果構文に対する制限 第14回 英語の結果構文(3) 自動詞と結果構文 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを配布します。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートで総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と質疑応答で進めます。					
【留意点・予備知識等】 予備知識は求めませんが、「ことばに対する好奇心」を求めます。					

授 業 科 目 名	日本語史論				
担 当 教 員	川瀬 卓				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語の歴史を捉えるための方法を身に付ける。また、ある論に対して、過不足ない理解をしたうえで、問題点を指摘する思考法を身に付ける。					
【授業の概要】 日本語の対人配慮の歴史について学ぶ。依頼、感謝、謝罪など、相手への配慮がとくに必要とされる場合において、日本語ではかつてそれがどのように表現され、現在ではどのように表現されるようになったのかを考察する。 敬語史、配慮表現史の優れた概説や論文、および野田尚史・小林隆・高山善行編（2014）『日本語の配慮表現の多様性—歴史的変化と地理的・社会的変異—』（くろしお出版）を読んでいく。					
【授業内容予定】 1. 導入 2. 敬語と主要な研究テーマの概観 3. 待遇表現、配慮表現 4. 敬語史の諸問題 5. やりもらい表現の歴史 6. 方言の依頼表現 7. 奈良時代の配慮表現 8. 平安・鎌倉時代の依頼・禁止に見られる配慮表現 9. 平安・鎌倉時代の受諾・拒否に見られる配慮表現 10. 平安・鎌倉時代の感謝・謝罪に見られる配慮表現 11. 室町・江戸時代の依頼・禁止に見られる配慮表現 12. 室町・江戸時代の受諾・拒否に見られる配慮表現 13. 室町・江戸時代の感謝・謝罪に見られる配慮表現 14. 明治・大正時代の配慮表現 15. まとめ					
【教材・テキスト】 野田尚史・小林隆・高山善行編（2014）『日本語の配慮表現の多様性—歴史的変化と地理的・社会的変異—』くろしお出版 そのほか、必要なものを授業時に配布する。					
【参考文献】 菊池康人編（2003）『朝倉日本語講座8 敬語』朝倉書店 高田博行・椎名美智・小野寺典子編著（2011）『歴史語用論入門』大修館書店 金水敏・高田博行・椎名美智編（2014）『歴史語用論の世界』ひつじ書房 そのほか、授業で紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 演習発表（50%）、期末レポート（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を交えて行う。演習形式では、担当者が内容を簡潔に紹介し、批判的検討を行う。その後、参加者全員で討議を行う。					
【留意点・予備知識等】 日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。ただし、予備知識がない人でもついていけるように、学習の指針を示す、質問に丁寧に答えるなどのフォローはしていく。					
【オフィスアワー】 火曜日11:00～12:40					

授 業 科 目 名	言語教育論				
担 当 教 員	鹿嶋 彰				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 読解教育、作文教育等の分野からトピックを選び検討し、その理論的側面を理解し、実際の教育場面に応用できるようになること					
【授業の概要】 特に第二言語もしくは外国語としての日本語教育からその学期のテーマを取り上げ、理論的側面と教育への応用について考察します。今年度は、読解教育からテーマを選びます。国語教育に興味がある受講者が多い場合、特に国語教育に寄与できる分野に焦点を置く予定です。					
【授業内容予定】 下記の要領で授業を進める予定です。今学期は説明文の読解について扱います。これは、国語教育に興味のある受講者が多い場合で、日本語教育に興味がある学生が多い場合は、内容を少し変更する予定です。 1回目 オリエンテーション 2回目 文章理解の心理学① 3回目 文章理解の心理学② 4回目 説明文とは 5回目 説明文をどのように理解するか 6回目 説明文理解に係る要因 7回目 国語科教育・日本語教育での説明文指導 8回目 トップダウン処理に必要な文章知識 9回目 文章構造理解の発達 10回目 宣言的説明文の理解と指導内容 11回目 手続き的説明文理解の発達 12回目 手続き的説明文の指導と教材① 13回目 手続き的説明文の指導と教材② 14回目 まとめ① 15回目 まとめ②					
【教材・テキスト】 岸 学『説明文理解の心理学』北大路書房 大村彰道（監修）『文章理解の心理学』北大路書房（この2冊から選ぶ予定）					
【参考文献】 秋田喜代美『読む心・書く心－文章心理学入門』北大路書房（事前に読んでほしい文献） その他、授業で指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、提出物、小論文、口頭発表を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 日本語教育の経験、日本語教育や心理学の予備知識は問いません。					
【オフィスアワー】 一回目の授業で指示します。					

授 業 科 目 名	表現技術論				
担 当 教 員	小山 宣子				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 修士課程に学ぶ学生が必要な表現技術を身につける。口頭表現は、理解されやすい発音の習得を目指す。文章表現は読みやすい文章の作成技術の会得を目指す。					
【授業の概要】 授業は口頭表現と文章表現に分かれる。前半は口頭表現で、後半は文章表現となる予定である。					
【授業内容予定】 1 オリエンテーション 2 拍・語のアクセント 3 文中のアクセント 4 動詞のアクセント 5 複合動詞・複合助詞のアクセント 6 外来語のアクセント 7 イ形容詞のアクセント 8 数字のアクセント 9 話し言葉と書き言葉 10 仕組みの説明・歴史的な経過の説明の表現 11 分類・定義の表現 12 要約・引用の表現 13 比較・対照の表現 14 因果関係の表現 15 図や表の表現					
【教材・テキスト】 未定					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 テスト					
【授業形式・形態および授業方法】					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日 5 6 時限					

授 業 科 目 名	国際協力人類学				
担 当 教 員	曾我 亨				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 開発プロジェクトを進める際に、人類学がどのような局面において必要となるのかを理解する。					
【授業の概要】 この授業では、開発をめぐる人類学の論文や著作の講読を通して、人類学が開発プロジェクトに対して果たす役割を検討します。					
【授業内容予定】 人類学は、これまで地域社会に固有の文化や考え方について明らかにしてきました。その蓄積が、今、開発援助のプランニングや現場において必要とされてきています。この授業では、開発をめぐる人類学的な眼差しについて解説します。扱う内容は以下の通りです。前半は理論中心、後半は事例研究が中心ですが、前半については、各テーマについて2回の授業時間を用い、関連する文献についても渉猟しながら、議論を深めていきます。					
1. 人類学と開発問題 ① 開発援助と人類学の関係、②論文探求、③開発人類学の展開、④論文探求、⑤開発人類学の認識論、⑥論文探求、⑦文化人類学と国際医療協力のつながりとへだたり、⑧論文探求					
2. 実践の現場から ⑨エミクな視点から見えるトイレの問題、⑩開発援助実践のフィールドワーク、⑪「人々のことば」と「開発のことば」をつなぐ試み、⑫ローカルな文脈とジェンダーの接点を求めて、⑬開発実践における「プロセスの記述」、⑭開発の「正義」と見えない代価のはざま、⑮健康と病をどう捉えるか。					
【教材・テキスト】 授業のなかで指定します。					
【参考文献】 佐藤寛・藤掛洋子共編 2011『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ—』明石書店 マイケル・チェルエア編『開発は誰のために：援助の社会学・人類学』日本林業技術協会					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（レジュメの完成度、コメントや質問など議論への参加）から総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。受講者は予習し、レジュメを用意して参加する。授業では内容を確認した後、その内容を議論する。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ文明論				
担 当 教 員	齋藤 義彦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9・10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 近代文明をもたらしたヨーロッパ文明の普遍性をその歴史的特殊性から理解する					
【授業の概要】 アルファベット、欧州諸語、活版印刷術、新聞、ラジオ、テレビ、デジタル機器などのメディア史に留意して近代の普遍文明としてヨーロッパが自己主張するに至ったプロセスを検証する。					
【授業内容予定】 (1) ヨーロッパ文明とは何か (14) ヨーロッパと世界 (2) アルファベットとヨーロッパ (15) 総括 (3) 古代ギリシャ文明とヨーロッパ (4) 古代ローマ文明とヨーロッパ (5) フランク帝国とヨーロッパ (6) 欧州諸語とヨーロッパ (7) 活版印刷術とヨーロッパ (8) 新聞とヨーロッパ (9) ラジオとヨーロッパ (10) テレビとヨーロッパ (11) デジタル時代のヨーロッパ (12) ヨーロッパとアメリカ (13) ヨーロッパと日本					
【教材・テキスト】 開講時に決定します。					
【参考文献】 M. マクルーハン『メディア論』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業での成果とレポートを総合的に評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜7・8時限					

授 業 科 目 名	ジェンダー人類学				
担 当 教 員	杉山 祐子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1) ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究の流れを理解する 2) 人類学研究におけるジェンダー視点の可能性と課題を知る 3) 自身の研究を展開する上での手がかりを得る					
【授業の概要】 この授業ではさまざまな「差異」の文化性・社会性を考える手がかりとして、ジェンダーを取り上げます。ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究を概観することによって、人間の社会や文化の多様性を知るとともに、ジェンダー視点による研究の可能性と課題について考えます。今年度はとくに、開発の日常化した現代 ジェンダーとその他の差異について					
【授業内容予定】 (1) 概論 1回 イントロダクション 2回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (1): 前史 3回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (2): 生成 4回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (3): 展開 (2) 社会のしくみとジェンダー 5回 組織化と帰属 6回 権利と継承 7回 生産と再生産 8回 中間まとめ (3) 日常生活におけるジェンダーのあらわれ 9回～10回 事例紹介1と検討 11回～12回 事例紹介2と検討 13回～14回 事例紹介3と検討 15回 まとめと総合討論 ＊受講者の基礎知識や関心等によって、順序や内容を大きく変更することもあります。					
【教材・テキスト】 授業時に関連文献を紹介します。文献リストは授業進行に伴い、適宜配布します。英語文献を使用することもあります。					
【参考文献】 宇田川妙子・中谷文美編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社、田中雅一・中谷文美編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社）「介護文化研究序説」その他、授業進行に伴い、適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容等を総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。映像資料を用いることもあります。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	アフリカ地域研究				
担 当 教 員	フィリップス, ジョン・エドワード				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 To acquaint students with the basics of historical methodology pertaining to Africa.					
【授業の概要】 Reading, writing, presentations and discussion in English.					
【授業内容予定】 1) Chapter 1: J. E. Philips “What is African History?” 「アフリカ史とは何だ？」 2) Chapter 2: S. K. McIntosh “Archaeology and the Reconstruction of the African Past” 「考古学とアフリカの過去」 3) Chapter 3: C. Ehret “Writing African History from Linguistic Evidence” 「言語からアフリカ史」 4) Chapter 4: S.O.Y. Keita “Physical Anthropology and African History” 「人類学とアフリカ史」 5) Chapter 6: D. Henige “Oral Tradition as a Means of Reconstructing the Past” 「口承とアフリカ史」 6) Chapter 7: B. M. Cooper “Oral Sources and the Challenge of African History” 「口述アフリカ史」 7) Chapter 8: J. Hunwick “Arabic Sources for African History” 「アラビア語史料とアフリカ史」 8) Chapter 9: J. Thornton “European Documents and African History” 「ヨーロッパ史料とアフリカ史」 9) Chapter 10: T. Falola “Mission and Colonial Documents” 「宣教と植民地の史料」 10) Chapter 11: I. O. Albert “Data Collection and Interpretation in the Social History of Africa” 「アフリカの社会史」 11) Chapter 12: M. Yoshida “African Economic History” 「アフリカの経済史」 12) Chapter 14: Methodologies in Yoruba Oral Historiography and Aesthetics” 「ヨルバ史の方法論」 13) Chapter 18: D. D. dia Mwembu “History and Memory” 「歴史とメモリ」 14) Chapter 19: K. Sheldon “Writing about Women” 「女性史の書き方」 15) Chapter 20: J. E. Philips “Writing African History” 「アフリカ史の書き方」					
【教材・テキスト】 John Edward Philips <i>Writing African History</i> (Rochester University Press, 2005)					
【参考文献】 (to be arranged)					
【成績評価の方法および採点基準】 Participation, improvement and written work, both in class and as homework.					
【授業形式・形態および授業方法】 seminar.					
【留意点・予備知識等】					

2. 3. 応用社会科学専攻 専門科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるので、事前に担当教員に確認すること。

2. 3. 1 総合文化社会研究コース	2. 3. 2 地域人材育成コース	2. 3. 3 国際人材育成コース
地域社会学 環境社会学 応用社会学 地域経済論 財政学 日本経済論 国際経済学 労働法 憲法 行政学 工業経済学 労働経済学 刑法 マクロ経済学 ミクロ経済学 政治経済学 経済学史論 日本経済史論 経営統計学 金融論 地域科学 地理情報科学 マーケティング論 イノベーション論 経営管理論 商法 民法 経営史 グローバル経営論 経営組織論 実証会計学 財務報告論 原価計算論 職業社会論	農村社会史 地域活動論 合意形成論 開発政策論 地方財政論 社会保障法 人権論 地方自治論 北東北雇用政策論 刑事司法論 マクロ経済分析論 産業組織論 経済思想論 応用経営統計論 地域金融論 地域政策評価論 都市・地域情報分析論 北東北商業政策論 起業論 地域イノベーション論 経済法制論 民事司法論 会計システム論 キャリア形成論	アジア経済論 産業立地論 産業発展論 労働過程論 比較経済論 比較経営史論 国際ビジネス論 企業社会論 国際管理会計論 国際会計論

授 業 科 目 名	地域社会学（27年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	白石 壮一郎				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
地域社会学・地域研究の視角、方法、論文記述について学び、それを自らの研究に生かす。					
【授業の概要】					
都市社会学、農村社会学、人類学のモノグラフを中心に、社会の共同性についての調査と分析を学んでいく。講義あるいは文献講読6割、それをふまえた討議4割の形式ですすめる。文献は和文・英文。					
【授業内容予定】					
1. 社会変化と社会関係の変化 2. 交換と貨幣 3. 互助組織（1） 4. 互助組織（2） 5. 争議の研究（1） 6. 争議の研究（2） 7. 伝統と社会変化（1） 8. 伝統と社会変化（2） 9. 記憶 10. 開発・観光 11. 家族の変容 12. 友人関係 13. 移住・移動（1） 14. 移住・移動（2） 15. まとめ					
【教材・テキスト】					
テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。					
【参考文献】					
岩崎・似田貝・古城・矢澤 監修『地域社会学講座 1～3』（東信堂、2006年）					
【成績評価の方法および採点基準】					
講義への参加とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式6割、演習形式4割					
【留意点・予備知識等】					
基本は各自の研究。講義はそのため材料を仕入れ、議論をする場だと考えてください。					

授 業 科 目 名	環境社会学（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 環境という視点から現代の地域社会をとらえた諸研究について学び、それを自らの研究に生かす。					
【授業の概要】 環境社会学とは、環境問題を社会問題ととらえて、人間の活動と環境との関係性を社会的な側面から問う学問です。具体的な事例研究に基づいて、環境問題へのアプローチの方法を学び、問題解決にむけた取り組みについて考えます。					
【授業内容予定】 （１）概論 第1回 イン트로ダクション 第2回 環境社会学をめぐる議論の展開 （２）日本における環境問題と私たちの生活文化 第3回 事例紹介１ 公害問題 第4回 事例１をふまえた検討 第5回 事例紹介２ 有機農業運動 第6回 事例２をふまえた検討 第7回 事例紹介３ エネルギー問題 第8回 事例３をふまえた検討 （３）開発途上国の環境問題—グローバルの論理とローカルの論理— 第9回 事例紹介４ コモンズ 第10回 事例４をふまえた検討 第11回 事例紹介５ 野生動物保護 第12回 事例５をふまえた検討 第13回 事例紹介６ 森林保全 第14回 事例６をふまえた検討 第15回 まとめと総合討論					
【教材・テキスト】 授業時に文献を適宜配布・紹介します。					
【参考文献】 飯島伸子・鳥越皓之他編『講座 環境社会学 1～5』（有斐閣、2001年）					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容などを総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式でおこないます。映像資料を用いることもあります。					
【留意点・予備知識等】 受講者の基礎知識や関心等によって、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 第1回の授業時にお知らせします。					

授 業 科 目 名	応用社会学（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	平井太郎				
学 期	前	曜日・時限	火 9・10	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 現実社会の改善に不可欠な社会学理論・方法論を獲得し研究成果の自己検証の視点を習得する。					
【授業の概要】 社会学の理論・方法論・知見に対する貢献と現実社会の改善に対する寄与を同時に目指す視点から、自らを含む研究成果を評価・討議する。					
【授業内容予定】 第1回 研究内容の相互紹介 第2回 教員の研究成果の検証(1) 青森県での実践 第3回 『社会学の方法』(1) デュルケム 第4回 『社会学の方法』(2) ウェーバー 第5回 『社会学の方法』(3) ジンメル 第6回 『社会学の方法』(4) マートン 第7回 『社会学の方法』(5) ルーマン 第8回 『社会学の方法』(6) オートポイエーシス 第9回 『社会学の方法』(7) オートロジー 第10回 受講生の研究成果の検証(1) 第11回 受講生の研究成果の検証(2) 第12回 教員の研究成果の検証(2) 青森県での実践 第13回 受講生の研究成果の検証(3) 第14回 総括					
【教材・テキスト】 佐藤俊樹『社会学の方法』					
【参考文献】 R・K・マートン『社会理論と社会構造』、N・ルーマン『道德の社会学』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加					
【授業形式・形態および授業方法】 討議形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 of-hirai@nifty.comに随時確認すること。					

授 業 科 目 名	地域経済論				
担 当 教 員	北島 誓子				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9-10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
知的資源の地域的展開に関する理論的課題と現状を把握すること。					
【授業の概要】					
知識、技術力、開発力などの知的資源は、地方経済においても重要な役割を担っています。当授業は、昨今関心が高まっている知的資源の地域的展開に関する問題を、理論的側面と政策的観点から検証していきます。					
【授業内容予定】					
はじめに					
産業のサービス化と知識経済					
知識の地域的枠組み					
3. 形式知と暗黙知					
4. 技術移転					
5. 熟練技術の蓄積と衰退					
6. 産業集積と知的資源					
技術革新／イノベーション					
7. イノベーションとは何か					
8. イノベーションネットワーク					
9. RIS：イノベーションと地域					
10. RISとイノベーションネットワークの批判的検証					
科学技術政策と産業・地域振興					
11. 科学技術政策と産業政策					
12. 産学連携のしくみ					
13. 産学連携の地域的展開					
14. 産学連携の諸問題					
まとめとディスカッション					
【教材・テキスト】					
Jennifer Clark. <i>Working Regions: Reconnecting Innovation and Production in the Knowledge Economy</i> , 2014.					
Cooke, Philip et al. <i>Regional Knowledge Economies: Markets, Clusters and Innovation</i> . Edward Elgar Pub. 2009.					
Westland, Hans. <i>Social Capital in the Knowledge Economy: Theory and Empirics</i> . Springer, 2006.					
その他、著書、論文					
【参考文献】					
適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
レジュメ、プレゼンテーション、討論参加により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習方式で行います。学生が1論文または著書1章分のレジュメを作成し、それにもとづく発表と討論ですすめていきます。授業のペースは毎回、論文1-2論文、あるいは著書1-2章となります。					
【留意点・予備知識等】					
テキストは原則英文となります。					
受講希望者は、初回講義の前日までに担当教員とコンタクトを取って下さい（資料準備のため）。					
【オフィスアワー】					
火曜日：17:40～18:30p.m.					

授 業 科 目 名	財政学				
担 当 教 員	金目 哲郎				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
財政システムにおける研究課題の所在を受講生が独力で発見し、課題を解決するための資料やデータに基づく検証を自ら行うことができます。これにより、各人が設定する研究課題を論文として再構築する素地が身に付けられます。					
【授業の概要】					
現代財政をめぐる諸論点について、理論・制度・実証の視角から検討します。財政学に関連するテキストを手がかりに、現代社会が直面する諸問題の現状分析と将来展望をしていきます。下記の授業内容は、現代財政につき総論的・包括的に検討するテキストを選定したときの予定です。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンスおよび講義、現代財政を学ぶ視点 第2回 受講生による報告と討論、現代財政の課題と特徴 第3回 受講生による報告と討論、財政思想と財政社会学 第4回 受講生による報告と討論、近現代財政の展開 第5回 受講生による報告と討論、財政の政策決定過程—予算と税制改革 第6回 受講生による報告と討論、経費 第7回 受講生による報告と討論、租税の理論 第8回 受講生による報告と討論、税制の国際比較と日本税制 第9回 受講生による報告と討論、公債 第10回 受講生による報告と討論、政府間財政関係 第11回 受講生による報告と討論、日本の地方財政 第12回 受講生による報告と討論、公企業と財政投融资 第13回 受講生による報告と討論、社会保障と教育の財政制度 第14回 受講生による報告と討論、経済政策と財政金融 第15回 受講生による報告と討論、グローバル化と財政					
【教材・テキスト】池上岳彦編（2015）『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス					
【参考文献】					
井手英策(2015)『経済の時代の終焉』岩波書店 須藤時仁・野村容康(2014)『日本経済の構造変化』岩波書店 森信茂樹(2015)『税で日本はよみがえる』日本経済新聞出版社					
【成績評価の方法および採点基準】					
レジュメの報告、討論の内容、受講状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
輪読方式。受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。					
【留意点・予備知識等】					
財政学の基礎的知識があることが望ましいです。受講生の関心に基づいて、他のテキストを購読することも歓迎します。たとえば、租税論や税制をテーマとして扱うのであれば、上記の参考文献の森信(2015)を購読してもよいでしょう。相談のうえテキストを選定します。					
【オフィスアワー】水曜日の9:30-11:30					

授 業 科 目 名	日本経済論				
担 当 教 員	黄 孝春				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 農業は産出高、就業者数などの面において日本経済に占める比重が小さいです。しかし、T P Pの参加問題をめぐる論争からもわかるように農業は政治的にも経済的にも重要な意味を持っています。この授業は青森産りんごの輸出に関する考察を通じて農業の在り方について理解を深めることを目指しています。					
【授業の概要】 「攻めの農業」が叫ばれ、農林水産物の輸出が推進されています。青森産りんごは日本の農産物輸出に占める比重が大きいです。この授業では、青森産りんごの輸出はどのように拡大してきたのか、またT P Pの参加がりんご産業に与える影響について考察する予定です。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 農水産物の生産と流通 第3回 農水産物の貿易 第4回 東アジア経済共同体と農業 第5回 世界のりんご産業（生産・流通・貿易）（1） 第6回 世界のりんご産業（生産・流通・貿易）（2） 第7回 日本のりんご産業（1） 第8回 日本のりんご産業（2） 第9回 戦後日本の農水産物貿易とりんご 第10回 台湾向けりんご輸出（1） 第11回 台湾向けりんご輸出（2） 第12回 中国大陸市場への取り組み 第13回 東南アジア市場への取り組み 第14回 T P Pとりんご産業の今後 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 黄孝春・平本和博『りんごをアップルとは呼ばせない』弘前大学出版会(近刊)。					
【参考文献】 授業中で適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席とレポートによって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 討議方式を中心とします。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	国際経済学（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	桑波田浩之				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 国際貿易論の研究テーマについて理解を深め、計量実証分析の手法を用いて自らデータを用いて仮説を検証し、それを論理的に説明する技術を身につけることを目指す。					
【授業の概要】 国際貿易の実証研究の論文を輪読・討論し、同分野における近年の研究テーマや分析手法を学ぶ。前期では、企業と国際貿易をテーマとした論文を扱う。教科書は指定せず、論文ごとに報告者を割り当て、その報告をもとに参加者全員で論文の貢献や問題点の議論を行う。また、学期終了までに、関連したテーマで、統計分析を含んだ簡単な小論文を執筆してもらう。					
【授業内容予定】 第1回 講義概要 第2回 多国籍企業と国際貿易（1） 第3回 多国籍企業と国際貿易（2） 第4回 多国籍企業と国際貿易（3） 第5回 企業の資金制約と輸出（1） 第6回 企業の資金制約と輸出（2） 第7回 企業の資金制約と輸出（3） 第8回 小論文プロポーザル報告 第9回 企業の異質性と貿易の利益（1） 第10回 企業の異質性と貿易の利益（2） 第11回 企業の異質性と貿易の利益（3） 第12回 企業組織と国際貿易（1） 第13回 企業組織と国際貿易（2） 第14回 企業組織と国際貿易（3） 第15回 小論文報告					
【教材・テキスト】 教科書は指定せず、1回目の講義で指定する論文を読んでいく。					
【参考文献】 『現代日本企業の国際化 パネルデータ分析』（2011） 若杉隆平編 岩波書店					
【成績評価の方法および採点基準】 担当する論文の報告50% 小論文50%					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式とする。					
【留意点・予備知識等】 中級のミクロ経済学、計量経済学の前提知識とする。論文を理解する上で、経済学の知識を要する点に注意してほしい。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	労働法				
担 当 教 員	成田史子				
学 期	後	曜日・時限	水5・6	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の労働法の各テーマについて、その論点、学説、判例を整理し、外国法との比較を行うことで、日本の現在の規制を客観的に捉え、今後の立法政策について検討を行うことを目標とします。					
【授業の概要】 各テーマについて、日本法の検討を中心に行い、必要に応じて外国法、とりわけドイツ法との比較検討を行います。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：個別的労働関係法① 第3回：個別的労働関係法② 第4回：個別的労働関係法③ 第5回：個別的労働関係法④ 第6回：個別的労働関係法⑤ 第7回：個別的労働関係法⑥ 第8回：労働市場法① 第9回：労働市場法② 第10回：労働市場法③ 第11回：集团的労働関係法① 第12回：集团的労働関係法② 第13回：集团的労働関係法③ 第13回：日独比較検討① 第14回：日独比較検討② 第15回：予備日					
【教材・テキスト】 開講時に指示。					
【参考文献】 開講時に指示。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業態度および学期末のレポートにより評価					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】 とくになし。					
【オフィスアワー】 火曜1・2限					

授 業 科 目 名	憲法（平成26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	河合 正雄				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
1. 日本国憲法を解釈するにあたって、外国（英米独仏）の憲法学を参照する意義を理解できる。					
2. 比較憲法の視点を取り入れた上で日本国憲法を解釈できる。					
【授業の概要】					
テキスト（日本語）を輪読します。英米独仏を中心とした外国法の概念が数多く出てきますので、報告者はこれらの概念を理解したうえで報告することが求められます。					
【授業内容予定】					
第1回：日本の憲法学と比較憲法の意義（河合）、今後の方針決め					
第2回：1部1章1節 広義の人権と狭義の「人」権					
第3回：1部1章2節 歴史のなかの人権					
第4回：1部2章1節 「人」権——個人が解放されることの意味					
第5回：1部2章2節 「人」権——個人が放出されることの意味					
第6回：1部2章3節 「人」権と文化の多元性					
第7回：2部1章 権利の諸類型、2部2章13 アメリカ					
第8回：2部2章14・15 フランス、ドイツ					
第9回：2部3章16 私的自治 v. 憲法価値					
第10回：2部3章17・18 市場 v. 公序、家族 v. 公序					
第11回：2部3章19・20 宗教 v. 公共社会、マイノリティ v. 個人					
第12回：2部3章21・22 制度 v. 個人権、自己決定 v. 人間の尊厳					
第13回：2部3章23・24 相対主義 v. 相対主義の相対化、「公共の福祉」					
第14回：2部4章 違憲審査制					
第15回：2部5章 基本権保障の「国際化」					
第16回：全体のまとめ					
【教材・テキスト】					
樋口陽一『国法学 人権原論（補訂）』（有斐閣、2007年）3,500円＋税					
【参考文献】					
芦部信喜『憲法学Ⅱ人権総論』（有斐閣、1994年）3,800円＋税					
芦部信喜『憲法学Ⅲ人権各論（1）（増補版）』（有斐閣、2000年）5,000円＋税					
【成績評価の方法および採点基準】					
平常時の報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
担当者に20分程度のご報告をいただいた後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】					
日本語文献を日本語で議論します。比較憲法学に興味関心がある方を歓迎します。					
【オフィスアワー】水曜日5-6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば対応します。					

授 業 科 目 名	行政学				
担 当 教 員	児山 正史				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・9－10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 行政に関する基礎的な知識と基本的な見方を身につけた上で、行政の諸問題について論じられるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 行政に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、行政に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。					
【授業内容予定】 詳細については受講者の関心に応じて決定します。 参考までに、例えば、下記のような内容で行います。 （D. オズボーン他『行政革命』を主な教材とする場合。） 第1回 イントロダクション 第2回 アメリカの行政改革 第3回 触媒としての行政 第4回 地域社会が所有する行政 第5回 競争する行政 第6回 使命重視の行政 第7回 成果重視の行政 第8回 顧客重視の行政 第9回 企業化する行政 第10回 先を見通す行政 第11回 分権化する行政 第12回 市場志向の行政 第13回 日本の行政改革 第14回 日本の総合計画 第15回 日本の行政評価					
【教材・テキスト】 受講者の関心に応じて決定します。					
【参考文献】 授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加を中心に、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日 7・8 時限					

授 業 科 目 名	工業経済学				
担 当 教 員	細矢 浩志				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 資本主義工業にかんする基礎知識の習得，経済社会を読み解くための問題設定と経済学的な思考・アプローチにかんする基礎的訓練，文章表現力の養成を目標とします。					
【授業の概要】 資本主義システムにおける工業活動の法則的・体系的把握に関する諸問題を，主要文献・資料の講読・討論をつうじて，理論と実証の両面から分析・検討します。					
【授業内容予定】 第1回：イントロダクション：授業内容の紹介 第2回：現代工業と工業経済論 第3回：産業革命と工業化の進展(1)～イギリス産業革命と工業化の進展 第4回：産業革命と工業化の進展(2)～アメリカ産業革命と工業化の進展 第5回：資本主義的工業の基礎理論(1)～労働過程と価値増殖過程，剰余価値率と労働日 第6回：資本主義的工業の基礎理論(2)～資本主義的生産様式，協業と分業，機械と大工業 第7回：独占段階の工業と資本蓄積(1)～資本の集中・集積と独占の形成 第8回：独占段階の工業と資本蓄積(2)～独占的結合の諸形態・カルテル，トラスト 第9回：独占段階の工業と資本蓄積(3)～独占的結合の諸形態・金融資本 第10回：独占段階の工業と資本蓄積(4)～独占による市場支配＝競争制限 第11回：独占段階の工業と資本蓄積(5)～独占的蓄積の社会的性格・フォードシステム 第12回：独占段階の工業と資本蓄積(6)～独占的蓄積の社会的性格・独占利潤と支配利潤 第13回：現代日本の工業経済 第14回：グローバル化とアジア工業化 第15回：小括と展望					
【教材・テキスト】 金田重喜編『親版・現代工業経済論』創風社，2000年					
【参考文献】 仲村静治『現代工業経済論』汐文社，1973年 坂本和一『現代工業経済論』有斐閣，1988年 マルクス，カール（資本論翻訳委員会訳）『資本論』，新日本出版社					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式（レポート作成・報告，ディスカッション）					
【留意点・予備知識等】 標準的な経済学(マクロ経済学，ミクロ経済学，政治経済学)にかんする基礎知識を修得していることが前提となります。					
【オフィスアワー】 月曜日・午後4時～5時・人文社会科学部344室					

授 業 科 目 名	労働経済学				
担 当 教 員	李 永俊				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
労働経済学の基礎的な理論の枠組みを理解し、労働政策の経済学的な評価ができるようになる。					
【授業の概要】					
本講義では、労働市場の諸問題について文献の輪読と討論を通して検討することを目的とする。日本の労働市場が抱える諸問題の中で、人口減少問題に焦点を当てて講義を進める予定である。また、人口減少に対する対策を経済学の視点で多角的に評価することを試みる。より詳細な内容は開講時に担当教員に確認すること。					
【授業内容予定】					
1回 イントロダクション					
2回 労働経済学とは					
3回 労働供給理論					
4回 労働供給理論					
5回 労働市場の均衡					
6～8回 人口減少の実態					
9～10回 若年者の労働移動の実態とその理由					
11～13回 青森県の労働市場					
14～15回 人口減少に対する対策案を考える					
【教材・テキスト】					
特にテキストは指定しない。					
【参考文献】					
大橋勇雄編著（2009）『労働需要の経済学』ミネルヴァ書房					
三上直紀編著（2011）『労働供給の経済学』ミネルヴァ書房					
石黒・李・杉浦・山口（2012）『「東京」に出る若者たち－仕事・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ 書房					
樋口美雄（2008）『人口減少社会の家族と地域』日本評論者					
増田寛也（2014）『地方消滅－東京一極集中が招く人口急減』中公新書					
【成績評価の方法および採点基準】					
レポートの作成，報告や出席等の学習態度を総合して評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】					
特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】					
毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	刑法				
担 当 教 員	平野 潔				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・刑法の基礎理論を理解し、その知識に基づいて判例の分析などが出来る。 ・刑法上の様々な問題に対して、自らの考えを、理論的根拠に基づいて示すことが出来る。					
【授業の概要】 刑法の最新的话题に関する論文・判例を素材として、理論的観点から検討を加えていきます。					
【授業内容予定】 詳細は第1回の授業時に説明しますが、以下のような内容で進めます。 （なお、内容は一部変更になる場合があります） 1. ガイダンス 2. 因果関係論と客観的帰属論 3. 不真正不作為犯における作為義務 4. 過失犯に関する諸問題 5. 正当防衛をめぐる最近の状況 6. 故意と違法性の意識 7. 中止未遂 8. 共同正犯の成立要件 9. 中立的行為による幫助 10. 「傷害」概念 11. 危険運転致死傷罪の射程 12. 業務妨害罪と表現の自由 13. 刑法における秘密の意義 14. 詐欺罪をめぐる諸問題 15. 背任罪をめぐる諸問題					
【教材・テキスト】 とく指定しません。					
【参考文献】 開講時に指定します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業における報告および発言（80％）と授業の最後に課されるレポート（20％）によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 第1回の講義時に担当者を決め、その担当者の報告に基づいて、参加者全員で議論します。					
【留意点・予備知識等】 少なくとも学部における刑法総論・各論の基本的な知識は必要です。					
【オフィスアワー】 木曜日 3－4時限（それ以外の時間でも事前にアポイントをとってもらえれば対応します）					

授 業 科 目 名	マクロ経済学				
担 当 教 員	山本康裕				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中級のマクロ経済学の理論を修得することを目標とする。 特にミクロ経済学的基礎を前提とするマクロ経済学の理論に「慣れる」事を重視する。					
【授業の概要】 中級のマクロ経済学の教科書を輪読する。					
【授業内容予定】 第1回 IS-LM分析 第2回 静学的総需要・総供給分析 第3回 経済成長論Ⅰ…人口成長と技術進歩を考慮しないケースのソローモデル 第4回 経済成長論Ⅱ…人口成長と技術進歩を考慮するケースのソローモデル 第5回 内生的成長論 第6回 マクロ経済政策は、受動的であるべきか積極的であるべきか 第7回 政府負債が経済に及ぼす影響 第8回 消費関数論争 第9回 投資 第10回 金融政策のミクロ的基礎 第11回 動学的総需要・総供給曲線分析Ⅰ…モデルの組み立て 第12回 動学的総需要・総供給曲線分析Ⅱ…モデルの応用 第13回－15回 実証分析入門…EViewsによるデータ分析 などを学習する					
【教材・テキスト】 マンキュー(2012)『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用篇』東洋経済新報社					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における報告が誠実に行われているかで判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
【留意点・予備知識等】 教科書の輪読					
【オフィスアワー】 水曜日 12:40-14:10					

授 業 科 目 名	ミクロ経済学				
担 当 教 員	小谷田文彦				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 3-4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ミクロ経済学の基礎理論である企業の利潤最大化行動を理解したうえで、企業の境界、企業の戦略的行動、企業組織に関する基礎理論を理解すること。					
【授業の概要】 はじめに、標準的なミクロ経済学を学ぶ。次に、ゲーム理論、不確実性の経済学などミクロ経済学の応用分野を学ぶ。					
【授業内容予定】 第 1 回 消費者行動 1 第 2 回 消費者行動 2 第 3 回 生産者行動 1 第 4 回 生産者行動 2 第 5 回 市場均衡 1 第 6 回 市場均衡 2 第 7 回 ゲーム理論の基礎 1 第 8 回 ゲーム理論の基礎 2 第 9 回 不完全競争 1 第 10 回 不完全競争 2 第 11 回 不確実性と情報の非対称性 1 第 12 回 不確実性と情報の非対称性 2 第 13 回 外部性と公共財 第 14 回 外部性と公共財 第 15 回 全体のまとめ					
【教材・テキスト】 奥野正寛著『ミクロ経済学』東京大学出版会（2008年）					
【参考文献】 武隈慎一著『ミクロ経済学』新世社（1999年）					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 金曜日 9・10 時限					

授 業 科 目 名	政治経済学				
担 当 教 員	鈴木和雄				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日 7－8時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 現代の資本主義経済を、福祉国家の発展過程として考察することをつうじて、(1) 現代資本主義の特徴と、(2) いろいろのタイプの福祉国家を理解することが、具体的到達目標です。					
【授業の概要】 現代の資本主義経済を福祉国家システムととらえ、それが資本主義の歴史的発展過程のある段階で成立し、ある段階で変質していく過程を研究しながら、いろいろのタイプの福祉国家の特徴を勉強します。					
【授業内容予定】 第 1 回 序論 第 2 回 福祉国家の形成 (1) 第 3 回 福祉国家の形成 (2) 第 4 回 福祉国家の形成 (3) 第 5 回 福祉国家の成立と経済成長 (1) 第 6 回 福祉国家の成立と経済成長 (2) 第 7 回 福祉国家の成立と経済成長 (3) 第 8 回 福祉国家のタイプ (1) 第 9 回 福祉国家のタイプ (2) 第 10 回 福祉国家のタイプ (3) 第 11 回 福祉国家の動揺 (1) 第 12 回 福祉国家の動揺 (2) 第 13 回 福祉国家と過剰富裕化 (1) 第 14 回 福祉国家と過剰富裕化 (2) 第 15 回 まとめ					
【教材・テキスト】 G.エスピン-アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房。					
【参考文献】 加藤栄一『現代資本主義と福祉国家』ミネルヴァ書房。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の出席および報告内容により、成績を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式。					
【留意点・予備知識等】 とくに必要としません。					
【オフィスアワー】 金曜日 9－10 時限					

授 業 科 目 名	経済学史論				
担 当 教 員	福田 進治				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
経済学史領域（経済理論・経済思想・経済政策の歴史）の研究方法を身に付けながら、経済問題について理論的・歴史的に検討する能力を養うことを目的とする。					
【授業の概要】					
近世～20世紀後半の西ヨーロッパの経済と経済学の歴史を研究し、この期間の主要な経済問題とそれに関連する経済理論・経済思想・経済政策を検討する。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンス 第2回 重商主義の時代 第3回 市場メカニズム 第4回 夜警国家の理論 第5回 産業革命の時代 第6回 国際貿易の原理 第7回 階級闘争の時代 第8回 資本主義の本質 第9回 資本主義の盛衰 第10回 ヴィクトリア時代 第11回 市場均衡の理論 第12回 大恐慌の時代 第13回 景気循環と失業 第14回 福祉国家の形成 第15回 補足説明・質疑応答					
【教材・テキスト】					
ガイダンスの際、受講者と相談し、受講者の学問的関心に基づいて決定する。					
【参考文献】					
必要に応じて授業中に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
平常の出席態度・課題報告（50点）および期末のレポート課題（50点）による。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式とする。					
【留意点・予備知識等】					
学部専門レベルの経済学史の内容を理解していることを前提とする。					
【オフィスアワー】					
月曜日～金曜日 12時～13時（人文学部棟413号室）					

授 業 科 目 名	日本経済史論				
担 当 教 員	池田 憲隆				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本経済史に関する基本的知見を確認するとともに、最新の研究動向と成果を理解すること。					
【授業の概要】					
日本経済を歴史的観点から考察する。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンスとイントロダクション					
第2回 日本近世の世界史的位置					
第3回 明治維新					
第4回 制度変革					
第5回 近代的工業化の過程					
第6回 日清・日露戦争期					
第7回 第1次大戦期					
第8回 戦間期					
第9回 昭和恐慌					
第10回 高橋財政					
第11回 戦時経済					
第12回 戦後復興期					
第13回 高度成長期					
第14回 1970～80年代半ば					
第15回 バブル経済とその崩壊					
【教材・テキスト】					
受講生と相談の上、決定する。					
【参考文献】					
授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合がある。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表内容や勉学態度などにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式と演習形式を併用する。					
【留意点・予備知識等】					
受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更がすることがある。					
【オフィスアワー】					
木曜日14：00～15：00					

授 業 科 目 名	経営統計学				
担 当 教 員	栗原 由紀子				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 標準的な大学院レベルの統計解析に関する知識の習得とともに、データ分析に伴う問題点や限界を理解した上で、それらを実際のデータ分析に応用する力を養います。					
【授業の概要】 経営や経済などに関するマイクロデータの統計的解析手法を学習します。特に、推定方法や推定誤差の評価方法などについて、詳細に議論を重ねていく予定です。					
【授業内容予定】 受講者の関心や学習レベルをみながら講義内容を構成しますが、標準型を掲げておきます。 第1回 統計ソフトRの基本操作 第2回 データ・エディティング 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 基本統計量 第5回 クロス集計表 第6回 相関係数と散布図 第7回 確率変数の特性値 第8回 重要な確率分布 第9回 点推定 第10回 区間推定（1）母平均の区間推定 第11回 区間推定（2）母比率の区間推定 第12回 仮説検定（1）平均の検定 第13回 仮説検定（2）平均の差の検定 第14回 仮説検定（3）その他の検定 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 青木繁伸（2009）『Rによる統計解析』オーム社					
【参考文献】 講義中に、適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常評価(授業への参加)30% 小レポート30% 期末レポート40%					
【授業形式・形態および授業方法】 主に講義形式で進めますが、適宜、パソコンを用いた演習を行います。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	金融論				
担 当 教 員	飯島 裕胤				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 現代の金融においては、金融取引とともに金融取引の「制度設計」が重要になっている。事業に資金を融資するにしても、その事業が高度に機能する制度を設計し提案してゆくことの重要性は、今後ますます高まるであろう。この講義では、金融に焦点をあてながら、「制度設計」について基礎から理解を深めてゆく。					
【授業の概要】 S. ボウルズ『制度と進化のミクロ経済学』NTT出版をテキストに、制度設計の基礎を学ぶ。その理解をもとに、具体的な金融制度設計を考えてゆく。					
【授業内容予定】 1. ガイダンス 2. 社会的相互作用と制度設計 3. 選考と行動 4. 調整の失敗と制度的対応 5. 協力、交渉、レント・シーキングなど。 ガイダンスを除き、1テーマ当たり3回を予定している。					
【教材・テキスト】 S. ボウルズ『制度と進化のミクロ経済学』NTT出版					
【参考文献】 適宜紹介する					
【成績評価の方法および採点基準】 講義での議論 60%、最終レポート 40%					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と院生間の議論を行う					
【留意点・予備知識等】 ミクロ経済学の基本的理解があることが望ましい					
【オフィスアワー】 月曜日、13：00-14：00					

授 業 科 目 名	地域科学				
担 当 教 員	大橋 忠宏				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 青森を含む地方都市や東京などの大都市，あるいは地域の問題を社会科学的に理解すること．					
【授業の概要】 青森を含む地方都市や東京などの大都市，あるいは地域の諸問題を経済学的に理解するために，都市の存在理由や都市システム，都市交通問題などについて青森等の事例を交えつつ議論する．					
【授業内容予定】 予定している内容は以下の通り． 第1回：地域科学とは 第2回：都市はなぜ形成されるか 第3回：都市はどこに形成されるか 第4回：都市内の土地市場 第5回：都市内土地市場と地代の決定：単一中心都市 第6回：サブセンターの形成 第7回：都市の外部性と土地利用の規制 第8回：都市規模と都市システムー市場都市と中心地理論 第9回：工業生産における集積の経済と都市システム 第10回：企業間コミュニケーションと都市規模分布 第11回：都市における交通問題ー交通需要と便益 第12回：都市における交通問題ー交通混雑と道路利用，混雑対策など 第13回：都市における公共サービスー都市経済と政府 第14回：都市における公共サービスー地方政府における公共財の供給，など． 第15回：地域間交易と空間経済学					
【教材・テキスト】 黒田達明・田淵隆俊・中村良平：『都市と地域の経済学(新版)』，有斐閣．佐々木公明・文世一：『都市経済学の基礎』，有斐閣． の上記項目に関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など．					
【参考文献】 大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』．佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣． など． 適宜紹介する．					
【成績評価の方法および採点基準】 成績の評価は，報告内容及び質疑応答の内容を基に行う．					
【授業形式・形態および授業方法】 主に輪読形式（資料作成・報告・議論）とする．					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の知識が必要である．					
【オフィスアワー】 木曜日・午前10時30分～11時30分・人文社会科学部222研究室					

授 業 科 目 名	地理情報科学				
担 当 教 員	増山 篤				
学 期	後期	曜日・時限	木曜5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 空間分析のための基本的手法全般に習熟する。					
【授業の概要】 英文テキストによって、空間分析のための基本的手法全般を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 導入（空間データ、属性） 第2回 空間データに関する留意点 第3回 空間データの持つ可能性 第4回 伝統的な地図学とジオビジュアライゼーション 第5回 ポイント、ポリゴン、フィールドの視覚化 第6回 空間に関する確率的プロセス 第7回 点パターンの記述 第8回 点パターンの統計的評価の枠組み 第9回 大局的点分布パターンに関する分析 第10回 ポイントの集積箇所を見出す分析 第11回 ポリゴンデータと空間的自己相関 第12回 局所的パターンに関する統計量（Getis-Ord統計量など） 第13回 フィールドタイプデータの分析の基礎 第14回 空間的補間（傾向面分析、クリギングなど） 第15回 オーバーレイ					
【教材・テキスト】 O'Sullivan, D. and Unwin, D. (2010) Geographic Information Analysis, 2nd Edition, Wiley.					
【参考文献】 必要に応じて、授業時間内に紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 受講生の報告の水準によって採点する。					
【授業形式・形態および授業方法】 まずは、受講生が報告を行う。それに対し、担当教員が補足説明およびコメントを加えていく。					
【留意点・予備知識等】 高等学校レベルの数学、学部レベルの統計学の知識、地理情報科学に関する基礎知識が必要である。					
【オフィスアワー】 水5・6時限、人文408研究室					

授 業 科 目 名	マーケティング論				
担 当 教 員	保田宗良				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 マーケティングの基礎理論、応用理論を文献研究によって修得します。現代社会の消費動向を把握する力量を修得するのが目標です。					
【授業の概要】 ジャーナルに掲載された論文の文献研究により、地域の優良企業のマーケティング活動の取り組みを考察します。勝ち組企業の法則性を追求します。					
【授業内容予定】 ① マーケティングの歴史、定義 ② 定義の変遷 ③ サービス・マーケティング研究(観光) ④ サービス・マーケティング研究(医療) ⑤ 流通研究(歴史) ⑥ 流通研究(法規制) ⑦ 青森地域の流通業のマーケティング戦略 ⑧ 青森地域の有力商店街のマーケティング戦略 ⑨ 青森地域の観光業のマーケティング戦略 ⑩ サプライチェーン・マネジメント序論 ⑪ サプライチェーン・マネジメント応用 ⑫ 調査と統計 ⑬ 青森地域の長寿企業のマーケティング活動 ⑭ SDロジックの最新研究 ⑮ 半期の総括					
【教材・テキスト】 邦文、英文のコピーを配布します。邦文のジャーナルの論文が中心です。					
【参考文献】 保田宗良「消費者のためのマーケティング・エッセンス」2015年、日本教育訓練センター					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点＋レポート					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式です。					
【留意点・予備知識等】 日本経済新聞等で、日本企業の実態を把握してください。					
【オフィスアワー】 金曜日 昼休み					

授 業 科 目 名	イノベーション論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	熊田 憲				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、イノベーション・マネジメントに向けたインテリジェンスの醸成を目指します。					
【授業の概要】 イノベーションという現象が生み出されるシステムやメカニズム、マネジメントを体系的に学び、複雑化したイノベーション・プロセスにおいて発生する諸課題について理論的・実践的に考察します。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：イノベーション・マネジメントの主要な課題 第3回：マネジメント・プロセスとしてのイノベーション 第4回：イノベーション戦略のためのフレームワークの開発 第5回：国の環境および競争環境における企業のポジション 第6回：経路：技術軌道を利用する 第7回：プロセス：戦略的学習のための統合 第8回：市場から学習する 第9回：アライアンスを通じて学習する 第10回：内部プロセスをマネージする 第11回：社内ベンチャーから学習する 第12回：イノベティブな組織を構築する 第13回：イノベティブな新企業を創造する 第14回：イノベーション・マネジメントへの統合的アプローチ 第15回：イノベーション論まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は特に指定しません。					
【参考文献】 ・ジョー・ティッド他(2004)、イノベーションの経営学 技術・市場・組織の統合的マネジメント、NTT出版 ・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)、イノベーション・マネジメント入門、日本経済新聞社 ・その他、講義の中で適宜、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告と発言の内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 経営学に関する基礎的な知識が必要です。					
【オフィスアワー】 ・火曜日：12:40～13:40 ・事前にメールにてコンタクトを取ってください。					

授 業 科 目 名	商法				
担 当 教 員	長谷河 亜希子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 商事法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。					
【授業の概要】 商事法分野の問題について学びます。					
【授業内容予定】 商事法分野の法律について、論文や判例等（外国語文献を含む）を読みつつ理解を深めていきたいと思います。 具体的内容は、受講生の皆さんと相談のうえ、決定したいと思います。 現時点では以下が候補です。下記の書籍、およびその中でも挙げられている米国判例および当該問題の最新動向について学びたいと考えています。 ジョン・ジェラルド・ラギー（著）、東澤 靖（翻訳）『正しいビジネス——世界が取り組む「多国籍企業と人権」の課題』岩波書店（2014） 著者は、国連事務総長の特別代表であり、①人権を保護する国家の義務、②人権を尊重する企業の責任、③被害者の救済へのアクセスを中核とした「ビジネスと人権に関する指導原則」を取りまとめた。ビジネスがかかわる人権問題の現状とそれにまつわる国際法、各国の状況に触れたうえで、この画期的なアプローチの内容や意義について解説している。					
目次 序章 なぜ、ビジネスと人権なのか？ 第1章 チャレンジ 第2章 銀の弾丸などはない 第3章 保護、尊重、そして救済 第4章 戦略上の道程 第5章 次なるステップ					
【教材・テキスト】 その都度指示します。					
【参考文献】 その都度指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席、報告、発言等による。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式					
【留意点・予備知識等】 毎日、新聞を読むこと。					
【オフィスアワー】 火曜日 7・8時限					

授 業 科 目 名	民法				
担 当 教 員	吉村 顕真				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 相続法に関し、将来においてより深い研究をしていくための基礎的研究能力を高めることを目標とする。					
【授業の概要】 この授業では、相続法分野に関する基礎的文献及び関連判例を読んだうえで、それに関して議論する。具体的な内容や順番など、受講生との話し合いによって決める。					
【授業内容予定】 大雑把な内容であるが、以下の順に従って進めていく。 第 01 回 オリエンテーション、相続法改正の動き 第 02～03 回 相続人と相続分 第 04～05 回 相続の効力 第 06 回 相続の承認・放棄、財産分離 第 07～08 回 遺産分割 第 09～11 回 遺言 第 12～14 回 遺留分 第 15 回 判例報告					
【教材・テキスト】 授業において指示する。					
【参考文献】 授業において指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告：60%、 提出物：40%					
【授業形式・形態および授業方法】 毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で議論を深めていく予定である。					
【留意点・予備知識等】 初回の授業時に、具体的な報告の内容や順番を決めたいと思うので、それまでに受講希望者は何をしたいのか、ある程度、検討しておいてもらいたい。					
【オフィスアワー】 火曜12時から13時					

授 業 科 目 名	経営史				
担 当 教 員	恩田 睦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5—6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本における会社企業の経営発展の通史を、経済史に即して検討することにより、今日における日本の企業システムの諸特徴の生成過程についての理解を深める。					
【授業の概要】 日本における会社企業の経営活動の歴史的な変遷について、その担い手としての人間や組織による主体的な関与の有り様や在り方などに焦点をおいて研究、考察していきたい。					
【授業内容予定】 第1回 行商から「定住商」へ 第2回 江戸期の呉服店の革新と両替商 第3回 幕末・維新期の企業者機会 第4回 会社制度の普及（1） 第5回 会社制度の普及（2） 第6回 工業化と政府 第7回 財閥の形成とコンツェルン化 第8回 財界団体の系譜 第9回 戦時・戦後の統制と企業経営 第10回 財閥解体と集中排除 第11回 戦後復興と新規事業の創出 第12回 企業グループの再編 第13回 高度成長期の日本企業 第14回 バブル崩壊とメガバンク体制 第15回 まとめ なお、授業内容は履修者との相談のうえ変更することもあり得る。					
【教材・テキスト】 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2007）『日本経営史（新版）』有斐閣					
【参考文献】 ①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』有斐閣ブックス ②宇田川勝・中村青志編（1999）『マテリアル日本経営史：江戸期から現在まで』有斐閣					
【成績評価の方法および採点基準】 各回の授業におけるディスカッションへの参加状況と最終レポートの内容を総合して評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 テキストの輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握もおこなう。					
【留意点・予備知識等】 一つの史実の背景となる経済状況などの基礎知識があることが前提であるので授業外でも自主的な学習を要する。					
【オフィスアワー】 木曜日（10：20～11：50）。事前にアポイントを取ってください。 E-MAIL：mutsumi@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	グローバル経営論				
担 当 教 員	森樹男				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 グローバル経営の基礎を修得することと、習得した知識の応用力を身につけることを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル時代における企業経営について理論的、実践的な考察を行っていきます。					
【授業内容予定】 テキストにしたがい、グローバル経営の考え方を体系的に学習していきます。 テキストの内容は、以下の通りです。 第1回 国際経営とは 第2回 国際経営戦略 第3回 国際経営組織 第4回 国際マーケティング 第5回 海外生産 第6回 国際研究とイノベーション 第7回 国際人的資源管理 第8回 国際経営財務 第9回 自動車産業 第10回 エレクトロニクス産業 第11回 IT産業 第12回 流通 第13回 生活文化財産業 第14回 国際経営マネジメントの変革 第15回 国際経営の将来像					
【教材・テキスト】 吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏（編）『ケースに学ぶ 国際経営』有斐閣ブックス					
【参考文献】 安室憲一編著『新グローバル経営論』白桃書房					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加の程度と期末レポートにより評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式を予定しています。					
【留意点・予備知識等】 常に企業経営に関心を持ち、様々なメディアからの情報も得るように努めてください。					
【オフィスアワー】 金曜 11時～12時30分					

授 業 科 目 名	経営組織論				
担 当 教 員	大倉 邦夫				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経営組織論に関する基本的な諸理論を理解した上で、企業という組織に関わるさまざまな問題を具体的に考察していくことを目的としています。					
【授業の概要】 経営組織論では、マクロ組織論とミクロ組織論という2つの領域に大別されますが、本講義ではそれぞれの領域の代表的なトピックについて議論していくことになります。また、学生自身に事例研究を行ってもらいます。					
【授業内容予定】 第1回 イントロダクション 第2回 多様な組織の捉え方 第3回 組織の成員の動機づけ 第4回 リーダーシップ 第5回 変革型リーダー 第6回 組織文化 第7回 組織学習 第8回 戦略的提携 第9回 組織間学習 第10回 組織構造のデザイン 第11回 多様な組織構造 第12回 事例研究(1) 研究テーマと調査対象の決定 第13回 事例研究(2) 文献調査の中間報告 第14回 事例研究(3) 事例調査の中間報告 第15回 事例研究(4) 調査結果の発表					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回のレジュメの内容、議論への参加度、事例研究の調査結果（レポート）を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。ただし、報告者以外の受講生もレジュメは毎回作成してもらいます。					
【留意点・予備知識等】 自ら考え、自ら調査するということを実践してもらいますので、予習・復習が必ず求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日3・4時限。					

授 業 科 目 名	財務報告論				
担 当 教 員	内藤 周子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1・2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義における授業としての具体的到達目標は、財務報告の基本的な概念と役割を理解することである					
【授業の概要】 本講義では、ディスクロージャー制度で開示される会計情報を研究・分析するための基礎的な知識と方法について解説する。したがって、会計処理と実務慣行については直接的には扱わない。					
【授業内容予定】 第1回 インTRODクシヨン 第2~3回 利潤、所得と会計利益 第4~5回 資本維持 第6~7回 実現概念 第8~9回 対応原則 第10~11回 費用の期間配分 第12~13回 会計規制 第14~15回 まとめ テキストにしたがって以上の内容を扱う予定であるが、受講生の関心などを考慮する。					
【教材・テキスト】 大日方隆『アドバンスト財務会計（第2版）』中央経済社、2013年。					
【参考文献】 随時、案内する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表と議論の内容(50%)、課題の評価（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による報告ののちに、質疑応答を行う形式である。適宜、課題を与える。					
【留意点・予備知識等】 学部における会計学Ⅰ及びⅡ程度の知識を有していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 木曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	原価計算論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	小杉雅俊				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 品質原価計算の学習を通じて、戦略的コスト・マネジメントを理解する。					
【授業の概要】 品質原価計算（Quality Costing）の理論的なフレームワークの変遷を中心に、史的展開を検討する。理論的な把握だけでなく、国内外の事例研究を通じて、実務適用面の考察も行う。					
【授業内容予定】 第1回授業 ガイダンス・イントロダクション 第2回授業 品質コストとは 第3回授業 PAFアプローチ 第4回授業 品質原価計算の史的展開(1)生成段階から1980年代まで 第5回授業 品質原価計算の史的展開(2)1990年代以降 第6回授業 国内におけるPAFアプローチの適用事例 第7回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例 第8回授業 ヨーロッパにおけるPAFアプローチの適用事例 第9回授業 品質原価計算とABC/ABM 第10回授業 ABC/ABMを取り入れた品質原価計算の適用事例 第11回授業 プロセスコストモデル 第12回授業 ヨーロッパにおけるプロセスコストモデルの適用事例 第13回授業 アジアにおけるプロセスコストモデルの適用事例 第14回授業 品質原価計算と戦略的コスト・マネジメント 第15回授業 総括 基本的にはテキストに従い、テキストの順に授業を進めていく。しかし、指定テキストだけにとどまらず、関連する和洋文献を読み込んでいく。ゼミナール形式の授業を通じ、議論により授業を展開する。授業内容の詳細については受講生との相談を考慮する。					
【教材・テキスト】 開講時に受講生と相談の上決定する。英語文献が含まれる。					
【参考文献】 授業において適宜指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（50％）、課題の評価（50％）。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミナール形式。					
【留意点・予備知識等】 会計関連の学部関連講義を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	職業社会論（26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	小磯 重隆				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
雇用社会を学ぶことを通じて、職業と社会に関して研究します。青森県の地域課題について考察する力を得ることを目標とします。					
【授業の概要】					
若年者雇用及び高齢者雇用、非正規雇用や労働者派遣、ワークライフバランスの政策を学び、職業と社会に関して研究します。青森県の地域課題について考察します。					
【授業内容予定】					
詳細は受講者の関心に応じて決めます。					
第1回：ガイダンス 第2回：人口減少と地域の雇用 第3回：地方創生の課題（COC事業） 第4回：若者雇用・女性雇用について 第5回：高年齢者雇用・外国人雇用 第6回：新しい雇用政策について 第7回：①「新しい労働者派遣法」について 第8回：②「残業代0法案」について 第9回：③「女性の活躍新法（女性の働き方）」について 第10回：④「解雇の金銭解決」について 第11回：⑤「雇用期間の定め（無期転換）」について 第12回：ブラック企業、ブラックバイトとは何か 第13回～第15回：地域雇用の課題研究 ・地方創生のため地域（例えば青森県）に必要な職業支援、雇用政策は何か研究する ・新しいビジネスプランを創造、研究する					
【教材・テキスト】					
特に指定しません。					
【参考文献】					
必要に応じて参考文献を提示します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への参加状況、複数回のレポートにより評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義及び演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】					
労働法の基礎知識を学びながら講義を進めます					
【オフィスアワー】					
火曜日12：40～14：10 総合教育棟1階キャリアセンター（又は随時キャリアセンターにて）					

授 業 科 目 名	農村社会史（平成27年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	白石 壮一郎				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 近現代史・自然・政策などについての基礎的知識をふまえた青森県内各地の農村社会の現状理解。					
【授業の概要】 日本の農村社会学の古典、農政史、農業史などを中心に学び、それを土台にした現在の地域農村社会に対する理解を深めていく。必要に応じて、進行中の調査報告と討議も交える。					
【授業内容予定】 1. 農村社会史とは 2. 家と共同体（1） 3. 家と共同体（2） 4. 土地制度（1） 5. 土地制度（2） 6. 土地制度（3） 7. 九学会連合調査（1） 8. 九学会連合調査（2） 9. 農政史（1） 10. 農政史（2） 11. 生業調査（1） 12. 生業調査（2） 13. 集落調査（1） 14. 集落調査（2） 15. まとめ					
【教材・テキスト】 テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。					
【参考文献】 東北農政局webサイト http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/seibi/rekisi/index.html					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式6割、演習形式4割					
【留意点・予備知識等】 基本は各自の研究。講義はそのため材料を仕入れ、議論をする場だと考えてください。					

授 業 科 目 名	地域活動論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 地域活動とそれに関わるさまざまなアクターを総合的にとらえる視野を習得し、それを自らの研究に生かす。					
【授業の概要】 地域の課題はいかなる要因によって発生しているのか、課題解決にむけてどのような仕組みや取り組みが試みられているのか、どうすれば地域内外の人びとを巻き込みながら活動を展開していけるのか、先進事例に学び、青森県の課題にアプローチする地域活動を考えます。					
【授業内容予定】 （1）概論 第1回 イン트로ダクション 第2回～第7回 地域活動の事例紹介と事例をふまえた検討 第8回～第14回 ワークショップ （受講生の関心に応じたテーマで、青森県の課題にアプローチする活動を企画、実施する） 第15回 振り返りと総合討論					
【教材・テキスト】 授業のなかで文献を適宜配布・紹介します。					
【参考文献】 授業のなかで適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容などを総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式でおこないます。映像資料を用いることもあります。					
【留意点・予備知識等】 受講者の基礎知識や関心に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 第1回の授業時にお知らせします。					

授 業 科 目 名	合意形成論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	平井太郎				
学 期	後	曜日・時限	火 9・10	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 合意形成の実践に不可欠な方法論と理論を獲得する。					
【授業の概要】 現代社会において不可欠な合意形成の方法と課題について実践的に学ぶ。具体的には、ワークショップの現場のファシリテーションを経験し、討議倫理や承認理論等の対照を行う。					
【授業内容予定】 第1回 研究内容の相互紹介 第2回 『かかわり方の学び方』(1)ファシリテーション 第3回 『かかわり方の学び方』(2)ワークショップ 第4回 『かかわり方の学び方』(3)人の見え方 第5回 ファシリテーションの実践(1) 第6回 ファシリテーションの検証(1) 第7回 『承認をめぐる闘争』(1)歴史的な想起 第8回 『承認をめぐる闘争』(2)社会的承認関係の構造 第9回 『承認をめぐる闘争』(3)道徳と社会的発展 第10回 ファシリテーションの実践(2) 第11回 ファシリテーションの検証(2) 第12回 ファシリテーションの実践(3) 第13回 ファシリテーションの検証(3) 第14回 総括					
【教材・テキスト】 西村佳哲『かかわり方の学び方』					
【参考文献】 J・ハバーマス『討議倫理』、A・ホネット『承認をめぐる闘争』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加					
【授業形式・形態および授業方法】 討議形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 of-hirai@nifty.comに随時確認すること。					

授 業 科 目 名	開発政策論				
担 当 教 員	北島 誓子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 公民連携(PPP)方式が登場してきた政治的・経済的・社会的背景を理解するとともに、PPP実行を検証する理論的視角を培うこと。					
【授業の概要】 公共と民間との連携方式（PPP、パートナーシップ方式）は、さまざまな分野における政策手法として先進諸国・途上国双方において定着しつつある。当授業は、欧米諸国においてPPP方式が登場してきた背景と、その方式の都市・地域政策における実践上の諸問題を考えていく。					
【授業内容予定】 はじめに 民間活用・参加型手法とは 2-3. サードセクター方式（欧米と日本） 4. PFI方式 5. PPPあるいはネットワーク方式 民間活用・参加型手法登場の背景 6. 民営化とPFI 7. 新自由主義路線とPPP 8. サードセクターの社会経済 PPPの実践 9. PPP戦略 10. PPPと都市統治 11. 経済成長と利益配分 12. 産業学術パートナーシップ（産学連携） 13. PPP と国家 14. PPPの政治経済 まとめ：ディスカッション					
【教材・テキスト】 Simon Bridge, Brendan Murtagh, Ken O'Neill. <i>Understanding the Social Economy and the Third Sector</i> ; 2nd Edition. Palgrave Macmillan, 2013. Defourny, Jaques et. al. eds. <i>The Emergence of Social Enterprise</i> . Routledge, 2003. Jacobs, Brian. <i>Strategy and Partnership in Cities and Regions</i> . London: Macmillan, 2000. その他著書、論文。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レジメ、プレゼンテーション、討論参加により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習方式で行います。学生が1論文または著書1章分のレジメを作成し、それにもとづく発表と討論ですすめていきます。授業のペースは毎回、論文1-2論文、あるいは著書1-2章となります。					
【留意点・予備知識等】 テキストは英文が中心となります。 受講希望者は、初回講義の前日までに担当教員とコンタクトを取って下さい（資料準備のため）。					
【オフィスアワー】 火曜日：17:40～18:30p.m.					

授 業 科 目 名	地方財政論				
担 当 教 員	金目 哲郎				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 政府間財政関係や地方財政における研究課題の所在を受講生が独力で発見し、資料やデータに基づく検証を自ら行うことができます。これにより、各人が設定する研究課題を論文として構築する素地が身に付けられます。					
【授業の概要】 政府間財政関係、地方財政、財政と地域経済・地域住民との関係について、歴史的・制度論的アプローチにより検討します。テキストを手がかりに、現代地方財政にかかる諸問題の現状分析と将来展望をしていきます。 下記の授業内容は、日本の地方財政を総論的・包括的に検討するテキストを選定したときの予定です。または、近年の地方自治体による財政健全化の具体的事例を扱う文献を選定してもよいです。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスおよび講義、現代の地方自治と地方財政 第2回 受講生による報告と討論、地方財政の歴史的展開 第3回 受講生による報告と討論、地方自治体の役割と経費 第4回 受講生による報告と討論、地域経済と地方財政 第5回 受講生による報告と討論、まちづくりと地方財政 第6回 受講生による報告と討論、環境・エネルギーと地方財政 第7回 受講生による報告と討論、災害と地方財政 第8回 受講生による報告と討論、少子高齢社会と地方財政 第9回 受講生による報告と討論、地方自治の財政基盤 第10回 受講生による報告と討論、地方税と課税自主権 第11回 受講生による報告と討論、地方交付税と国庫支出金 第12回 受講生による報告と討論、地方債と地域金融 第13回 受講生による報告と討論、地方公営企業と第三セクター 第14回 受講生による報告と討論、予算制度と住民自治 第15回 受講生による報告と討論、総括（政府間財政関係や地方財政をめぐる課題）					
【教材・テキスト】 重森暁・植田和弘編(2013)『Basic地方財政論』有斐閣ブックス					
【参考文献】 井手英策・古市将人・宮崎雅人(2016)『分断社会を終わらせる』筑摩書房 保母武彦(2013)『日本の農山村をどう再生するか』岩波書店 金澤史男(2010)『福祉国家と政府間関係』日本経済評論社 地方自治体が策定する『財政健全化計画書』『財政健全化計画完了報告書』等					
【成績評価の方法および採点基準】 レジュメの報告、討論の内容、受講状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読方式。受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。					
【留意点・予備知識等】 テキストについて、受講生の関心に基づき、他のテキストを購読することも可能です。たとえば、地方財政と農山村政策の史的展開に関心があれば上記文献の保母(2013)を購読してもよいですし、または、最近の財政健全化や地域経済の事例研究に関する資料を扱ってもよいです。相談のうえテキスト等を選定します。					
【オフィスアワー】 水曜日の9:30-11:30					

授 業 科 目 名	社会保障法				
担 当 教 員	成田史子				
学 期	前	曜日・時限	火曜 5－6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の社会保障法の各テーマについて、その論点、学説、判例を整理し、外国法との比較を行うことで、日本の現在の規制を客観的に捉え、今後の立法政策について検討を行うことを目標とします。					
【授業の概要】 各テーマについて、日本法の検討を中心に行い、必要に応じて外国法、とりわけドイツ法との比較検討を行う予定です。					
【授業内容予定】 日本とドイツの社会保障の制度について、関連文献を購読することで理解を深めます。 第1回：ガイダンス 第2回：日本の社会保障制度の概要① 第3回：日本の社会保障制度の概要② 第4回：雇用保険制度① 第5回：雇用保険制度② 第6回：労災保険制度① 第7回：労災保険制度② 第8回：生活保護① 第9回：生活保護② 第10回：年金① 第11回：年金② 第12回：障害者福祉① 第13回：障害者福祉② 第13回：日独比較検討① 第14回：日独比較検討② 第15回：予備日					
【教材・テキスト】 開講時に指示。					
【参考文献】 開講時に指示。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業態度および学期末のレポートにより評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜1-2限					

授 業 科 目 名	人権論（26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	河合 正雄				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1. ヨーロッパ人権条約の概要を理解できる。 2. 英語の判例に慣れ、基本的な読み方を習得できる。 3. 国際人権法学と日本の憲法学の発想の異同を理解できる。					
【授業の概要】 ヨーロッパ人権裁判所の仕組みを学んだ上で、主要判例（英語）を毎回一つずつとりあげます。参考文献を参照いただいて構いませんが、法律英語を読解する能力が求められます。					
【授業内容予定】 第1回：日本国憲法の解釈にあたって国際人権法を参照する意義（河合）、今後の方針決め 第2回：ECHR が保障する権利、ECtHR の解釈の特徴（概説Ⅲ・Ⅳ） 第3回：ECHR 実施システムの歩みと展望、ECtHR の組織と手続（概説Ⅰ・Ⅱ） 第4回：ECHR と英仏独（概説Ⅴ） 第5回：発展的解釈（刑罰としての殴打）：Tyrer v. UK（判例解説 16） 第6回：自律的解釈（「懲罰」と「刑事上の罪」）：Engel v. the Netherlands（判例解説 17） 第7回：評価の余地（わいせつ物規制）：Handyside v. UK（判例解説 18） 第8回：テロ容疑者の拘禁延長と derogation：Brannigan and McBride v. UK（判例解説 21） 第9回：権利の濫用と条約 5・6 条：Lawless v. Ireland〔merits〕（判例解説 22） 第10回：拷問の概念と調査義務：Aksoy v. Turkey（判例解説 29） 第11回：被拘禁者の処遇と条約 3 条：Kalashnikov v. Russia（判例解説 30） 第12回：起訴前の接見制限：John Murray v. UK（判例解説 33） 第13回：犯人視報道と警察当局の責任：Allenet de Ribemont v. France（判例解説 37） 第14回：遡及処罰の禁止：Streletz, Kessler and Krenz v. Germany（判例解説 38） 第15回：一事不再理：Gradinger v. Austria（判例解説 39） 第16回：全体のまとめ					
【教材・テキスト】 ヨーロッパ人権裁判所の主要判例（英語）					
【参考文献】 戸波江二ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』（信山社、2008年）6,800円＋税					
【成績評価の方法および採点基準】 平常時の報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者に30分程度のご報告（事実の概要、判旨の正確な訳出、若干の検討）をいただいた後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 英語の判例を日本語で議論します。憲法学、国際人権法学に興味関心がある方を歓迎します。					
【オフィスアワー】 水曜日5-6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば対応します。					

授 業 科 目 名	地方自治論				
担 当 教 員	児山 正史				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・9－10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 地方自治に関する基礎的な知識と基本的な見方を身につけた上で、地方自治の諸問題について論じられるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 地方自治に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、地方自治に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。必要に応じて青森県内の事例も取り上げます。					
【授業内容予定】 詳細については受講者の関心に応じて決定します。 参考までに、例えば、下記のような内容で行います。 （村松岐夫編『テキストブック 地方自治 第2版』を主な教材とする場合。） 第1回 イン트로ダクション 第2回 現代国家における地方自治 第3回 日本の地方自治の発展 第4回 各国の地方自治 第5回 自治体の統治システム 第6回 地方税財政 第7回 地方自治体の組織と地方公務員・人事行政 第8回 ガバナンス時代の地方自治 第9回 合併と広域連携 第10回 教育 第11回 福祉政策と費用負担 第12回 近現代の地方自治思想 第13回 戦後の地方自治論 第14回 1980年代以降の地方自治論 第15回 地方分権論					
【教材・テキスト】 受講者の関心に応じて決定します。					
【参考文献】 授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加を中心に、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日 7・8 時限					

授 業 科 目 名	北東北雇用政策論				
担 当 教 員	李 永俊				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、さまざまな公表データを用いて、北東北の労働市場の問題点を明らかにし、その解決策を検討することを目指す。					
【授業の概要】 本講義では労働市場の現状を多角的に把握するために、地域労働市場に関する諸文献を輪読する。その上で、各受講者がデータに基づく北東北労働市場の現状把握と政策提言を行う。					
【授業内容予定】 本講義の具体的な項目及び内容は以下の通りである。 1回 イントロダクション 2～3回 労働市場の見方について 4～5回 失業の経済学 6～7回 北東北労働市場の失業構造 8～9回 北東北の若年者労働市場 10～11回 「東京」に出る若者たち 12～14回 ワークショップ ー北東北労働市場の現状と課題ー 15～16回 研究成果報告会					
【教材・テキスト】 特に指定しない。					
【参考文献】 必要に応じて参考文献を提示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席状況、取り組み、成果報告の内容で評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】 特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	刑事司法論				
担 当 教 員	平野 潔				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・刑事司法を巡る昨今の様々な問題について、法的な視点から分析することができる。 ・上記の分析を踏まえて、一定の解決策を提示することができる。					
【授業の概要】 刑事司法制度に関する最近の問題を探り出し、その問題点について検討を加えていきます。					
【授業内容予定】 詳細は第1回の授業時に説明しますが、以下のような内容で進めます。 （なお、内容は一部変更になる場合があります） 1. ガイダンス 2. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(1)―捜査を中心に― 3. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(2)―公判を中心に― 4. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(3)―証拠を中心に― 5. 裁判員制度をめぐる諸問題(1)―憲法との関係性を中心に― 6. 裁判員制度をめぐる諸問題(2)―市民の司法参加を中心に― 7. 裁判員制度をめぐる諸問題(3)―裁判員制度見直し議論を中心に― 8. 量刑に関する諸問題(1)―量刑に関する基礎理論を中心に― 9. 量刑に関する諸問題(2)―裁判員裁判と量刑を中心に― 10. 被害者保護をめぐる諸問題(1)―刑事手続きにおける被害者― 11. 被害者保護をめぐる諸問題(2)―被害者保護施策を中心に― 12. 少年事件に関する諸問題 13. 受刑者処遇をめぐる諸問題 14. 更生保護をめぐる諸問題(1)―就労支援対策を中心に― 15. 更生保護をめぐる諸問題(2)―高齢者・障害者対策を中心に―					
【教材・テキスト】 とく指定しません。					
【参考文献】 開講時に指定します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業における報告および発言（80％）と授業の最後に課されるレポート（20％）によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 第1回の講義時に担当者を決め、その担当者の報告に基づいて、参加者全員で議論します。					
【留意点・予備知識等】 刑事裁判に関する基本的な知識は必要です。可能であれば事前に刑事裁判の裁判傍聴をしておくことをお勧めします。					
【オフィスアワー】 木曜日 3－4時限（それ以外の時間でも事前にアポイントをとってもらえれば対応します）					

授 業 科 目 名	マクロ経済分析論				
担 当 教 員	山本康裕				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 基礎的なマクロ経済学を理解することで、短期的な国民所得の変動を分析できる素養を身に付ける。					
【授業の概要】 マクロ経済学の専門書を輪読する。					
【授業内容予定】 第1回 マクロ経済学とは何か？ 第2回 マクロ経済変数の概念とデータ 第3回 国民所得勘定…財サービスの需要と供給を均衡させるものは何か 第4回 貨幣とは何か 第5回 インフレーション・デフレーション 第6回 労働市場及び失業 第7回 景気変動入門 第8回 ケインズ経済学入門：45度線分析 第9回 IS－LM分析 第10回 IS－LM分析の応用 第11回 IS－LM分析の開放経済への適用 第12回 開放経済(長期) I：国際収支の定義と為替相場 第13回 開放経済(長期) II：古典派モデルの開放経済への適用 第14回 インフレーションと失業の相関関係 第15回 総括…14回までの分析を簡潔な理論モデルとして記述する などの理論分析を解説してゆく					
【教材・テキスト】 マンキュー(2011)『マンキュー マクロ経済学I 入門篇』東洋経済新報社					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における報告が誠実に行われているかで判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 教科書の輪読					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのマクロ経済学及びミクロ経済学の基礎知識を有する事が望ましい。					
【オフィスアワー】 水曜日12：40-14：10					

授 業 科 目 名	産業組織論				
担 当 教 員	小谷田文彦				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ミクロ経済学の基礎理論である企業の利潤最大化行動を理解したうえで、企業の境界、企業の戦略的行動、企業組織に関する基礎理論を理解すること。					
【授業の概要】 教科書として用いるテキストの構成に従い、企業理論の基礎、企業の戦略、企業の組織の3つに論点を分け、それぞれに関する経済理論を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 企業の基礎理論 第2回 生産・費用・利潤1 第3回 生産・費用・利潤2 第4回 財務・投資・成長 第5回 新しい企業理論 第6回 市場競争と戦略 第7回 競争優位のための戦略 第8回 イノベーション戦略 第9回 企業の本質 第10回 垂直統合 第11回 多角化・多国籍化 第12回 会社の形態 第13回 合併・買収・提携 第14回 労働システムとインセンティブ 第15回 全体のまとめ					
【教材・テキスト】 小田切宏之『企業経済学（第2版）』東洋経済新報社（2010年）					
【参考文献】 泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣（2008年）					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 木曜日 9・10時限					

授 業 科 目 名	経済思想論				
担 当 教 員	福田 進治				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・7－8	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経済学史領域（経済理論・経済思想・経済政策の歴史）の諸問題を検討し、経済学史研究の基礎を身に付けることを目的とする。					
【授業の概要】 アダム・スミス以降の主要な経済学者の思想・理論・政策を学習し、彼らが経済理論・経済思想・経済政策の歴史に与えた影響を検討する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 アダム・スミス 第3回 デヴィッド・リカード 第4回 トマス・ロバート・マルサス 第5回 ジョン・ステュアート・ミル 第6回 カール・マルクス 第7回 ウィリアム・スタンレイ・ジェボンズ 第8回 カール・メンガー 第9回 レオン・ワルラス 第10回 アルフレッド・マーシャル 第11回 アーサー・ピグー 第12回 ジョン・メイナード・ケインズ 第13回 ヨセフ・アロイス・シュンペーター 第14回 フリードリッヒ・ハイエク 第15回 補足説明・質疑応答					
【教材・テキスト】 ガイダンスの際、受講者と相談し、受講者の学問的関心に基づいて決定する。					
【参考文献】 必要に応じて授業中に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常の出席態度・課題報告（50点）および期末のレポート課題（50点）による。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とする。					
【留意点・予備知識等】 学部専門レベルの経済学史の内容を理解していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 月曜日～金曜日 12時～13時（人文学部棟413号室）					

授 業 科 目 名	応用経営統計論				
担 当 教 員	栗原 由紀子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 標準的な大学院レベルの統計解析に関する知識の習得とともに、データ分析に伴う問題点や限界を理解した上で、それらを実際のデータ分析に応用する力を養います。					
【授業の概要】 様々な分野で応用されるマイクロデータの統計的解析手法を学習します。主に、多変量解析のための統計モデルと推定方法に焦点をあて、議論を重ねていく予定です。					
【授業内容予定】 受講者の関心や学習レベルをみながら講義内容を構成しますが、標準型を掲げておきます。 第1回 統計ソフトRの基本操作(1) 第2回 統計ソフトRの基本操作(2) 第3回 統計学の基礎(1) 第4回 統計学の基礎(2) 第5回 単回帰分析 第6回 重回帰分析(1) 第7回 重回帰分析(2) 第8回 重回帰分析(3) 第9回 ロジスティック回帰分析(1) 第10回 ロジスティック回帰分析(2) 第11回 順序ロジスティック回帰分析 第12回 多項ロジスティック回帰分析 第13回 ポアソン回帰分析(1) 第14回 ポアソン回帰分析(2) 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 藤井良宣 (2012)『カテゴリーカルデータ解析』共立出版					
【参考文献】 講義中に、適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常評価(授業への参加)30% 小レポート30% 期末レポート40%					
【授業形式・形態および授業方法】 主に講義形式で進めますが、適宜、パソコンを用いた演習を行います。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	地域金融論				
担 当 教 員	飯島 裕胤				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 現代の金融においては、金融取引とともに金融取引の「制度設計」が重要になっている。このことは地域の金融であっても同様である。事業に資金を融資するにしても、その事業が高度に機能する制度を設計し提案してゆくことの重要性が、今後ますます高まるであろう。この講義では、金融に焦点をあてながら、「制度設計」について基礎から理解を深めてゆく。					
【授業の概要】 S. ボウルズ『制度と進化のミクロ経済学』NTT出版をテキストに、制度設計の基礎を学ぶ。その理解をもとに、具体的な金融制度設計を考えてゆく。					
【授業内容予定】 1. ガイダンス 2. 分権的調整 3. 契約、規範、パワー 4. 信用市場と信用制約 5. 制度と選考の共進化 など。 ガイダンスを除き、1テーマ当たり3回を予定している。					
【教材・テキスト】 S. ボウルズ『制度と進化のミクロ経済学』NTT出版					
【参考文献】 適宜紹介する					
【成績評価の方法および採点基準】 講義での議論 60%、最終レポート 40%					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と院生間の議論を行う					
【留意点・予備知識等】 ミクロ経済学の基本的理解があることが望ましい					
【オフィスアワー】 月曜日、13:00-14:00					

授 業 科 目 名	地域政策評価論				
担 当 教 員	大橋 忠宏				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】都市や地域，交通の問題と解決に向けた政策とその効果に関して理解すること．					
【授業の概要】都市や地域，交通に関する空間固有の問題に関する基本的な考え方を修得し，青森県を中心として，弘前市の土地利用計画や津軽諸都市の公共交通計画，東北・北海道新幹線開業の影響などの具体的な事例を元に各種地域政策の考え方や同評価方法について議論する．					
【授業内容予定】以下の内容を予定しています． 第1回（ガイダンス）：都市や地域とは？ 第2回：都市の形成・発展 第3回：立地論 第4回：都市モデル1（単一中心都市） 第5回：都市モデル2（都市の成長とサブセンター形成） 第6回：土地利用の外部性と都市計画，弘前の土地利用 第7回：工業都市と都市規模分布 第8回：企業間コミュニケーションと都市規模分布 第9回：交通利便性と地域の発展可能性 第10回：地域計量モデルの系譜，新幹線整備と地域の盛衰 第11回：交通サービスの特性と日本の輸送構造の変化 第12回：交通需要分析のツールと需要予測手法 第13回：交通サービスの費用特性 第14回：交通プロジェクトの評価 第15回：弘前・五所川原・平川などの公共交通の現状と計画					
【教材・テキスト】佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣．山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣．の上記項目の関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など．					
【参考文献】黒田達明・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学(新版)』，有斐閣．大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』．佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣．など．適宜紹介する．					
【成績評価の方法および採点基準】					
成績の評価は，報告内容及び質疑応答の内容を基に行う．					
【授業形式・形態および授業方法】					
主に輪読形式（資料作成・報告・議論）とする．					
【留意点・予備知識等】					
学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の知識が必要である．					
【オフィスアワー】					
木曜日・午前10時30分～11時30分・人文社会科学部222研究室					

授 業 科 目 名	都市・地域情報分析論				
担 当 教 員	増山 篤				
学 期	前期	曜日・時限	火曜1・2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法を身につける。より具体的には、フロー（流動）に関するデータを扱う手法に習熟する。					
【授業の概要】 都市・地域に関するデータにはさまざまなものがある。それらデータから都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 空間的相互作用の概念 第3回 トリップ発生量および集中量に関する制約の有無に応じた空間的相互作用モデルの4類型 第4回 エントロピー最大化による負の指数関数型モデルの導出 第5回 線型対数化による無制約モデルの推定 第6回 演習 1 第7回 Nakanishi and Cooperの方法による発生制約モデルの推定 第8回 演習2 第9回 無制約モデルの最尤推定 第10回 演習3 第11回 発生制約モデルの最尤推定 第12回 演習4 第13回 空間的相互作用モデル仮定下での社会的便益指標 第14回 道路網と空間的相互作用モデル1 トリップ集中量の推定 第15回 道路網と空間的相互作用モデル2 社会的便益の計算					
【教材・テキスト】					
【参考文献】 授業内で、必要に応じて紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 演習課題の出来と平常点によって評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習を織り交ぜた講義形式で行う。					
【留意点・予備知識等】 学部レベルの微積分・線型代数・統計学の知識が必要である。地理情報科学に関する基礎知識が必要である。ノートパソコンを持参することが望ましい。					
【オフィスアワー】 水5・6時限、人文408研究室					

授 業 科 目 名	北東北商業政策論				
担 当 教 員	保田宗良				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日3-4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 流通政策、商業政策の関係を明確にし、歴史的考察をふまえて、現代日本の商業政策の研究方法を修得します。					
【授業の概要】 商業政策の展開を多角的に考察します。北東北地域の商業政策の実態把握、検討課題、買い物弱者を意図したまちづくりまで研究の対象にします。					
【授業内容予定】 ① 流通政策研究の総論 ② 商業政策研究の総論 ③ 商業政策の国際比較 ④ 地域小売商業政策の展開 ⑤ 高度成長期の商業政策 ⑥ 大店法運用強化期の商業政策 ⑦ 運用緩和期の商業政策 ⑧ まちづくり三法時代の商業政策 ⑨ 法規制の検証 ⑩ 青森市の事例研究 ⑪ 弘前市の事例研究 ⑫ 津軽地域のまちづくりの方向性 ⑬ 北東北地域の商業政策とまちづくり ⑭ 青森地域の商業政策とまちづくり ⑮ 青森地域の買い物弱者への対応					
【教材・テキスト】 流通、商業政策の論文をコピーして配布します。					
【参考文献】 開講時に指示をします。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点＋レポートで評価します。毎回の受講態度を重要視します。					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式で行います。現場の視察も行います。					
【留意点・予備知識等】 日経MJをよく読んで、多くの事例を学んでください。					
【オフィスアワー】 金曜日 昼休み					

授 業 科 目 名	起業論				
担 当 教 員	高島 克史				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 環境分析や資金調達の方法に加えて起業家の行為やそこに隠された意図を読み解きながら、ベンチャー企業の成長プロセスや事業計画書の分析できるようになることです。					
【授業の概要】 近年実践的にも学術的にも注目を集めているベンチャー企業の経営管理について理論的・実践的考察を行います。					
【授業内容予定】 テキストに従い、授業を進めていきます。 第1回 オリエンテーション 第2回 起業プロセス 第3回 新規事業のアイデア 第4回 起業機会の認識 第5回 起業機会の評価 第6回 起業家精神の理論 第7回 起業家的マネージャー 第8回 ベンチャー経営チーム 第9回 ファミリーベンチャー 第10回 必要資源の調達 第11回 ビジネスプランの策定 第12回 ベンチャー企業の資金管理 第13回 急成長の管理 第14回 収穫と育成 第15回 起業戦略の策定					
【教材・テキスト】 ジェフリー・ティモンズ著 千本倖生・金井信次訳(2001)『ベンチャー創造の理論と戦略』ダイヤモンド社。 忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸吾・山田仁一郎(2013)『アントレプレナーシップ入門』有斐閣。					
【参考文献】 講義中に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回行う報告内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 事前に割り当てた箇所をレジюмеにまとめ、報告を行ってもらいます。					
【留意点・予備知識等】 ・「経営学」に関する基礎的な知識が必要です。					

授 業 科 目 名	地域イノベーション論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	熊田 憲				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、地域イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、地域イノベーション・システムのデザイン力の醸成を目指します。					
【授業の概要】 地域という場において創出されるイノベーションの特性を理解し、地域全体としてダイナミズムを生み出すための地域イノベーション・システムのあり方について理論的・実践的に考察します。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：地域産業活性化に関連する基礎的諸概念 第3回：地域産業活性化策の体系と歴史的展開 第4回：代表的な活力ある地域産業モデル 第5回：地域産業活性化策立案と情報収集 第6回：地域産業活性化策立案の際に分析すべき諸要素 第7回：地域経営資源の整備策の立案 第8回：地域インフラ整備策の立案 第9回：地域イノベーション創出機構の構築策の立案 第10回：地域産業活性化策の新展開の可能性 第11回：地域産業活性化策の今後の諸課題 第12回：イノベーションと地域に関する諸理論 第13回：地域イノベーションに関する政策動向と先行事例 第14回：科学技術型イノベーションと地域に関する考察 第15回：地域イノベーション論まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は特に指定しません。					
【参考文献】 ・野長瀬裕二(2011), 地域産業の活性化戦略～イノベーター集積の経済性を求めて～, 学文社 ・野澤一博(2012), イノベーションの地域経済論, ナカニシヤ出版 ・その他, 講義の中で適宜, 紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告と発言の内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 経営学に関する基礎的な知識が必要です。					
【オフィスアワー】 ・火曜日：14:20～15:20 ・事前にメールにてコンタクトを取ってください。					

授 業 科 目 名	経済法制論				
担 当 教 員	長谷河 亜希子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 経済法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。					
【授業の概要】 経済法分野の問題について学びます。					
【授業内容予定】 経済法分野の法律について（対象は、独占禁止法、規制産業に係る法、知的財産権法、消費者法、その他商事関連の法と幅広く設定する）、論文や判例等を読みつつ理解を深めていきたいと思います。 。具体的内容は受講生の皆さんと相談のうえ、決定します。現時点では以下が候補です。 舟田正之編『電力改革と独占禁止法・競争政策』有斐閣（2014） 第1部 日本の電力改革 第2部 米国の電力改革 第3部 EUの電力改革 第4部 英国の電力改革 第5部 ドイツの電力改革 第6部 国際経済法上の問題 土田和博（編著）『独占禁止法の国際的執行 グローバル化時代の域外適用の在り方』 第1章 独占禁止法の国際的執行 —— 規律管轄権・国際礼譲・構成要件…土田和博 第2章 域外適用から国際的執行へ—効果理論への反発の克服と執行を巡る今日的課題…越知保見 第3章 独占禁止法の国際的執行の諸問題…越知保見 第4章 国際カルテルと日本独禁法の執行…多田敏明 第5章 外国会社同士の企業結合等への公正取引委員会の対応…稲熊克紀 第6章 外国事業者に対する独占禁止法の適用 ——6条、19条、3条前段を中心に…北 博行 第7章 アメリカ反トラスト法における最近の域外適用の動向…岡田外司博 第8章 EU競争法の域外適用について…若林亜理砂 第9章 イギリス競争法の域外適用——対抗立法から国際的執行へ…渡辺昭成 第10章 EUレベルにおける競争法の私的執行——イギリスのProvimi事件と Cooper Tire事件を中心に…小原喜雄 第11章 転換期のウズベキスタン競争法——現状と課題…林 秀弥、ウミリデノブ・アリシエル・イソクジョノヴィーチ 第12章 国際競争ネットワーク（ICN）の活動、成果と今後の課題…菅久修一					
【教材・テキスト】その都度指示します。					
【参考文献】その都度指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】授業への出席、報告、発言等による。					
【授業形式・形態および授業方法】ゼミ形式					
【留意点・予備知識等】毎日、新聞を読んでください。					
【オフィスアワー】 火曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	民事司法論				
担 当 教 員	吉村 顕真				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 親族法に関し、将来においてより深い研究をしていくための基礎的研究能力を高めることを目標とする。					
【授業の概要】 この授業では、親族法分野に関する基礎的文献及び関連判例を読んだうえで、それに関して議論する。具体的な内容や順番など、受講生との話し合いによって決める。					
【授業内容予定】 大雑把な内容であるが、以下のテーマの順に従って報告を進めていく。 第 01 回 オリエンテーション 第 02～03 回 結納、婚姻 第 04～05 回 離婚、事実婚 第 06～09 回 実親子と養親子 第 10～11 回 成年後見・扶養 第 12～13 回 家事事件手続法、人事訴訟法 第 14～15 回 判例報告					
【教材・テキスト】 授業において指示する。					
【参考文献】 授業において指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告：60%、 提出物：40%					
【授業形式・形態および授業方法】 毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で議論を深めていく予定である。					
【留意点・予備知識等】 初回の授業時に、具体的な報告の内容や順番を決めたいと思うので、それまでに受講希望者は何をしたいのか、ある程度、検討しておいてもらいたい。					
【オフィスアワー】 火曜12時から13時					

授 業 科 目 名	会計システム論				
担 当 教 員	小杉雅俊				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 製造業における会計システムの意義と課題について、考察することを目標とする。					
【授業の概要】 主に製造業を対象とする会計システムについて、実務適用する際に、どのような点が問題になるのかを検討する。今回はトヨタ自動車をケースとして、会計システムの現実的な機能を深く考察していく。					
【授業内容予定】 基本的にはテキストに従い、テキストの順に授業を進めていく。しかし、指定テキストだけにとどまらず、関連する和洋文献を読み込んでいく。ゼミナール形式の授業を通じ、議論により授業を展開する。 製造業を中心とした観点から会計システムを捉え、該当する技法・ツールの構造を理解するだけにとどまらず、その実務適用面に重きを置いて考察していく。会計システムの理論上で考えられていることが、実務適用の際にそのまま当てはまることもあれば、全く当てはまらないこともある。その際にどうすればよいのだろうか？本授業は、まさにこの点を議論していくものである。 以下に各授業回の内容を示す。授業内容の詳細については受講生との相談を考慮する。					
第1回授業 ガイダンス・イントロダクション 第2回授業 会計システム概説 第3回授業 教科書1章の「教訓」とは？ 第4回授業 原価計算のシステム 第5回授業 管理会計のシステム 第6回授業 会計システムと生産(1)知識整理 第7回授業 会計システムと生産(2)問題・議論 第8回授業 会計システムと設計(1)知識整理 第9回授業 会計システムと設計(2)問題・議論 第10回授業 会計システムと評価(1)知識整理 第11回授業 会計システムと評価(2)問題・議論 第11回授業 教科書6章の「細部」とは？ 第12回授業 教科書7章の主張について 第13回授業 会計システムの構築 第14回授業 会計システムの実務適用を考察する 第15回授業 総括					
【教材・テキスト】 Johnson, H. Thomas and Anders Bröms (2008) “Profit beyond Measure,” Free Press.					
【参考文献】 授業内にて適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（50％）、課題の評価（50％）。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミナール形式。					
【留意点・予備知識等】 本授業はあくまでも英語文献を用いた会計システム論の授業である。 会計関連の学部開講講義を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	キャリア形成論（26年度以降入学学生対象）				
担 当 教 員	小磯 重隆				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 労働政策体系を理解した上で、キャリア形成支援の実践的スキルを身に付けることを目標としています。					
【授業の概要】 キャリア形成支援の基本的知識を学び、職業能力開発及び労働政策体系を把握した上で社会的意義を学びます。青森県の人材育成支援のための実践的スキルを身に付けます。					
【授業内容予定】 詳細は受講者の関心に応じて決めます。 第1回：ガイダンス 第2回：キャリアと進路指導 第3回：キャリアカウンセリングを学ぶ 第4回：4つのキャリア論 第5回：①スーパー(D. E. Super)「職業適合性」 第6回：②ホルント(J. L. Holland)「職業興味検査」 第7回：③シャイン(E. H. Schein)「キャリア・アンカー」 第8回：④クルンボルツ(J. D. Krumboltz)「計画された偶発性理論」 第9回：職業能力開発と労働政策 第10回：・地域にどのような職業訓練が必要か 第11回：・ハローワーク／ジョブカフェ／サポステ 第12回～第13回：地域の人材育成を考える① ・(課題研究) 若者／女性／高齢者／外国人 第14回～第15回：地域の人材育成を考える② ・キャリアカウンセリング演習／実践					
【教材・テキスト】 特に指定しません。					
【参考文献】 必要に応じて参考文献を提示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加状況、複数回のレポートにより評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義及び演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 火曜日12：40～14：10 総合教育棟1階キャリアセンター（又は随時キャリアセンターにて）					

授 業 科 目 名	アジア経済論				
担 当 教 員	黄 孝春				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・ 9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本を先頭に、韓国やアセアン諸国、中国などの国と地域を中心とする東アジアは急速な経済発展を遂げ、経済の一体化が進んでいます。一方、これらの国と地域は経済の発展段階や文化（言語、宗教など）及び政治制度においてさまざまな違いを有し、多様性に富んでいます。この授業はこの地域における経済発展の実態を明らかにしながら、このような多様性がもたらすダイナミクスと摩擦の両面をより深く理解することを目指しています。					
【授業の概要】 この授業は主に東アジアと東南アジアという二つの地域の経済発展や主要国の経済発展の過程と特徴、相互間の経済交流と統合の実態および経済発展に伴う諸問題について考察する予定。					
【授業内容予定】 第1回 アジア経済の分析視点 第2回 東南アジア経済発展の歴史 第3回 工業化政策の新動向 第4回 東アジアの経済発展と所得格差 第5回 アジア経済危機から学ぶ 第6回 アジア金融危機 第7回 アジアの環境問題 第8回 日本の経済発展 第9回 東アジア新興地域の経済発展 第10回 移行経済の理論と中国の実践 第11回 移行経済の理論とベトナムの実践 第12回 地域統合の意義と課題 第13回 リージョナリズムの台頭とAFTAの新展開 第14回 日本と東アジアの関係 第15回 アジア経済の発展とその諸問題					
【教材・テキスト】 北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』ミネルヴァ書房					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加度合により評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式と講義形式の併用					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	産業立地論（28年度入学学生対象）				
担 当 教 員	桑波田浩之				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 国際貿易論や経済地理学の研究テーマについて理解を深め、計量実証分析の手法を用いて自らデータを用いて仮説を検証し、それを論理的に説明する技術を身につけることを目指す。					
【授業の概要】 国際貿易・経済地理学の実証研究の論文を輪読・討論し、同分野における近年の研究テーマや分析手法を学ぶ。扱う論文は、海外直接投資、オフショアリング、経済地理学など産業や企業の立地を研究テーマとするものとする。教科書は指定せず、論文ごとに報告者を割り当て、その報告をもとに参加者全員で論文の貢献や問題点の議論を行う。また、学期終了までに、関連したテーマで、統計分析を含んだ簡単な小論文を執筆してもらう。					
【授業内容予定】 第1回 講義概要 第2回 海外直接投資（1） 第3回 海外直接投資（2） 第4回 海外直接投資（3） 第5回 オフショアリング・アウトソーシング（1） 第6回 オフショアリング・アウトソーシング（2） 第7回 オフショアリング・アウトソーシング（3） 第8回 小論文プロポーザル報告 第9回 多国籍企業と前方・後方連関効果(1) 第10回 多国籍企業と前方・後方連関効果(2) 第11回 多国籍企業と前方・後方連関効果(3) 第12回 企業の生産性と立地(1) 第13回 企業の生産性と立地(2) 第14回 企業の生産性と立地(3) 第15回 小論文報告					
【教材・テキスト】 教科書は指定せず、1回目の講義で指定する論文を読んでいく。					
【参考文献】 『空間経済学』（2011） 佐藤泰裕・田淵隆俊・山本和博 有斐閣					
【成績評価の方法および採点基準】 担当する論文の報告50% 小論文50%					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式とする。					
【留意点・予備知識等】 中級のミクロ経済学、計量経済学の前提知識とする。論文を理解する上で、経済学の知識を要することに注意してほしい。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	産業発展論				
担 当 教 員	細矢 浩志				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経済活動としての産業の発展や構造変化にかんする基礎知識の習得と経済学的な思考・アプローチにかんする基礎的訓練，文章表現力の養成を目標とします。					
【授業の概要】 資本主義経済社会における産業発展をめぐる諸問題について，主要文献・資料の講読・討論をつうじて，理論と実証の両面から分析・検討します。					
【授業内容予定】 第1回：グローバル化と日本のものづくり 第2回：「ものづくり」とは何か 第3回：統合型ものづくり組織力 第4回：設計構造としてのアーキテクチャ 第5回：日本製造業の競争力の変遷 第6回：日本製造業の苦境と海外生産の展開 第7回：「ものづくり」の基盤と中小企業の技術 第8回：中小企業の海外生産とその特徴 第9回：オープンシステムとしての工場：オペレーションの安定と進化 第10回：グローバル生産体制における海外シニア工場 第11回：既存工場的能力再評価とグローバル生産体制 第12回：東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり 第13回：新興国市場戦略とものづくり 第14回：新時代の技術経営とものづくり 第15回：日本のものづくりの今後の展望と課題					
【教材・テキスト】 藤本隆宏・新宅純二郎『(新訂)グローバル化と日本のものづくり』NHK出版，2015年					
【参考文献】 柴田友厚『日本企業のすり合わせ能力』NTT出版，2012年					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式（レポート作成・報告，ディスカッション）					
【留意点・予備知識等】 標準的な経済史(世界経済史，西洋経済史)にかんする基礎知識を修得していることが前提となります。					
【オフィスアワー】 月曜日・午後4時～5時・人文社会科学部344室					

授 業 科 目 名	労働過程論				
担 当 教 員	鈴木和雄				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日 9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 接客サービス労働過程の特徴を知り、この労働が雇用労働としておこなわれるときに生じる問題を研究することが目標です。					
【授業の概要】 本年度は、経済のサービス化にともなって出現してきた接客サービス労働の問題を勉強します。接客サービス労働は、製造業などの労働とくらべますと、顧客を相手にして、顧客の満足を生み出さなければならない、とても特殊な労働です。(1)その労働過程はどんな特質をもつか、(2)労務管理はどんな形をとるか、(3)労務管理は顧客と労働者にどんな影響を与えるか、などの点を中心に、サービス労働の問題を勉強します。					
【授業内容予定】 第1回 接客サービス労働とはなにか(1) 第9回 制統方法(1) 第2回 接客サービス労働とはなにか(2) 第10回 制統方法(2) 第3回 統制システム論(1) 第11回 感情労働(1) 第4回 統制システム論(2) 第12回 感情労働(2) 第5回 統制システム論(3) 第13回 労働移転(1) 第6回 3極関係(1) 第14回 労働移転(2) 第7回 3極関係(2) 第15回 まとめ 第8回 3極関係(3)					
【教材・テキスト】 鈴木和雄『接客サービスの労働過程論』御茶の水書房、2012年。					
【参考文献】 鈴木和雄『労働過程論の展開』学文社、2001年。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業での報告、討論、および研究成果によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式です。					
【留意点・予備知識等】 接客サービス労働はとても身近な労働なので、興味をもって勉強することができます。					
【オフィスアワー】 金曜日 5：30～6：30					

授 業 科 目 名	比較経済論				
担 当 教 員	池田 憲隆				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本経済と他国（あるいは他地域）経済との共通点と相違点を理解すること。					
【授業の概要】					
日本と欧米の経済について、主として歴史的・制度的観点から比較・検討する。					
【授業内容予定】					
第1回 イントロダクション					
第2回 世界経済システムの形成					
第3回 イギリス産業革命					
第4回 金融システムの形成					
第5回 帝国と植民地					
第6回 世界貿易と多角的決済機構					
第7回 近代の日本経済					
第8回 ビッグ・ビジネスと株式会社					
第9回 フォーディズム					
第10回 両大戦間期のヨーロッパ経済					
第11回 世界大恐慌					
第12回 世界大戦と各国経済					
第13回 戦後の世界貿易と通貨体制					
第14回 日本の高度経済成長と欧米経済					
第15回 近年の“グローバル経済”					
【教材・テキスト】					
受講生と相談の上、決定する。					
【参考文献】					
授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合がある。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表内容や勉学態度などにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式と演習形式を併用する。					
【留意点・予備知識等】					
受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更がすることがある。					
【オフィスアワー】					
木曜日 14：00～15：00					

授 業 科 目 名	比較経営史論				
担 当 教 員	恩田 睦				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本と諸外国の地域における代表的な産業について、国際競争に焦点を当てて検討することで、国際競争力の違いがどのように生まれるのかが理解できるようになる。					
【授業の概要】 明治期から第二次大戦後に至るまでの日本と諸外国の企業間の国際競争の展開について、具体的な事例研究を通じて検討する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 国際競争力の経営史の課題 第3回 国際競争力とチャンドラー・モデル—チャンドラーは国際競争をどのように見ていたか 第4回 世紀転換期における機関車製造業の国際競争—英米機関車メーカーを中心として 第5回 海運業における国際競争と協調—ボンベイ航路における日本郵船とP&O 第6回 明治期日本の民営たばこ産業と国際競争—アメリカン・タバコ社と村井兄弟商会 第7回 化学工業における開発競争と多角化戦略—アンモニア合成工業におけるBASF対日本企業 第8回 日米自動車産業の国際競争力—戦前・戦後の自動車摩擦問題をめぐって 第9回 フランス自動車部品工業の発展と国際競争—グローバル化の進展と政府のかかわり 第10回 戦後日本の陶磁器業の国際競争力—戦略を支えた制度的基盤 第11回 国産フルートの国際競争力—模造から模倣と創造へ 第12回 日本トイレタリー市場での国際競争—1960～80年代におけるP&Gの進出と日本企業との競争 第13回 アメリカ市場における塩化ビニル事業の展開—信越化学のスピード&フレキシビリティ戦略 第14回 イギリス化学企業の盛衰—ICIによる「選択と集中戦略」の末路 第15回 国際競争力の源泉としての組織能力・産業力 なお、授業内容は履修者との相談のうえ変更することもあり得る。					
【教材・テキスト】 湯沢威・鈴木恒夫・橘川武郎・佐々木聡編（2009）『国際競争力の経営史』有斐閣					
【参考文献】 特に指定しない。					
【成績評価の方法および採点基準】 各回の授業におけるディスカッションへの参加状況と最終レポートの内容を総合して評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 テキストの輪読を中心に進めるが、関連文献の調査や論点の把握もおこなう。					
【留意点・予備知識等】 それぞれの国・地域における経済状況などの基礎知識があることが前提であるので授業外でも自主的な学習を要する。					
【オフィスアワー】 木曜日（10：20～11：50）。事前にアポイントを取ってください。 E-MAIL：mutsumi@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	国際ビジネス論				
担 当 教 員	森樹男				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 さまざまな事例を通じて理解を深め、国際ビジネスの現状と課題について理解できるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル企業のさまざまな事例を取り上げ、国際ビジネスの現状の理解を深めていきます。また、ビジネスモデルの有効性について、ディスカッションをしながら考察を行っていきます。					
【授業内容予定】 テキストにしたがい、さまざまな多国籍企業の経営について考察していきます。 以下はテキストの目次を示したものです。 第1回 イントロダクション 第2回 日本型ビジネスモデルの中国展開 第3回 中国における日本企業 第4回 コマツ 第5回 ダイキン工業 第6回 クボタ 第7回 日産自動車 第8回 京セラドキュメントソリューションズ 第9回 顧客インターフェースの機能 第10回 補助的サービスの中核性 第11回 思考・感情ベースという意外なファクター 第12回 モデルの背後に流れる原理 第13回 ビジネスモデルの再構成 第14回 まとめ① 第15回 まとめ②					
【教材・テキスト】 伊丹敬之（編著）『日本型ビジネスモデルの中国展開』有斐閣，2013年。					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加と期末レポートにより総合的に評価し、集計します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読およびディスカッション					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜 11時～12時30分					

授 業 科 目 名	企業社会論				
担 当 教 員	大倉 邦夫				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 企業を社会との関係から捉える視点を身につけ、環境経営、CSR経営、ソーシャル・ビジネスのそれぞれの現状と課題について理解を得ることを目的とします。					
【授業の概要】 近年、企業と社会の関係は変化しており、企業に期待される役割や責任も変化しています。そのような中で関心を集めつつある環境経営、CSR経営、ソーシャル・ビジネスに関する最近の研究を検討していきます。また、学生自身に事例研究を行ってもらいます。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 社会の中の企業 第3回 企業の社会的責任が求められてきた背景 第4回 欧米におけるCSR経営の展開 第5回 日本におけるCSR経営の展開 第6回 トータルな企業評価のあり方 第7回 ソーシャル・ビジネス 第8回 ソーシャル・ビジネスの創出プロセス 第9回 ソーシャル・ビジネスのマネジメント 第10回 環境経営 第11回 日本における環境経営の展開 第12回 環境イノベーション 第13回 事例研究(1) 研究テーマと調査対象の決定 第14回 事例研究(2) 調査の中間報告 第15回 事例研究(3) 調査結果の発表					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回のレジュメの内容、議論への参加度、事例研究の調査結果（レポート）を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。ただし、報告者以外の受講生もレジュメは毎回作成してもらいます。					
【留意点・予備知識等】 自ら考え、自ら調査するということを実践してもらいますので、予習・復習が必ず求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日3・4時限。					

授 業 科 目 名	国際管理会計論				
担 当 教 員	加藤恵吉				
学 期	後期	曜日・時限	水曜5-6限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
国際管理会計システムの機能や構造を検討することを目標とする。					
【授業の概要】					
国際管理会計システムの機能やその学問体系の本質について教授する。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンス 第2回 管理会計の展開と国際化(1) 第3回 管理会計の展開と国際化(2) 第4回 国際管理会計の学問体系(1) 第5回 国際管理会計の学問体系(2) 第6回 管理会計意思決定の国際化 第7回 グローバル(国際)企業の業績評価 第8回 グローバル事業戦略と管理会計(1) 第9回 グローバル事業戦略と管理会計 (2) 第10回 国際資本予算 第11回 国際税務管理 (1) 第12回 国際税務管理(2) 第13回 国際資本予算 第14回 為替リスクの管理 第15回 全体の総括					
【教材・テキスト】					
受講生と相談の上決定する。					
【参考文献】					
適宜提示します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への参加 (60%)、課題の評価 (40%)					
【授業形式・形態および授業方法】					
ゼミナール方式					
【留意点・予備知識等】					
会計に関する基礎知識があるとよりわかると思いますが、意欲のある方は受入れます。 なお、社会人の方は時間等相談可。					
【オフィスアワー】					
月曜12:00～12:30					

授 業 科 目 名	国際会計論				
担 当 教 員	内藤 周子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・1・2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義における授業としての具体的到達目標は、財務会計を取り巻く経済的な環境に関する最新の実証研究や理論研究を理解することである。					
【授業の概要】 本講義では、企業活動のグローバル化の進展を背景とした財務会計の諸問題を中心に行う。したがって、会計処理と実務慣行については直接的には扱わない。					
【授業内容予定】 テキストにしたがって以下の内容を扱う予定であるが、詳細は受講生の関心などを考慮する。 第1回 イントロダクション（第1章） 第2～3回 理想的状況の会計（第2章） 第4～5回 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ（第3章） 第6～7回 効率的証券市場（第4章） 第8～9回 意思決定有用性についての情報パースペクティブ（第5章） 第10～11回 意思決定有用性についての測定パースペクティブ（第6章） 第12～13回 経済的帰結と実証会計理論（第7章） 第14～15回 コンフリクトの分析（第8章）					
【教材・テキスト】 ウィリアム・R・スコット著、太田康広、椎葉淳、西谷順平訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。					
【参考文献】 Scott, William R., <i>Financial Accounting Theory</i> , 7th Edition, Prentice Hall, 2015. 随時、案内する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表と議論の内容(50%)、課題の評価(50%)					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による報告ののちに、質疑応答を行う形式である。適宜、課題を与える。					
【留意点・予備知識等】 学部における会計学Ⅰ及びⅡ程度の知識を有していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 木曜日7・8時限					

3. 修士論文について

【修士論文の提出資格】

人文社会科学研究科規則第 18 条に定めるとおり、所定の期間在学し、必要な研究指導を受け、かつ、第 8 条に定める授業科目について、所定の 30 単位以上を修得した者又は修得見込の者。

【提出書類】

- ① 学位論文審査願 1 部 ② 学位（修士）論文目録 1 部 ③ 履歴書 1 部
- ④ 学位（修士）論文要旨 2 部（1 部コピー可） ⑤ 学位（修士）論文 2 部
- ⑥ 参考論文（ある場合） 2 部（1 部コピー可）

【注記】

1. 学位論文は A 4 版とし、2 部提出であるが、1 部はゼロックス等長期保存に耐えるコピーでもよい。
2. 用紙、様式（縦書き・横書き）等は、各専攻の指示に従うこと。
なお、論文には厚みのある表紙をつけ、研究題目・研究科・専攻・コース・研究指導分野・学籍番号・氏名を記入した用紙を貼ること。
3. 履歴事項（大学・学部・学科（課程）、年月日、職場の名称等）は省略せずに正確に記入のこと。
4. 提出期日に遅れた場合、論文の審査対象から除外するので、早めに作成作業にかかること。

【履歴書の記載方法】

学位論文提出書類の内、「履歴書」の記載にあたっては、下記の記入例により記載すること。

記入例

平成〇〇年 3 月	〇日	〇〇県立〇〇高等学校	卒業
平成〇〇年 4 月	〇日	〇〇大学〇〇学部〇〇学科（課程）	入学
平成〇〇年 3 月	〇日	〇〇大学〇〇学部〇〇学科（課程）	卒業
平成〇〇年 4 月	〇日	弘前大学大学院人文社会科学研究科	
		〇〇〇〇 専攻	入学
平成〇〇年 3 月	〇日	弘前大学大学院人文社会科学研究科	
		〇〇〇〇 専攻	修了見込み

※入学、卒業の日付は、それぞれの出身校の入学式並びに卒業式の日付にすること。

【平成 28 年度修士論文に関するスケジュール】

平成 28 年度人文社会科学研究科行事予定のページ（1 ページ）を参照。

【弘前大学大学院人文社会科学研究科 修士論文審査基準】

1. (知識) 人文社会科学分野における修士課程としての十分な知識を修得し、多角的視点から問題を的確に把握し、解明する能力を身につけていること。
2. (テーマ設定の適切性) 現状ならびにこれまでの研究史を踏まえて論文のテーマが適切に設定され、論文作成の意図や問題意識が明確に汲み取れること。

3. (学問水準)

【文化科学専攻】

3-1 (知識・理解) 人文社会科学分野の高度な専門知識を体系的に理解し、古今の文化現象について、資史料やデータに基づき、論理的で綿密な考察が行われていること。

3-2 (汎用的能力) 複雑化・多様化した諸課題を多角的視点から分析し、その解決方法を提示する能力が反映されていること。

【応用社会科学専攻】

3-1 (知識・理解) 社会科学分野の高度な専門知識を体系的に理解した上で、現実的な諸課題を多角かつ複合的な視点から分析していること。

3-2 (汎用的能力) 課題や問題に対する対処法や解決方法が示されていること。

4. (論述の適切性) 論文の記述が十分かつ適切であり、論理構成に無理や無駄が無く結論が導き出されていること。また、読者が内容を正しく理解できる工夫がなされていること。

5. (独創性) テーマ・問題設定・研究方法・結論等、論文に何らかの独自の意義が見られること。

6. (資料ならびに記述の適切性) 記述ならびに資料の引用が著作権を侵害することなく適切に行われていること。また、人権侵害など研究倫理上の問題に対して細心の注意が払われていること。

【弘前大学大学院人文社会科学研究科 個別課題報告書審査基準】

1. 個別課題報告書の基準

- ① 人文社会科学研究科規程にある「個別課題報告書」とは、指導教員による指導のもと作成された、概ね 20,000 字程度の報告書のことを指すものとする。また、この報告書は必ずしも学術的なオリジナリティを求めるものではない。その他の点においては修士論文に準ずる。但し、具体的な報告書の内容や分量については、各専攻の裁量に任せることとし、この基準を厳格に適用するものではない。
- ② 「個別課題報告書」の提出があった場合、「修士論文」と同様の審査及び最終試験を実施するものとする。すなわち、最終試験においては各専攻の内容に応じて、口述試験を行うものとする。

4. 専修免許状の教科に関する科目表

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする研究科・専攻等		認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目			専任教員				備考
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	文化科学専攻	中専免 (国語) 高専免 (国語)	国語の 教科に 関する 科目	24	日本近現代文学		2					
	1 免許状取得に必要な最低 取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社 会科学）				日本近代文学		2					
					日本古典文学		2					
					日本古典文化論		2					
					中国言語文化論		2					
					中国文化論		2					
					日本語史論		2					
					日本語史方法論		2					
					社会言語学		2					
					地域言語論		2					
					日本語教育論B		2					
					表現技術論		2					
					言語教育論		2					
					民俗学		2					
					東北民俗学		2					
					アジア文芸学		2					
					日本語学		2					

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする 研究科・専攻等		認定を受けようとする 免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考	
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	文化科学専攻	中専免 (英語) 高専免 (英語)	英語の 教科に 関する 科目	24	アメリカ近代文化論		2					
	1 免許状取得に必要な最低 取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社 会科学）				イギリス・ルネサンス文化論		2					
					イギリス近代文化論A		2					
					イギリス近代文化論B		2					
					イギリス文学・文化研究		2					
					意味論		2					
					語彙意味論		2					
					言語文化論		2					
					統語論		2					
					米文学		2					
					英文学A		2					
					英文学B		2					
					英文学C		2					
					英文学D		2					
					応用言語学		2					
					言語基礎論		2					

[illegible]

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする 研究科・専攻等		認定を受けようとする 免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目			専任教員				備考
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	応用社会科学専攻 1 免許状取得に必要な最低 取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社会科学）	中専免 （社会）	社会の教科に関する科目	24	地域社会学 農村社会史 開発政策論 地域経済論 アジア経済論 日本経済論 憲法 人権論 行政法 行政救済法 政治学 比較政治論 行政学 地方自治論 工業経済学 産業発展論 労働経済学 北東北雇用政策論 マクロ経済学 マクロ経済分析論 産業組織論 ミクロ経済学 政治経済学 労働過程論 経済学史論 経済思想論 日本経済史論 比較経済論 経済学		2 2					

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする 研究科・専攻等		認定を受けようとする 免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考	
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	文化科学専攻 1 免許状取得に必要な最低 取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社会科学）	高専免 (地理歴史)	地理歴史の教科に関する科目	24	日本歴史論 北東北歴史論 中国近世史論 中国歴史論 中国思想文化論 東アジア思想文化論 西洋歴史論 グローバルヒストリー論 日本考古学 東北考古学 西洋考古学 古代地中海文化論 日本東洋美術史論 南アジア地域研究 南アジア史論 アジア諸民族史論 前近代ユーラシア史論 中国社会論 考古学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2						

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする 研究科・専攻等		認定を受けようとする 免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考	
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	応用社会科学専攻	高専免 (地理歴史)	地理歴史の教科に関する科目	24	農村社会史		2					
					日本経済史論		2					
					比較経済論		2					
					地域経済論		2					
					アジア経済論		2					
					日本経済論		2					
					経済学史論		2					
					地域科学		2					
					地域政策評価論		2					
					経営史		2					
					比較経営史論		2					
					地理情報科学		2					
					都市・地域情報分析論		2					
	1 免許状取得に必要な最低 取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社会科学）											

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする研究科・専攻等		認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考	
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	文化科学専攻 1 免許状取得に必要な最低取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社会科学）	高専免 (公民)	公民の教科に関する科目	24	西洋古典学		2					
					ヨーロッパ古典文化論		2					
					現代倫理学		2					
					西洋倫理思想史論		2					
					日本倫理思想史論		2					
					日本思想論		2					
					宗教学		2					
					比較宗教学		2					
					近世哲学史論		2					
					現代哲学		2					
					社会心理学A		2					
					ネットワーク社会心理学		2					
					文化社会学		2					
					情緒社会学		2					
					宗教学・民俗学		2					
					哲学		2					
					倫理学		2					

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要														
認定を受けようとする研究科・専攻等		認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目		専任教員				備考			
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数								
						必修	選択							
人文社会科学 研究科	応用社会科学専攻 1 免許状取得に必要な最低取得単位数 24単位 2 修士の学位 修士（人文社会科学）	高専免 (公民)	公民の教科に関する科目	24	地域社会学		2							
					開発政策論		2							
					憲法		2							
					人権論		2							
					行政法		2							
					行政救済法		2							
					政治学		2							
					比較政治論		2							
					行政学		2							
					地方自治論		2							
					工業経済学		2							
					産業発展論		2							
					労働経済学		2							
					北東北雇用政策論		2							
					マクロ経済学		2							
					マクロ経済分析論		2							
					産業組織論		2							
					ミクロ経済学		2							
					政治経済学		2							
					労働過程論		2							
					経済思想論		2							
					経済学		2							

認定を受けようとする研究科・専攻等の教育課程及び教員組織の概要												
認定を受けようとする 研究科・専攻等		認定を受けようとする 免許状の種類	免許法施行規則に定める科目等区分		左記に対応する開設授業科目			専任教員				備考
研究科	専攻等		科目	単位	授業科目	単位数						
						必修	選択					
人文社会科学 研究科	応用社会科学専攻	高専免 (商業)	商業の教科に関する科目	24	応用経営統計論		2					
	経営統計学					2						
	金融論					2						
	地域金融論					2						
	マイクロファイナンス論					2						
	開発投資論					2						
	人的資源管理論					2						
	地域人材開発論					2						
	マーケティング論					2						
	北東北商業政策論					2						
	経営管理論					2						
	起業論					2						
	民法					2						
	民事司法論					2						
	商法					2						
	経済法制論					2						
	グローバル経営論					2						
	国際ビジネス論					2						
	会計システム論					2						
	情報会計論					2						
	国際管理会計論					2						
	実証会計学					2						
	国際会計論					2						
	財務報告論					2						
	I T 監査論					2						
	国際 I T 監査論					2						
	経営組織論					2						
	企業社会論					2						
	経営学					2						

○弘前大学大学院人文社会科学研究科規程

(趣旨)

- 第1条 弘前大学大学院人文社会科学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は、弘前大学大学院学則（平成16年規則第3号。以下「大学院学則」という。）及び弘前大学学位規則（平成16年規則第4号）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。
- 2 大学院学則及びこの規程に定めのある場合を除いて、研究科に関する事項は、研究科委員会が定める。

(専攻及びコース)

- 第2条 学生は、次に掲げる専攻のうち、いずれか一つを選び、かつ、当該専攻におけるコースのうち、いずれか一つに属するものとする。

専 攻	コ ー ス
文 化 科 学	総合文化社会研究，地域人材育成，国際人材育成
応用社会科学	総合文化社会研究，地域人材育成，国際人材育成

(教育研究上の目的)

- 第2条の2 研究科は、広い視野に立って精深な学識を授け、人文社会科学の専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する人材を養成することを目的とする。
- 2 各専攻の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 文化科学専攻
- 現代社会を作り上げた人間とその歴史、文化のさまざまな在り方について深くかつ広い視野から探求し、そこから見いだされる叡智を未来に生かし得る人材を養成することを目的とする。
- (2) 応用社会科学専攻
- 経済学、経営学、法学、政治学、社会学など社会科学全体を横断的に連携させ、高度な専門教育を行うとともに、複雑化、高度化しつつ進展する社会経済システムを多角的かつ複合的な視点から把握し分析する能力を有する人材を養成することを目的とする。

(指導教員)

- 第3条 研究科の教育、研究及び論文の指導のため、主指導教員及び副指導教員を置く。
- 2 主指導教員は、当該専攻における研究科担当の教授をもって充てる。ただし、必要があるときは、准教授又は講師をもってこれに充てることができる。
- 3 副指導教員は1人以上とし、当該専攻における研究科担当の教授、准教授、講師又は助教をもってこれに充てることができる。

(教育方法)

- 第4条 修士課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第5条 研究科委員会が教育上特別の必要があると認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に授業及び研究指導を行うことができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第6条 大学院において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了すること（以下「長期履修学生」という。）を希望する旨を申し出たときは、当該研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項に規定するもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目及び単位)

第7条 研究科の専攻別授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

(履修方法)

第8条 学生は、指導教員の指導に基づき、別表に定めるところにより、30単位以上を修得しなければならない。

2 主指導教員が特に必要と認めるときは、授業科目担当教員の承認を得て、人文社会科学部の授業科目を履修し、単位を修得することができる。

(履修授業科目の届出)

第9条 学生は、履修しようとする授業科目を、指定の期日までに研究科長に届け出て承認を得なければならない。

2 前項の手続終了後は、特別の事情が生じた場合以外は、履修授業科目を変更することができない。

(単位修得の認定)

第10条 各授業科目の単位認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が行うものとする。

(他大学大学院の授業科目の履修)

第11条 大学院学則第18条の規定より、他大学大学院における授業科目を履修しようとする者は、履修願その他必要書類を研究科長に提出しなければならない。

2 前項の規定による願い出があった場合は、研究科委員会の議を経て許可する。

3 前項の規定により許可された者の修得した単位は、研究科委員会の議を経て、10単位を超えない範囲で研究科で修得したものとみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第12条 大学院学則第20条の規定により、学生が研究科に入学する前に研究科又は他の研究科において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、研究科委員会の議を経て、研究科に入学した後の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、転入学及び再入学の場合を除き、研究科において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

(留学)

第13条 大学院学則第43条の規定により、外国の大学の大学院に留学を志願しようとする者は、留学願その他必要書類を研究科長に提出しなければならない。

2 前項の規定による願い出があった場合は、研究科委員会の議を経て許可する。

3 前項の規定により留学した場合は、第11条第3項の規定を準用する。

(試験)

第14条 試験は、授業の終了する学期末又は学年末に行う。ただし、授業科目によっては、その他の適当な時期に行うことがある。

2 学生は、第9条の手続きを経て履修した授業科目についてのみ受験することができる。

(追試験)

第15条 やむを得ない事情により試験に欠席した者に対しては、専攻代表者会議で審議の上、追試験を行うことがある。

2 追試験を受けようとする者は、当該授業科目試験終了後7日以内に追試験願（病気の場合は医師の診断書もしくは受診を証明するものを、また、事故の場合はその証明書を添付）を研究科長に提出しなければならない。

3 追試験は、原則としてそれぞれの学期の試験終了後30日以内に期日を指定して行う。

(成績)

第16条 成績の評語及び評点は、次のとおりとし、可以上を合格とする。

秀	100～90
優	89～80
良	79～70
可	69～60
不可	59以下

(コースの変更)

第17条 コースの変更は、特別の事情が生じた場合に限り、研究科委員会の議を経て許可することがある。

2 コースを変更した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て決定する。

(修士論文の提出資格)

第18条 研究科に所定の期間在学し、必要な研究指導を受け、かつ、第8条に定める授業科目について、30単位以上を修得した者又は修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

(最終試験)

第19条 最終試験は、所定の単位を修得し、かつ、修士論文を提出した者について、専攻別に行うものとする。

(修士課程修了の認定)

第20条 研究科に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、修士課程を修了したものと認定する。

2 文化科学専攻及び応用社会科学専攻において地域人材育成コース及び国際人材育成コースに属する者に係る第18条、第19条及び前項の規定については、これらの規定中「修士論文」とあるのは「修士論文又は個別課題報告書」と読み替えて適用する。

(教員免許状授与の所要資格の取得)

第21条 中学校又は高等学校の教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許教科に係る中学校又は高等学校の教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年

文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 研究科において当該所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

専攻	取得できる免許状	
	種類	免許教科
文化科学	中学校教諭専修免許状	国語，社会，英語
	高等学校教諭専修免許状	国語，地理歴史，公民，英語
応用社会科学	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史，公民，商業

(科目等履修生)

第22条 科目等履修生として研究科で開講する授業科目を履修しようとする者は、当該授業科目の授業に支障がない場合に限り、大学院学則第51条の規定により、研究科委員会の議を経て、入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生として入学しようとする者は、所定の期日までに科目等履修生入学願書に履歴書、検定料及び別に指定する書類を添えて研究科長に提出しなければならない。
- 3 科目等履修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間の延長を許可することがある。
- 4 科目等履修生として学修に適しないと研究科委員会で認めた者は、履修の許可を取り消すことがある。

(研究生)

第23条 研究科において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、大学院学則第52条の規定により、研究科委員会の議を経て研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生を志願することのできる者は、修士の学位を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められた者とする。
- 3 研究生を志願する者は、研究生入学願書、履歴書、検定料及び別に指定する書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。
- 4 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間の延長を許可することができる。
- 5 研究生が研究を修了した場合は、その研究概要を主指導教員を経て研究科長に提出し、研究科委員会の認定を受けなければならない。
- 6 研究生には、願い出により、研究科長が、研究事項につき証明書を交付する。

(聴講生)

第24条 研究科の授業を聴講しようとする者があるときは、大学院学則第54条の規定により、研究科委員会の議を経て、聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生を志願する者は、聴講生入学願書、履歴書、検定料及び別に指定する書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。
- 3 聴講生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間を延長することができる。

(特別聴講学生)

第25条 他大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生で、研究科の授業科目を履修しようとする者があるときは、大学院学則第55条の規定により、研究科委員会の議を経て特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生を志願する者は、当該大学の学長を経て、特別聴講学生入学願書その他必要書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 平成27年度以前の入学者及び平成27年度以前の入学者の属する年次に編入学、転学又は再入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

○弘前大学大学院人文社会科学研究科長期履修学生に関する取扱要項

第1 趣旨

この要項は、弘前大学大学院長期履修学生に関する規程（平成16年規程第11号）及び弘前大学大学院人文社会科学研究科規程（平成16年規程第92号）第6条第2項の規定に基づき、人文社会科学研究科（以下「本研究科」という。）における長期履修学生に関する取扱について定めるものとする。

第2 目的

本研究科において長期履修学生制度を導入することにより、社会人学生の修学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図ることを目的とする。

第3 導入時期

平成22年度入学者から

第4 対象となる社会人学生

- (1) 官公庁、企業等に在職中の者
- (2) 自ら事業を営んでいる者
- (3) その他本研究科が認めた者

第5 履修期間

3年又は4年

第6 長期履修申請書の提出期限及び提出先

(1) 提出期限

1) 入学予定者

入学前年度の2月末日（当日が休日の場合は直近の平日。以下同じ。）

2) 1年次学生

入学年度の2月末日まで

(2) 提出先

人文社会科学部総務グループ教務担当

第7 履修形態の変更

長期履修学生として許可されている者が、履修形態の変更（履修期間の短縮又は延長）を希望するときは、長期履修期間短縮・延長申請書を前項に準じて提出しなければならない。

附 則

平成28年4月1日から適用する。

別表(第7条, 第8条関係)

専攻	コース	科目区分	授 業 科 目	単位数		備 考
				必修	選択	
文 化 科 学 専 攻	総合文化社会 研究コース	共通科目	北東北研究	2		履修方法 (1)必修科目 10単位 共通科目及び特別研究を修得すること。 (2)選択科目 16単位以上 ①導入科目から1モジュール (3科目)6単位以上 ②専門科目から10単位以上を 修得すること。 (3)自由科目 4単位以上 本研究科で開講している導入科目, 専門科目及び総合科目から4単位 以上を修得すること。 ただし, 主指導教員との協議により 大学院共通科目及び他研究科の 開講する科目から2単位まで 含めることができる。 (合計 30単位以上) 修了要件 (1)本研究科に2年以上在学する こと。 (特例として1年以上とする場合 もある。) (2)30単位以上修得すること。 (3)必要な研究指導を受けたうえ 修士論文の審査及び最終試験 に合格すること。
		特別研究	特別研究Ⅰ	4		
			特別研究Ⅱ	4		
		導入科目	文化財モジュール		2	
			考古学		2	
			宗教学・民俗学		2	
			思想文芸モジュール		2	
			哲学		2	
			倫理学		2	
			文芸基礎論		2	
			アジア地域モジュール		2	
			日本語学		2	
			アジア文芸学		2	
			アジア地域学		2	
			欧米地域モジュール		2	
			言語基礎論		2	
			欧米地域学		2	
			欧米文化論		2	
			現代社会モジュール		2	
			経済学		2	
			経営学		2	
			法学		2	
		地域研究モジュール	地域雇用		2	
			地域経済		2	
		社会調査モジュール	地域企業		2	
			社会調査設計		2	
			量的調査分析		2	
		専門科目	質的調査分析		2	
			日本歴史論		2	
			中国歴史論		2	
			中国思想文化論		2	
			南アジア史論		2	
			西アジア史論		2	
			アジア諸民族史論		2	
			西洋歴史論		2	
			宗教学		2	
			民俗学		2	
			西洋考古学		2	
			日本考古学		2	
			文化財調査・研究論		2	
			文化財科学		2	
			日本東洋美術史論		2	
			芸術史論		2	
			西洋古典学		2	
			日本倫理思想史論		2	
			西洋倫理思想史論		2	
			日本近代文学		2	
			日本古典文学		2	
			中国言語文化論		2	
			中国社会論		2	
			英文学A		2	
			英文学B		2	
			英文学C		2	
			英文学D		2	
			米文学		2	
			現代アメリカ論		2	
			ドイツ近代文化・文学論		2	
			フランス言語・文化論		2	
			フランス文学		2	
			一般言語学		2	
			言語文書処理論		2	
			統語論		2	
			意味論		2	
			日本語史方法論		2	
			社会言語学		2	
			日本語教育論A		2	
			日本語教育論B		2	

		近世哲学史論		2	
		情緒社会学		2	
		生態人類学		2	
		社会心理学A		2	
		社会心理学B		2	
		応用言語学		2	
		現代ヨーロッパ研究		2	
		ドイツ論		2	
		文化人類学A		2	
		文化人類学B		2	
		アフリカ論		2	
		国際政治学		2	
		平和学		2	
		国際協力理論研究		2	
	総合科目	情報処理		1	
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計		10	151	
地域人材育成 コース	共通科目	北東北研究	2		履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ		4	＜修士論文選択者＞
		特別研究Ⅱ		4	(1)必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ	2		共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ	4		(2)選択科目 26単位以上
	導入科目	地域研究 モジュール	2		①特別研究 8単位
		地域経済	2		②導入科目から2モジュール
		地域企業	2		(6科目)12単位以上
	社会調査 モジュール	社会調査設計	2		③専門科目から6単位以上を
		量的調査分析	2		修得すること。ただし応用社会
		質的調査分析	2		科学専攻地域人材育成コースの
	文化財 モジュール	美術史	2		専門科目から2単位まで含める
		考古学	2		ことができる。
		宗教学・民俗学	2		(3)自由科目 2単位以上
	アジア地域 モジュール	日本語学	2		本研究科で開講している導入科目、
		アジア文芸学	2		専門科目及び総合科目から2単位
		アジア地域学	2		以上を修得すること。
	欧米地域 モジュール	言語基礎論	2		ただし、主指導教員との協議により
		欧米地域学	2		大学院共通科目及び他研究科の
		欧米文化論	2		開講する科目から2単位まで
	現代社会 モジュール	経済学	2		含めることができる。
		経営学	2		(合計 30単位以上)
		法学	2		
	専門科目	北東北歴史論	2		＜個別課題報告書選択者＞
		東北民俗学	2		(1)必修科目 2単位
		東北考古学	2		共通科目を修得すること。
		文化財保存・活用論	2		(2)選択科目 24単位以上
		地域文化財保存論	2		①プロジェクト研究 6単位
		美術史調査論	2		②導入科目から2モジュール
		芸術文化史論	2		(6科目)12単位以上
		日本古典文化論	2		③専門科目から6単位以上を
		地域言語論	2		修得すること。ただし応用社会
		文化社会学	2		科学専攻地域人材育成コースの
		ネットワーク社会心理学	2		専門科目から2単位まで含める
		フィールドワーク社会心理学	2		ことができる。
		民族誌論	2		(3)自由科目 4単位以上
		(以下余白)			本研究科で開講している導入科目、
					専門科目及び総合科目から4単位
					以上を修得すること。
					ただし、主指導教員との協議により
					大学院共通科目及び他研究科の
					開講する科目から2単位まで
					含めることができる。
					(合計 30単位以上)
					修了要件
					(1)本研究科に2年以上在学する
					こと。

					(特例として1年以上とする場合もある。)
					(2)30単位以上修得すること。
					(3)必要な研究指導を受けたうえ
					修士論文又は個別課題報告書の審査及び最終試験に合格すること。
国際人材育成コース	総合科目	情報処理		1	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 26単位以上 ①特別研究 8単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (3)自由科目 2単位以上 本研究科で開講している導入科目、専門科目及び総合科目から2単位以上を修得すること。 ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目及び他研究科の開講する科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計		2	79	
	共通科目	北東北研究		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 26単位以上 ①特別研究 8単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (3)自由科目 2単位以上 本研究科で開講している導入科目、専門科目及び総合科目から2単位以上を修得すること。 ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目及び他研究科の開講する科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
	特別研究	特別研究Ⅰ		4	
		特別研究Ⅱ		4	
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ		2	
		プロジェクト研究Ⅱ		4	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 26単位以上 ①特別研究 8単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (3)自由科目 2単位以上 本研究科で開講している導入科目、専門科目及び総合科目から2単位以上を修得すること。 ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目及び他研究科の開講する科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
	導入科目	外国語モジュール	国際関係	2	
			国際経済・経営	2	
			海外事情	2	
		日本モジュール	日本事情	2	
			日本社会	2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
			日本経済	2	
		文化財モジュール	美術史	2	
			考古学	2	
			宗教学・民俗学	2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		アジア地域モジュール	日本語学	2	
			アジア文芸学	2	
			アジア地域学	2	
		欧米地域モジュール	言語基礎論	2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
			欧米地域学	2	
			欧米文化論	2	
		現代社会モジュール	経済学	2	
			経営学	2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
			法学	2	
	専門科目	中国近世史論		2	
		東アジア思想文化論		2	
		南アジア地域研究		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		イスラーム地域研究		2	
		前近代ユーラシア史論		2	
		グローバルヒストリー論		2	
		比較宗教学		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		古代地中海文化論		2	
		ヨーロッパ古典文化論		2	
		日本思想論		2	
		現代倫理学		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		日本近現代文学		2	
		中国文化論		2	
		現代中国論		2	
		イギリス・ルネサンス文化論		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		イギリス近代文化論A		2	
		イギリス近代文化論B		2	
		イギリス文学・文化研究		2	
		アメリカ近代文化論		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		アメリカ社会研究		2	
		ヨーロッパ近代文化・文学論		2	
		ヨーロッパ現代文化論		2	
		フランス文芸論		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		言語類型論		2	
		国際文書規格論		2	
		言語文化論		2	
		語彙意味論		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		日本語史論		2	
		言語教育論		2	
		表現技術論		2	
		現代哲学		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		国際協力人類学		2	
		国際言語研究		2	
		現代フランス研究		2	
		ヨーロッパ文明論		2	履修方法 〈修士論文選択者〉 (1)必修科目 2単位 共通科目を修得すること。 (2)選択科目 24単位以上 ①プロジェクト研究 6単位 ②導入科目から2モジュール(6科目)12単位以上 ③専門科目から6単位以上を修得すること。ただし応用社会科学専攻国際人材育成コースの専門科目から2単位まで含めることができる。 (合計 30単位以上)
		ジェンダー人類学		2	

応 用 社 会 科 学 専 攻	総合文化社会 研究コース	総合科目	アフリカ地域研究		2	履修方法 (1)必修科目 10単位 共通科目及び特別研究を修得すること。 (2)選択科目 16単位以上 ①導入科目から1モジュール (3科目)6単位以上 ②専門科目から10単位以上を 修得すること。 (3)自由科目 4単位以上 本研究科で開講している導入科目、 専門科目及び総合科目から4単位 以上を修得すること。 ただし、主指導教員との協議により 大学院共通科目及び他研究科の 開講する科目から2単位まで 含めることができる。 (合計 30単位以上) 修了要件 (1)本研究科に2年以上在学する こと。 (特例として1年以上とする場合 もある。) (2)30単位以上修得すること。 (3)必要な研究指導を受けたうえ 修士論文の審査及び最終試験 に合格すること。
			国際援助開発論		2	
			平和構築論		2	
			ガバナンス理論研究		2	
			情報処理		1	
			日本語・日本語論文作成技法		1	
			英語論文作成技法		1	
			合 計	2	133	
		共通科目	北東北研究		2	
			特別研究Ⅰ		4	
		特別研究	特別研究Ⅱ		4	
		導入科目	文化財モジュール	美術史	2	
				考古学	2	
				宗教学・民俗学	2	
			思想文芸モジュール	哲学	2	
				倫理学	2	
				文芸基礎論	2	
			アジア地域モジュール	日本語学	2	
				アジア文芸学	2	
				アジア地域学	2	
			欧米地域モジュール	言語基礎論	2	
		現代社会モジュール		欧米地域学	2	
				欧米文化論	2	
		地域研究モジュール		経済学	2	
				経営学	2	
		社会調査モジュール		法学	2	
				地域雇用	2	
		専門科目		地域経済	2	
				地域企業	2	
				社会調査設計	2	
				量的調査分析	2	
				質的調査分析	2	
				都市社会学	2	
				地域社会学	2	
				環境社会学	2	
				応用社会学	2	
				地域経済論	2	
				財政学	2	
				アジア企業論	2	
				日本経済論	2	
				国際経済学	2	
				労働法	2	
				憲法	2	
				行政法	2	
				政治学	2	
				行政学	2	
				工業経済学	2	
				労働経済学	2	
				刑法	2	
				裁判法	2	
				マクロ経済学	2	
				ミクロ経済学	2	
				政治経済学	2	
				経済学史論	2	
				日本経済史論	2	
				経営統計学	2	
				社会統計学	2	
				金融論	2	
				開発投資論	2	
				地域科学	2	
				地理情報科学	2	
				マーケティング論	2	
				イノベーション論	2	
				経営管理論	2	
				人的資源管理論	2	
				組織行動論	2	
					2	

		商法		2	
		民法		2	
		経営史		2	
		グローバル経営論		2	
		経営組織論		2	
		実証会計学		2	
		財務報告論		2	
		原価計算論		2	
		IT監査論		2	
		情報会計論		2	
		職業社会論		2	
	総合科目	情報処理		1	
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計		10	135	
地域人材育成 コース	共通科目	北東北研究		2	履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ		4	〈修士論文選択者〉
		特別研究Ⅱ		4	(1)必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ		2	共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ		4	(2)選択科目 26単位以上
	導入科目	地域研究 モジュール		2	①特別研究 8単位
		地域経済		2	②導入科目から2モジュール
		地域企業		2	(6科目)12単位以上
	社会調査 モジュール	社会調査設計		2	③専門科目から6単位以上を
		量的調査分析		2	修得すること。ただし文化科学
		質的調査分析		2	専攻地域人材育成コースの
	文化財 モジュール	美術史		2	専門科目から2単位まで含める
		考古学		2	ことができる。
		宗教学・民俗学		2	(3)自由科目 2単位以上
	アジア地域 モジュール	日本語学		2	本研究科で開講している導入科目、
		アジア文芸学		2	専門科目及び総合科目から2単位
		アジア地域学		2	以上を修得すること。
	欧米地域 モジュール	言語基礎論		2	ただし、主指導教員との協議により
		欧米地域学		2	大学院共通科目及び他研究科の
		欧米文化論		2	開講する科目から2単位まで
	現代社会 モジュール	経済学		2	含めることができる。
		経営学		2	(合計 30単位以上)
		法学		2	
	専門科目	都市貧困論		2	〈個別課題報告書選択者〉
		農村社会史		2	(1)必修科目 2単位
		地域活動論		2	共通科目を修得すること。
		合意形成論		2	(2)選択科目 24単位以上
		開発政策論		2	①プロジェクト研究 6単位
		地方財政論		2	②導入科目から2モジュール
		社会保障法		2	(6科目)12単位以上
		人権論		2	③専門科目から6単位以上を
		行政救済法		2	修得すること。ただし文化科学
		地方自治論		2	専攻地域人材育成コースの
		北東北雇用政策論		2	専門科目から2単位まで含める
		刑事司法論		2	ことができる。
		地域司法論		2	(3)自由科目 4単位以上
		マクロ経済分析論		2	本研究科で開講している導入科目、
		産業組織論		2	専門科目及び総合科目から4単位
		経済思想論		2	以上を修得すること。
		応用経営統計論		2	ただし、主指導教員との協議により
		応用社会統計論		2	大学院共通科目及び他研究科の
		地域金融論		2	開講する科目から2単位まで
		地域政策評価論		2	含めることができる。
		都市・地域情報分析論		2	(合計 30単位以上)
		北東北商業政策論		2	
		起業論		2	修了要件
		地域人材開発論		2	(1)本研究科に2年以上在学する
		地域イノベーション論		2	こと。
		経済法制論		2	(特例として1年以上とする場合
		民事司法論		2	もある。)
		会計システム論		2	(2)30単位以上修得すること。

		キャリア形成論 (以下余白)	2	(3)必要な研究指導を受けたうえ 修士論文又は個別課題報告書 の審査及び最終試験に合格する こと。
	総合科目	情報処理	1	
		日本語・日本語論文作成技法	1	
		英語論文作成技法	1	
	合 計		2	111
国際人材育成 コース	共通科目	北東北研究	2	履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ	4	<修士論文選択者>
		特別研究Ⅱ	4	(1)必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ	2	共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ	4	(2)選択科目 26単位以上
	導入科目	外国語モジュール	2	①特別研究 8単位
		国際経済・経営	2	②導入科目から2モジュール
		海外事情	2	(6科目)12単位以上
		日本モジュール	2	③専門科目から6単位以上を
		日本社会	2	修得すること。ただし文化科学
		日本経済	2	専攻国際人材育成コースの
		文化財モジュール	2	専門科目から2単位まで含める
		美術史	2	ことができる。
		考古学	2	(3)自由科目 2単位以上
		宗教学・民俗学	2	本研究科で開講している導入科目、
		アジア地域モジュール	2	専門科目及び総合科目から2単位
		日本語学	2	以上を修得すること。
		アジア文芸学	2	ただし、主指導教員との協議により
		アジア地域学	2	大学院共通科目及び他研究科の
		欧米地域モジュール	2	開講する科目から2単位まで
		言語基礎論	2	含めることができる。
		欧米地域学	2	(合計 30単位以上)
		欧米文化論	2	
		現代社会モジュール	2	
		経済学	2	
		経営学	2	
		法学	2	
	専門科目	東アジア企業論	2	<個別課題報告書選択者>
		アジア経済論	2	(1)必修科目 2単位
		産業立地論	2	共通科目を修得すること。
		比較政治論	2	(2)選択科目 24単位以上
		産業発展論	2	①プロジェクト研究 6単位
		労働過程論	2	②導入科目から2モジュール
		比較経済論	2	(6科目)12単位以上
		マイクロファイナンス論	2	③専門科目から6単位以上を
		国際組織行動論	2	修得すること。ただし文化科学
		比較経営史論	2	専攻国際人材育成コースの
		国際ビジネス論	2	専門科目から2単位まで含める
		企業社会学	2	ことができる。
		国際管理会計論	2	(3)自由科目 4単位以上
		国際会計論	2	本研究科で開講している導入科目、
		国際IT監査論	2	専門科目及び総合科目から4単位
		(以下余白)		以上を修得すること。
				ただし、主指導教員との協議により
				大学院共通科目及び他研究科の
				開講する科目から2単位まで
				含めることができる。
				(合計 30単位以上)
				修了要件
				(1)本研究科に2年以上在学する
				こと。
				(特例として1年以上とする場合
				もある。)
				(2)30単位以上修得すること。
				(3)必要な研究指導を受けたうえ
				修士論文又は個別課題報告書
				の審査及び最終試験に合格する
				こと。
	総合科目	情報処理	1	
		日本語・日本語論文作成技法	1	
		英語論文作成技法	1	
	合 計		2	83